

いちき串木野市学校施設長寿命化計画



令和4年2月

いちき串木野市

目 次

序章 学校施設の長寿命化計画の背景・目的等

1. 背景と目的	1
2. 計画の位置づけ	2
3. 計画期間	7
4. 計画における対象施設	7

第1章 学校施設の目指すべき姿

1. 学校施設の今日的な課題	8
(1) 安全・快適な学校施設の環境向上	8
(2) 児童・生徒の減少に伴う適正な学校の再編	8
(3) 社会の変化に対応した教育機器・教材の拡充	8
(4) 生活空間としての施設の充実	9
(5) 地域のコミュニティ施設としての活用	9
2. 学校施設のあり方	10

第2章 学校施設の実態

1. 学校施設を取り巻く状況	11
(1) いちき串木野市の概況	11
(2) 人口・世帯数の推移	12
(3) 年齢別人口の推移	13
(4) 将来人口	14
(5) 小学校区別人口の推移	15
(6) 財政状況	16
2. 運営状況・活用状況の把握	20
(1) 公共施設全体の保有状況	20
(2) 学校施設の保有状況	21
(3) 児童・生徒数及び学級数の変化	24
(4) 職員数の推移	29
(5) 学校施設の配置状況	30
(6) 学校の維持管理コスト	33
(7) 学校施設の実態を踏まえた課題	38
3. 学校施設の老朽化状況	40
(1) 学校施設の老朽化状況の把握	40
(2) 学校施設の老朽化所見	52

第3章 学校施設整備の基本方針

1. 学校施設の規模・配置計画等の方針	54
(1) 適正配置の方策	54
(2) 配置計画の展望	55
2. 改修等の基本的な方針	56
(1) 長寿命化の方針	56
(2) 予防保全の方針	59
(3) 目標使用年数の設定	60
(4) 改修周期の設定	61

第4章 基本的な方針を踏まえた施設整備の水準

1. 改修等の整備水準	62
2. 維持管理の項目・手法等	64
(1) 維持管理の必要性	64
(2) 維持管理の項目	65
(3) 点検・評価結果の蓄積	67

第5章 長寿命化の実施計画

1. 施設評価及び優先順位	68
(1) 施設評価	68
(2) 改修等の優先順位	68
2. ライフサイクルコストの算定	69
3. 事業計画策定	73
(1) 実施単価	73
(2) 今後10年間の事業計画	74
(3) 事業推進のための財源	76

第6章 長寿命化計画の継続的な運営方針

1. 情報基盤の整備と活用	77
(1) 施設カルテ及び建物目視調査票の作成	77
(2) データベース及び簡易マニュアルの作成	77
(3) データベースの活用	77
2. 推進体制等の整備	78
3. フォローアップ	79

序章 学校施設の長寿命化計画の背景・目的等

1. 背景と目的

本市の学校施設は、昭和 30 年半ばから平成 10 年半ばまで、約 40 年間にかけて整備が行われており、築 30 年以上を経過する建物棟数が全体の 8 割半ばを占めている状態です。

その中で、校舎、屋内運動場等の主要建物の合計 74 棟のうち、旧耐震基準である昭和 56 年（1981）以前に建設されたものが 44 棟あり、200 m²を超える建物の耐震診断を行い、診断結果に基づいた耐震補強工事等を実施して耐震補強が実施されています。

しかし、耐震補強を行った建物を含め、建築から長い年数が経過した建物や設備の老朽化により、今後、建替え又は大規模改修に多額の費用が必要になると考えられます。

しかしながら、厳しい財政状況の中、学校施設の整備を集中的に行うことは困難であり、財政運営に大きな影響を与えることから、計画的な施設整備を行う必要があります。

全国的に同様の傾向が見られる中、文部科学省は、「学校施設の長寿命化計画策定に係る手引」を公表し、単なる更新のための改修・改築ではなく、施設を長い期間、有効利用できる長寿命化改修への転換、計画的な維持管理に向けた中長期計画の策定・実施の考え方を示しています。

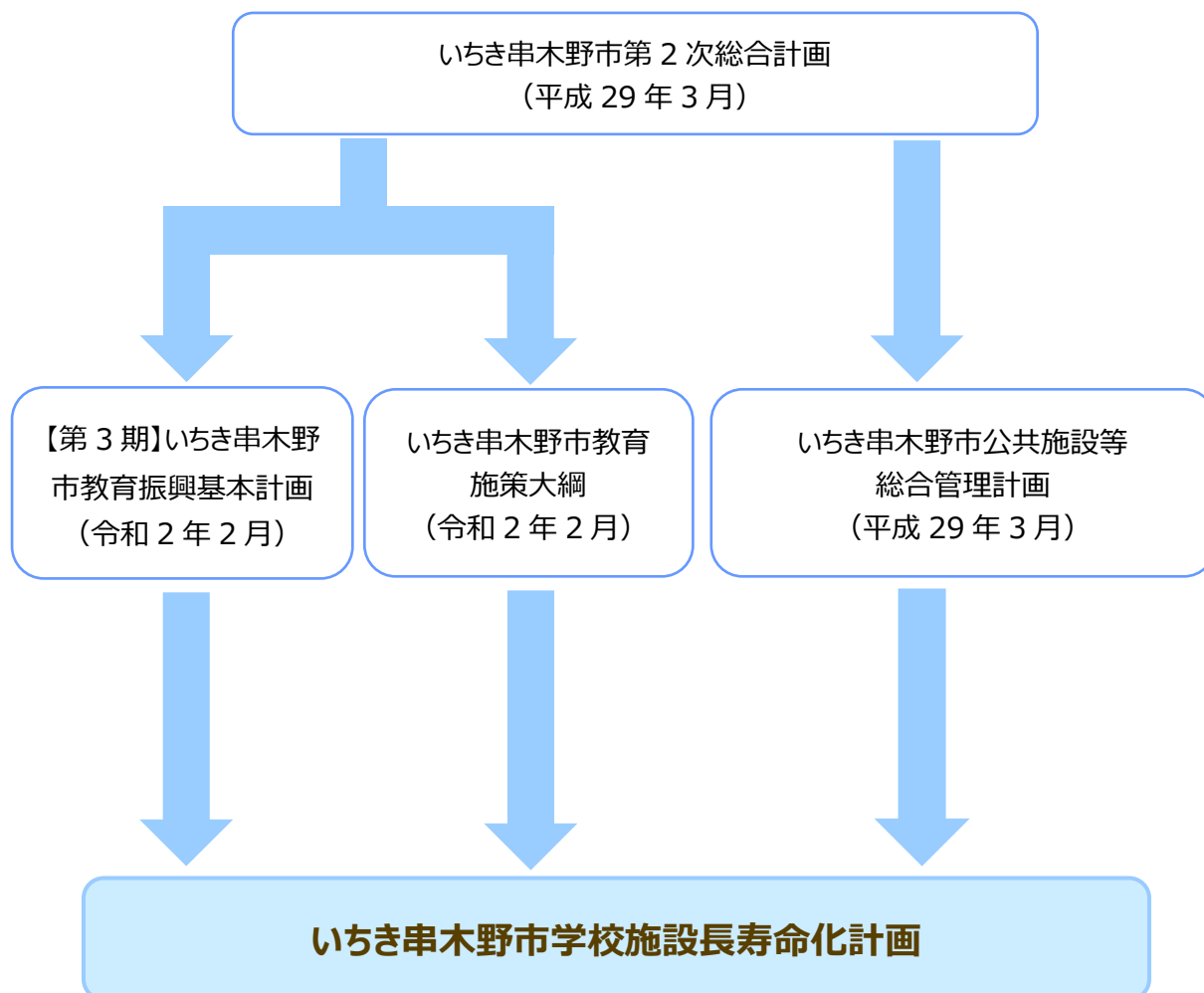
学校施設長寿命化計画（以下「本計画」という）は、以下の背景を踏まえ、中長期的な視点から学校施設として求められる機能や役割等を考慮しながら長寿命化改修、建替等の方向性や優先順位等を設定し、施設整備に要するライフサイクルコストの縮減、財政負担の平準化、児童生徒の安全性の確保や適正な教育環境の充実に資することを目的として、策定するものです。

* 学校施設長寿命化計画の背景

中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減・予算の平準化を実現しつつ、こうした学校施設に求められる機能を確保するため、域内の学校施設の老朽化等の状況を把握し、地域における学校施設の役割等を考慮した上で、長期的な施設整備の具体的方針・計画を示すものである。

2. 計画の位置づけ

本計画は、以下の上位・関連計画を踏まえ、それらの内容との整合を図りながら、多様な機能や役割を充足しつつ、施設整備を計画的に行い、長寿命化を図ることを目的として策定します。次頁で上位計画である「いちき串木野市第2次総合計画」「いちき串木野市公共施設等総合管理計画」「【第3期】いちき串木野市教育振興基本計画」「いちき串木野市教育施策大綱」について学校施設に関する内容を整理します。



いちき串木野市第 2 次総合計画	
策定年	平成 29 年 3 月
計画期間	平成 29 年度（2017 年度）～2026 年度
将来都市像	ひとが輝き 文化の薫る 世界に拓かれたまち
施策の大綱	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民と行政とのパートナーシップによる『共生・協同のまちづくり』 ・ 健康で文化的な生活を営める『元気で安心できるまちづくり』 ・ 世界に羽ばたく力強い産業が展開する『活力ある産業のまちづくり』 ・ 利便性が高く美しいまちを創造する『快適な環境のまちづくり』
学校施設に関する内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 2 編 基本構想 第 2 章 施設の大綱 第 2 節 健康で文化的な生活を営める『元気で安心できるまちづくり』 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 2. 保険・医療・福祉 3) 子育て支援体制の充実 <主要施策> (1) 子ども・子育て支援事業計画の推進 <ul style="list-style-type: none"> ① 延長保育事業 ➢ 3. 教育文化 2) 学校教育の充実 <主要施策> (5) 特別支援教育の充実 <ul style="list-style-type: none"> ① 個々の教育需要へ対応できる体制づくり（合理的配慮） (6) 幼・小・中・高間の連携の推進 <ul style="list-style-type: none"> ① 小中一貫教育の推進 (9) 教育環境の整備・充実 <ul style="list-style-type: none"> ② 遠距離通学の支援 ③ 情報教育関係設備等の充実 ④ 年次計画による改修等 (12) 学校の統廃合の検討

いちき串木野市公共施設等総合管理計画	
策定年	平成 29 年 3 月
計画期間	平成 28 年度（2016 年）～2025 年度：10 年間
学校施設に関する内容	<p>第 7 章 施設類型ごとの管理に関する基本的な方針</p> <p>4 学校教育系施設</p> <p>(2) 施設の現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和 56 年以前に建設され、地震に対する安全性が現行の建築基準法に適合しない校舎・体育館は平成 27 年度までに耐震化を終えている。また、耐震改修に合わせ、老朽化した施設の大規模改修も実施している。 ・耐震基準を満たしている校舎・体育館は、ほとんどの施設で建築後 30 年を超えており、今後、大規模改修・補修等が必要となる。木造校舎である旭小学校は、平成 25 年度に大規模改修を実施している。 ・小中学校の再編に向けた検討を進める必要がある。 <p>(3) 今後の管理方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老朽化した施設は、長期にわたり有効に活用するため、計画的に補修工事、大規模改修を行う。 ・児童・生徒の減少や教育課程等の見直しなどにより、校舎・部室などの施設は集約化、使用しなくなる施設は除却などを行い、保有施設の適正化を図る。 ・老朽化が著しい施設は、児童・生徒数や利用状況などを勘案し、建替え時には規模縮小などを行い、保有総量の縮減を図る。 ・中長期的な視点から計画的な予防保全型の管理や修繕を行い、施設の長寿命化を図ることで、施設の維持管理費の縮減を図る。 ・学校規模適正化委員会の提言や国から示された公立小・中学校の適正化規模・適正配置等に関する手引きを参考に、保護者・地域の意見等を踏まえ、小中学校の再編・整理に取り組む。
	<p>5 子育て支援施設</p> <p>(2) 施設の現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各施設は、屋根防水・外壁塗装、内装などの改修工事を年次的に実施しているが、建築後 30 年前後の施設が多いことから、今後、大規模改修・補修等が必要となる。また、幼稚園・保育園は耐震基準を満たしている。 ・少子化に伴い、子育て支援施設の再編・整理に向けた検討を進める必要がある。 <p>(3) 今後の管理方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老朽化した施設は、長期にわたり有効に活用するため、計画的に補修工事、大規模改修を行う。 ・老朽化が著しい施設は、利用状況の検証や将来にわたる利活用の必要性を検討した上で、建替え時に、規模縮小、統合、廃止などを行い、保有総量の縮減を図る。 ・中長期的な視点から計画的な予防保全型の管理や修繕を行い、施設の長寿命化を図ることで、施設の維持管理費の縮減を図る。 ・少子化に伴い、園児の減少が見込まれる場合は、保護者・地域の意見等を踏まえ、子育て支援施設の再編・整理に向けた検討を進める。

【第3期】いちき串木野市教育振興基本計画	
策定年	令和2年2月
計画期間	平成28年度(2016年)～2025年度：10年間
基本目標	ふるさとを愛し、夢と志をもち、心豊かでたくましい人づくり
教育施策の方向性	I お互いの人格を尊重し、豊かな心と健やかな体を育む教育の推進 II 未来を切り拓くための能力を伸ばし、社会で自立する力を育む教育の推進 III 信頼され、地域とともにある学校づくりの推進 IV 地域全体で子どもを守り育てる環境づくりの推進 V 生涯を通して学び活躍できる環境づくりとスポーツ・文化の振興
学校施設に関する内容	II 未来を切り拓くための能力を伸ばし、社会で自立する力を育む教育の推進 ④ 幼児教育の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達や学びの連続性を踏まえ、幼稚園、保育所、小学校との連携を図る。また、教諭や保育士に対する研修の充実を図ることにより、教職員の資質向上に努める。 ・幼稚園、保育士、家庭、地域が連携し、幼稚園等の施設の開放、保護者同士の交流、子育てについての情報提供や指導・助言などの子育て支援に係る取り組みを促進する。 ⑥ 教育の情報化の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・国の「GIGA スクール構想」を踏まえ、児童生徒1人1台端末、高速通信ネットワーク及び電源キャビネットを整備するとともに、テレビ会議システムやプログラミング教育教材の充実を図るなど学校におけるICT環境を整備する。 III 信頼され、地域とともにある学校づくりの推進 ② 学校運営の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・幼・小・中・高の連携を深め、小中一貫教育協議会、小中一貫教育校の研究を進める。 ⑤ 安全・安心な学校づくり <ul style="list-style-type: none"> ・施設・建物の経年、老朽状況や学校安全点検、長期計画に基づく整備手法を精査し、長寿命化工事、大規模改造工事、修繕工事等を実施する。 ⑥ 教育環境の整備・充実 <ul style="list-style-type: none"> ・学校施設を長期にわたり有効に活用するため、老朽化した学校施設の適時適切な維持管理や、補修の実施、さらに大規模改修事業などを計画的に実施する。

いちき串木野市教育施策大綱

策定年 令和2年2月

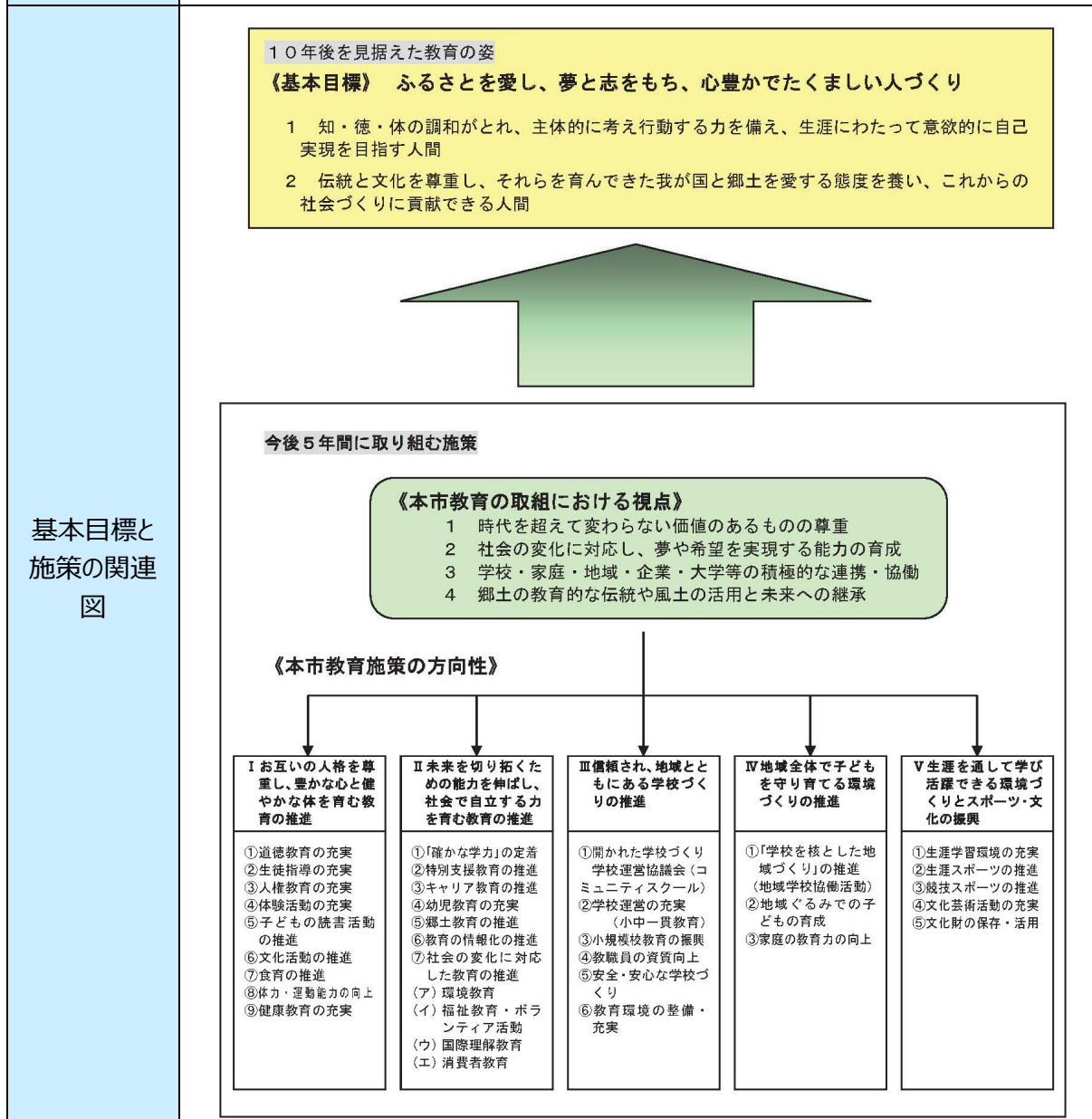
計画期間 令和2年度～令和6年度：5年間

学校施設に関する内容

I 第2次総合計画の「健康で文化的な生活を営める『元気で安心できるまちづくり』」で掲げた教育施策の推進

2 学校教育の充実

- ・幼・小・中・高の連携による学校教育の充実を図るとともに、小中一貫教育の研究を深め、目指す子ども像を共有し、9年間を見通した教育課程の編成を図る。
- ・施設・建物は、状況の精査を行い、長寿命化工事、大規模改造、修繕工事等を実施し、安全・安心な学校づくりに努める。
- ・学校統廃合については、「いちき串木野市立小・中学校の統廃合基準」に基づき対応するとともに、状況によっては、教育環境等を考慮し、統廃合も視野に入れた学校のあり方について検討する。



3. 計画期間

本計画の計画期間は、「いちき串木野市公共施設等総合管理計画」で設定されている 10 年間と同じく、今後 10 年間の事業計画を策定するものとします。

ただし、法改正等の社会的要求水準の変化を受けて、状況が変化する場合があるため、中間の 5 年を目処に計画の見直しを行います。

4. 計画における対象施設

本計画における対象施設は、下表に示す小学校 8 校、中学校 5 校、幼稚園 1 園とします。

表：対象施設一覧

区分	施設名	所在地	延床面積 (㎡)	対象建物※
小学校	くしきの 串木野小学校	いちき串木野市日出町536番地	7,630	12
	てるしま 照島小学校	いちき串木野市照島5453番地3	4,480	5
	はしま 羽島小学校	いちき串木野市羽島5359番地	3,241	4
	あさひ 旭小学校	いちき串木野市金山14067番地	1,534	7
	せいふく 生福小学校	いちき串木野市生福8605番地	2,116	4
	あらかわ 荒川小学校	いちき串木野市荒川2347番地1	1,402	5
	いちき 市来小学校	いちき串木野市大里3731番地	4,323	5
	かわかみ 川上小学校	いちき串木野市川上1200番地	1,929	3
中学校	くしきの 串木野中学校	いちき串木野市日出町700番地	9,672	7
	くしきのにし 串木野西中学校	いちき串木野市平江20226番地1	4,835	4
	はしま 羽島中学校	いちき串木野市羽島5355番地	2,804	4
	せいかん 生冠中学校	いちき串木野市生福8551番地	2,185	3
	いちき 市来中学校	いちき串木野市大里3764番地	4,648	10
幼稚園	いちき 市来幼稚園	いちき串木野市大里3731番地	746	1

資料：令和 3 年度 いちき串木野市公立学校施設台帳

※延床面積 200 ㎡超え（主施設は 200 ㎡以下でも対象）

第1章 学校施設の目指すべき姿

1. 学校施設の今日的な課題

本市の教育行政において、人口減少や超高齢社会の到来、情報通信技術の発展、グローバル化の進展等、社会情勢が急激に変化する中、次のような多くの課題があります。

(1) 安全・快適な学校施設の環境向上

本市の学校施設の耐震化は完了していますが、建築年度が古く老朽化した校舎等が残されているため、修繕等を必要とする箇所が多くなってきているのが現状です。建物の改修を計画的に進め、児童・生徒が安全かつ快適に学ぶことができる教育環境の充実を図ることが必要です。

また、少人数指導や特別支援教育等、児童・生徒の多様な教育的ニーズに応えることができる施設整備が求められています。

(2) 児童・生徒の減少に伴う適正な学校の再編

本市の児童・生徒数は、人口減少化・少子化の進行等により年々減少することが予測されます。学校教育においては、児童・生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め、協力し合い、切磋琢磨することで一人ひとりの資質や能力を伸ばしていくことが重要とされており、一定の集団規模が確保されていることが望ましいものと考えられています。一方で、小規模校としてのメリットもあり、学校は地域コミュニティの核としての役割や機能を持つ等、地域の実情により学校の在り方は異なることがあり、「適正な学校規模」を一概に判断することは難しい点もあります。

しかし、少子化が中長期的に継続すると見込まれている現状においては、学校の小規模化に伴う教育上の諸課題がこれまで以上に顕在化することが懸念されています。

このことから、少子化に対応した活力ある学校づくりの方策を継続的に検討・実施していくことが求められており、小規模校のデメリットを克服しつつ、児童・生徒にとって望ましい学校規模について、保護者や地域と一体となって検討していくことが必要です。

(3) 社会の変化に対応した教育機器・教材の拡充

グローバル化の進展等により、社会全体が急速に変化していく中で、情報化社会に対応したデジタル教材の活用や情報教育を推進するためのICT環境の充実、社会状況の変化や多様な学習活動に対応した教材の整備等を計画的に行い、児童・生徒の学習能力の向上のための教育環境の充実を図っていくことが必要です。

(4) 生活空間としての施設の充実

児童・生徒が1日の大半の時間を過ごす学校施設は、教育の場であるのみならず、生活の場として、充実した学校生活を過ごすことができる豊かで潤いのある空間としていくことが重要です。そのためには、学習の場としての整備だけでなく、交流の場の確保等多様な空間を整備することが必要です。

さらに、安全に施設が利用できるバリアフリー化や、不審者等に対する防犯対策を進めるとともに、トイレの設備等衛生的な環境整備を図る必要があります。

(5) 地域コミュニティ施設としての活用

小中学校は、学校と地域との連携による多様な交流の場として活用されています。また、災害時等の避難場所にも指定されています。このように、地域コミュニティ施設としての多様な機能に対応できる施設や設備の整備が必要です。

表：いちき串木野市の小中学校における避難所及び津波避難場所指定

	学校名	避難所指定	津波避難適応場所
小学校	串木野小学校 体育館	○	○
	照島小学校 体育館	◎	—
	羽島小学校 体育館	○	—
	旭小学校 体育館	○	—
	生福小学校 校舎	◎	—
	荒川小学校 体育館	○	○
	市来小学校 体育館	○	—
	川上小学校 体育館	○	—
中学校	串木野中学校 体育館	◎	○
	串木野西中学校 体育館	○	—
	羽島中学校	—	—
	生冠中学校 体育館	○	—
	市来中学校 体育館	○	—
幼稚園	市来幼稚園	—	—

※◎印は第一避難所を示す

資料：いちき串木野市防災ハザードマップ

2. 学校施設のあり方

本計画の方針を定めるにあたり、次のような環境や空間等が整備された学校施設を目指します。

安 全 性

- 地震、台風、大雨等に強い学校施設（非構造部材の耐震補強、照明器具等の落下防止措置）
- 防犯に対応した学校施設（防犯ブザーの配布や地域との連携等）
- 安全で安心して生活できる環境（老朽化対策の推進、通学路の点検・報告）

快 適 性

- 授業に集中でき、学習効率向上に資する快適な学習環境
（エアコンの設置、遮音・吸音性能への配慮）
- バリアフリーに配慮した環境（段差の解消、障がい者用トイレの設置 等）
- 児童・生徒の健康や衛生面に配慮した環境
（トイレの洋式化、手洗いの自動水洗化、適正な照度の確保 等）
- 児童・生徒の交流を促す等、生活の場として快適に過ごすことができる環境
（多目的室、ミーティング室、児童クラブ等の環境整備 等）
- 教職員が快適に働ける環境（職員室の環境整備）
- 授業の充実に資する設備や機材等の整備（学校備品、教材備品の整備）
- 教職員等の事務の効率化を高められる I C T 環境（パソコン等の整備）
- 省エネルギーに配慮した施設の整備（自然光の利用、特別教室の効率的な利用）

学習活動への適応性

- 少人数指導等多様な学習形態を展開するための環境
（少人数教室、多目的室の環境整備 等）
- 学習効果を高められる教材等の整備、情報教育に対応した I C T 環境
（教材備品、パソコン等の整備 等）
- 児童・生徒の自発的な学習や読書活動を促すための環境（特別教室、図書室等の整備）
- 社会性を身につけるための空間（多学年間の学習環境、遊具施設の整備）
- 特別支援教育に配慮した学校施設（特別支援教室の環境整備）
- 進路指導や相談等、児童・生徒の支援・指導に取り組みやすい空間
（キャリア教育の推進、進路指導室や相談室の整備）
- 充実した運動ができる環境（屋内運動場、校庭の整備）

環境への適応性

- 環境を考慮した学校施設（再生可能エネルギー、省エネルギー・省資源、自然共生、木材利用）

地域の拠点化

- 地域住民が健康づくりや学習拠点等に活用できる開かれた環境
（屋内運動場、校庭、特別教室等の開放）
- 放課後の児童の居場所がある施設（空き教室等の活用）
- 避難所としての機能を有する施設（トイレの洋式化、バリアフリー環境の整備）

第 2 章 学校施設の実態

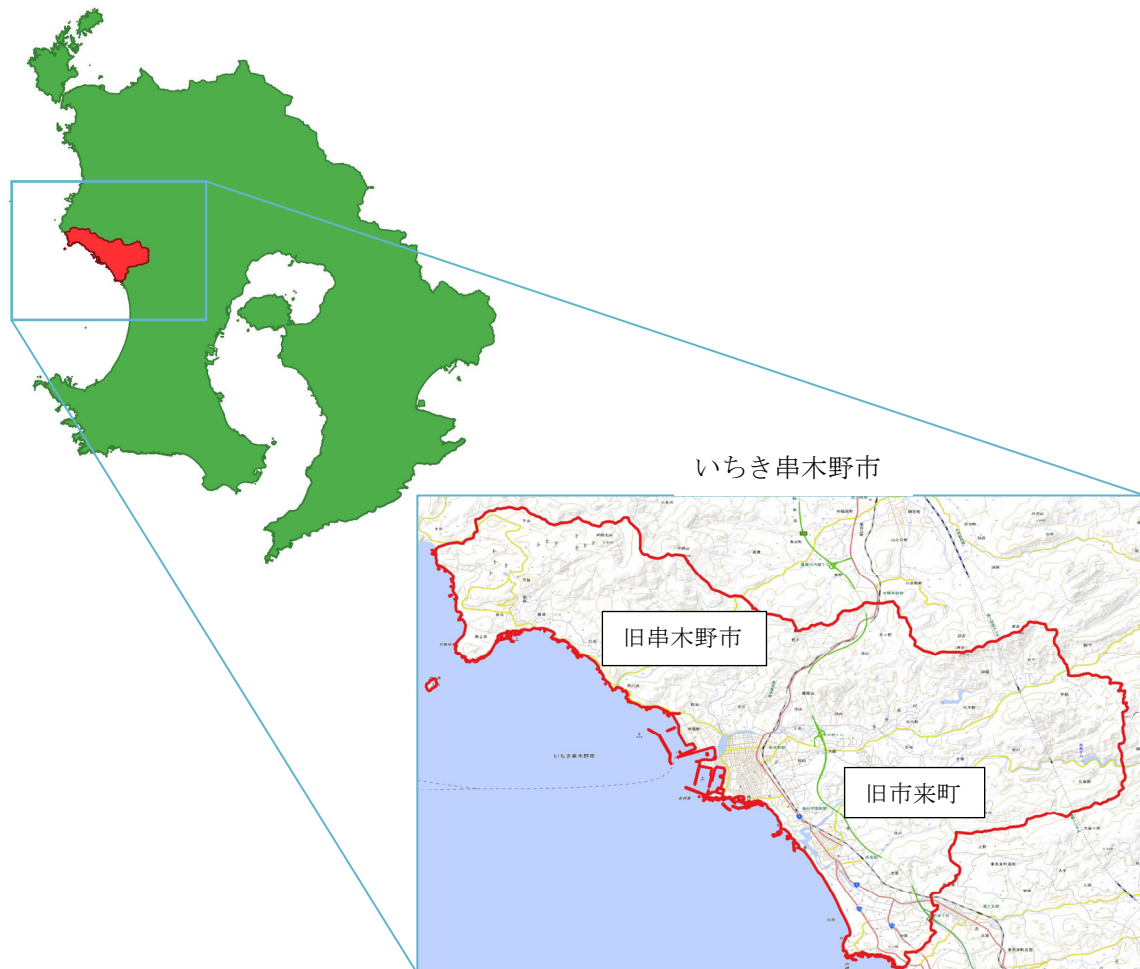
1. 学校施設を取り巻く状況

(1) いちき串木野市の概況

本市は、西側を東シナ海に、北側と東側を山々に囲まれた、東西 19.1km、南北 18.2km、総面積 112.30 k²の都市です。

西に白砂青松が続く吹上浜の海岸線、東に徐福伝説の霊峰冠嶽を控え、海・山・温泉等の自然と温暖な気候に恵まれた風光明媚な場所に位置し、また、串木野駅、市来駅、神村学園前駅の 3 つの鉄道駅に、2 箇所の自動車道インター等、生活環境や利便性にも恵まれています。

2005(平成 17)年 10 月 11 日に串木野市と日置郡市来町が合併して誕生した都市であり、旧市町の市街地を中心とした 2 極化の都市構造が形成されています。



図：本市の位置

(2) 人口・世帯数の推移

本市の人口は減少傾向にあります。令和 2 年の国勢調査時点で 27,490 人となっており、平成 2 年から令和 2 年までの 30 年間で、9,300 人減少しています。

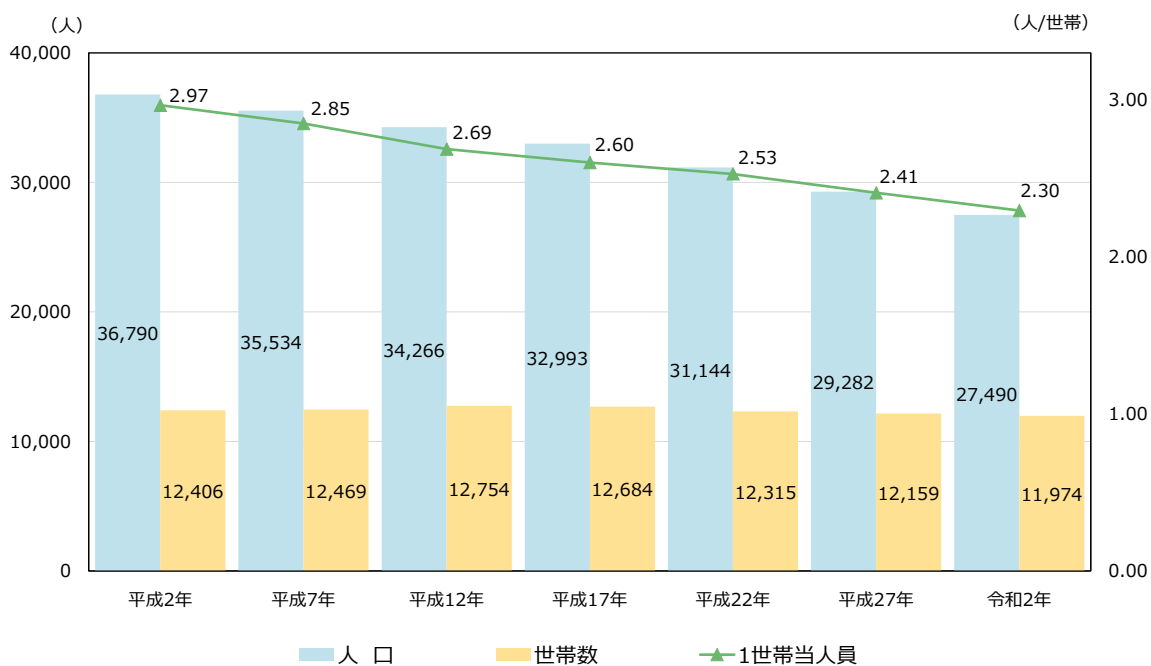
世帯数も減少傾向にあります。令和 2 年の国勢調査時点で 11,974 世帯となっており、30 年間で約 430 世帯減少しています。

世帯当たり人員は年々少なくなっており、令和 2 年の国勢調査では、1 世帯当たり 2.30 人となっています。

表：人口・世帯数の推移

単位：人、世帯

いちき串木野市	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
人口	36,790	35,534	34,266	32,993	31,144	29,282	27,490
世帯数	12,406	12,469	12,754	12,684	12,315	12,159	11,974
1世帯当人員	2.97	2.85	2.69	2.60	2.53	2.41	2.30



図：人口・世帯数の推移

資料：国勢調査

(3) 年齢別人口の推移

年齢 3 区分別人口の推移をみると、15 歳未満人口は平成 2 年の 7,227 人から令和 2 年には 3,165 人へと減少し、人口に占める比率も約 1 割となっています。

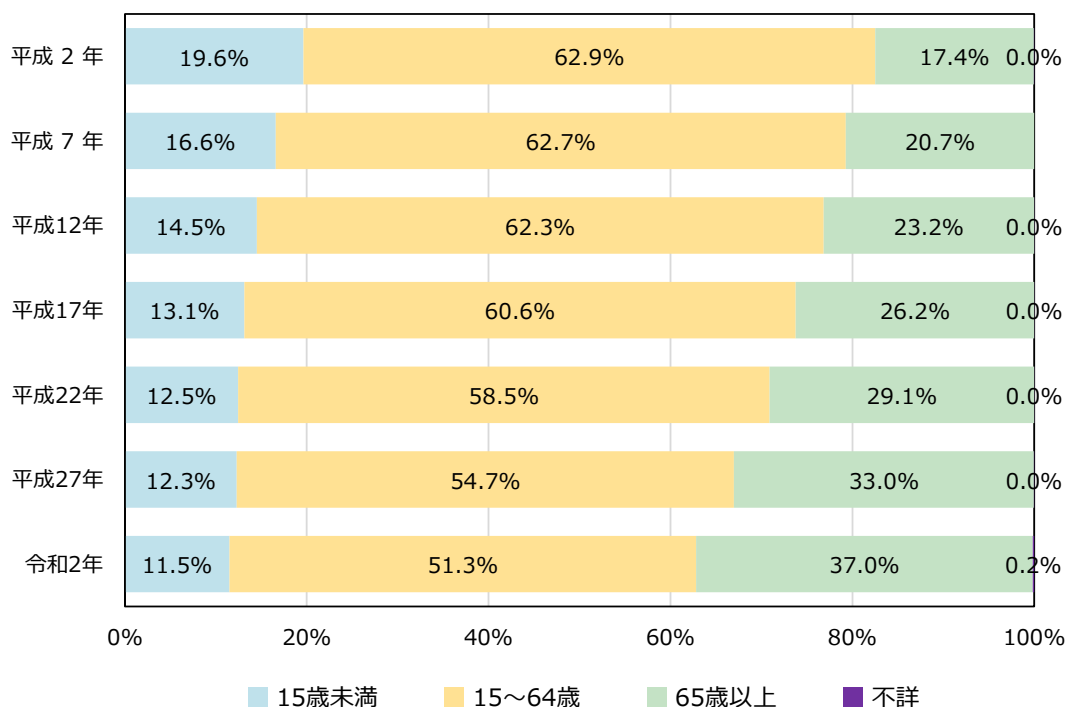
一方、65 歳以上人口は、平成 2 年の 6,414 人から令和 2 年には 10,172 と増加し、4 割弱の人口比率となっています。

年齢別人口割合の推移をみると、65 歳以上人口の割合は年々増加し、平成 7 年時点で 65 歳以上人口が 15 歳未満人口を上回り、急速に少子高齢化が進行しています。

表：年齢別人口の推移

単位：人

年齢別	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
15歳未満	7,227	5,895	4,979	4,336	3,881	3,606	3,165
15～64歳	23,133	22,278	21,349	20,005	18,204	16,008	14,107
65歳以上	6,414	7,361	7,934	8,651	9,057	9,658	10,172
不詳	16	0	4	1	2	10	46



図：年齢別人口の割合の推移

資料：国勢調査

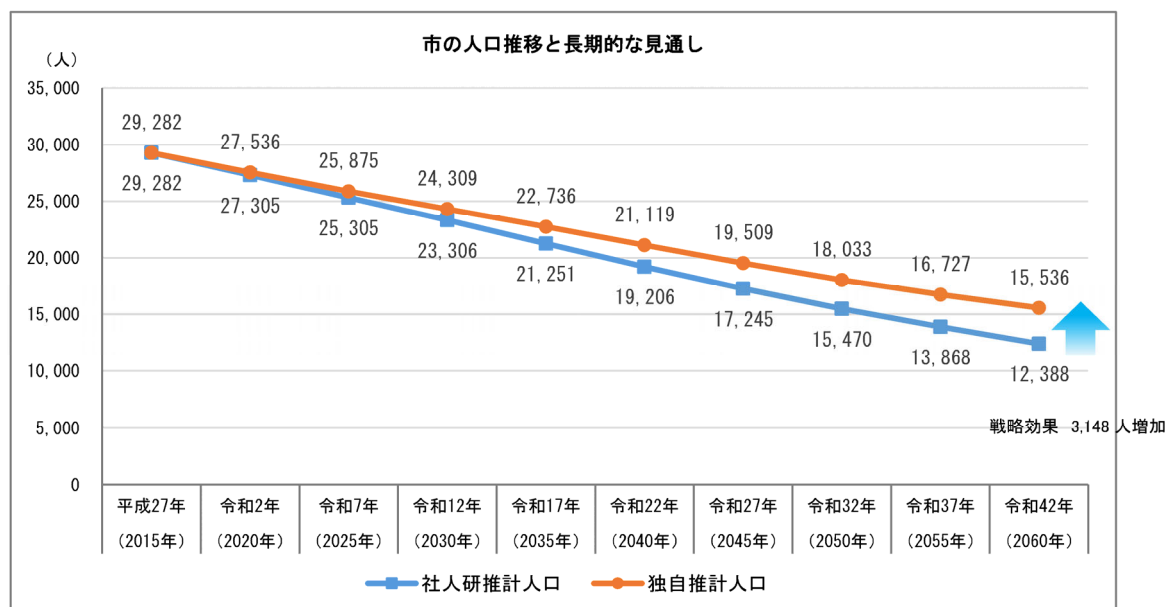
(4) 将来人口

本市の将来人口については、令和 3 年 3 月に発行された「いちき串木野市人口ビジョン(改訂版)」において、以下のようになっています。

【市の人口の長期的な見通し】

●令和 42（2060）年に約 3,000 人の施策効果

- ・社人研の推計によると、令和 42（2060）年の本市の人口は 12,388 人まで減少するとされる。
- ・市の見通しでは、戦略による効果が着実に反映され、合計特殊出生率と移動数の目標値を達成すれば、令和 42（2060）年の本市の人口は 15,536 人となり、社人研推計と比較して 3,148 人の施策効果が見込まれる。



【独自推計の年齢3区分別人口・構成比の推移】

	平成 27 年 (2015 年)	令和 2 年 (2020 年)	令和 7 年 (2025 年)	令和 12 年 (2030 年)	令和 17 年 (2035 年)	令和 22 年 (2040 年)	令和 27 年 (2045 年)	令和 32 年 (2050 年)	令和 37 年 (2055 年)	令和 42 年 (2060 年)
総人口	29,282	27,536	25,875	24,309	22,736	21,119	19,509	18,033	16,727	15,536
年少人口	3,606	3,422	3,380	3,413	3,344	3,219	3,046	2,906	2,774	2,657
生産年齢人口	16,008	14,085	12,661	11,561	10,647	9,705	8,774	7,976	7,475	7,116
老年人口	9,658	10,029	9,834	9,335	8,745	8,195	7,689	7,151	6,478	5,763
年少人口比率	12.3%	12.4%	13.1%	14.0%	14.7%	15.2%	15.6%	16.1%	16.6%	17.1%
生産年齢人口比率	54.7%	51.2%	48.9%	47.6%	46.8%	46.0%	45.0%	44.2%	44.7%	45.8%
老年人口比率	33.0%	36.4%	38.0%	38.4%	38.5%	38.8%	39.4%	39.7%	38.7%	37.1%

図：本市の人口推移と長期的な見通し

資料：いちき串木野市人口ビジョン

(5) 小学校区別人口の推移

令和3年3月31日時点の人口分布を小学校区ごとで見ると、串木野小学校区に一番人口が集中しており、次いで市来、照島の順になっています。国勢調査年である平成17年度、平成22年度、平成27年度、令和2年度の各人口の推移をみると、すべての小学校区で人口が減少しています。

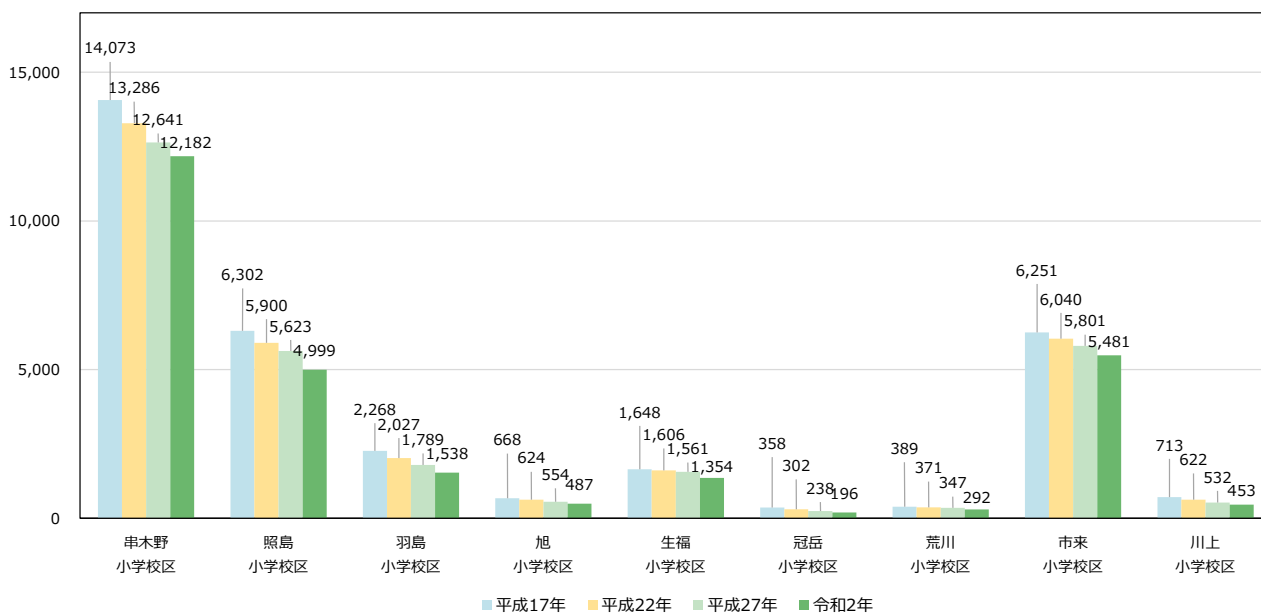
表：小学校区別人口の推移

単位：人

地区	校区	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年	令和2年/ 平成17年	
						増減	増減率
串木野	串木野小学校区	14,073	13,286	12,641	12,182	▲ 1,891	▲ 13.4%
	照島小学校区	6,302	5,900	5,623	4,999	▲ 1,303	▲ 20.7%
	羽島小学校区	2,268	2,027	1,789	1,538	▲ 730	▲ 32.2%
	旭小学校区	668	624	554	487	▲ 181	▲ 27.1%
	生福小学校区	1,648	1,606	1,561	1,354	▲ 294	▲ 17.8%
	冠岳小学校区	358	302	238	196	▲ 162	▲ 45.3%
	荒川小学校区	389	371	347	292	▲ 97	▲ 24.9%
市来	市来小学校区	6,251	6,040	5,801	5,481	▲ 770	▲ 12.3%
	川上小学校区	713	622	532	453	▲ 260	▲ 36.5%
	合計	32,670	30,778	29,086	26,982	▲ 5,688	▲ 17.4%

(人)

※ 冠岳小学校は令和3年度から生福小学校と統合



図：小学校区別人口の推移

資料：平成17年～平成27年は「いちき串木野市公共施設等総合管理計画」

令和2年は庁内資料

(6) 財政状況

① 歳入（一般会計）の内訳

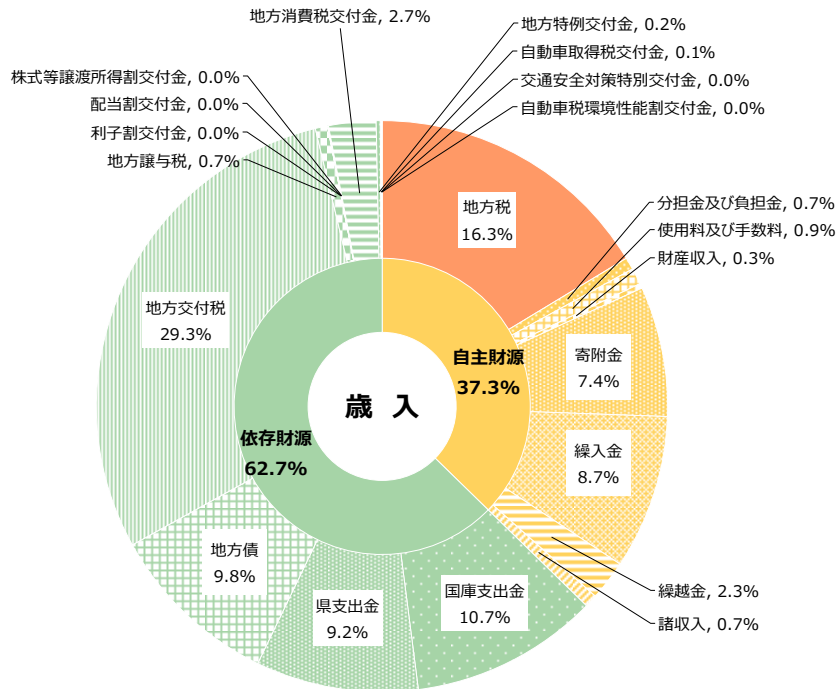
令和元年度決算の歳入額は 186 億 6,308 万円であり、前年度と比較すると 11 億 76 万円増加しています。

自主財源では「地方税」が 16.3%、依存財源では「地方交付税」が 29.3%と最も多くなっています。

表：歳入（一般会計）の内訳

単位：千円、%

区分	款	令和元年度		平成30年度		増減額
		決算額	構成比	決算額	構成比	
自主財源	地方税	3,048,325	37.3%	3,068,495	35.4%	▲ 20,170
	分担金及び負担金	129,036		145,741		▲ 16,705
	使用料及び手数料	170,717		179,511		▲ 8,794
	財産収入	50,700		42,101		8,599
	寄附金	1,373,436		1,698,902		▲ 325,466
	繰入金	1,632,776		478,932		1,153,844
	繰越金	422,679		492,712		▲ 70,033
	諸収入	133,585		114,866		18,719
	合計	18,663,076		100.0%		17,562,314
依存財源	国庫支出金	1,990,970	62.7%	1,972,391	64.6%	18,579
	県支出金	1,717,377		1,701,358		16,019
	地方債	1,821,880		1,449,661		372,219
	地方交付税	5,471,343		5,503,314		▲ 31,971
	地方譲与税	129,506		126,433		3,073
	利子割交付金	1,806		4,447		▲ 2,641
	配当割交付金	5,511		4,922		589
	株式等譲渡所得割交付金	3,163		5,747		▲ 2,584
	地方消費税交付金	499,530		530,420		▲ 30,890
	地方特例交付金	43,070		16,612		26,458
	自動車取得税交付金	11,168		22,242		▲ 11,074
	交通安全対策特別交付金	3,366		3,507		▲ 141
	自動車税環境性能割交付金	3,132		-		3,132



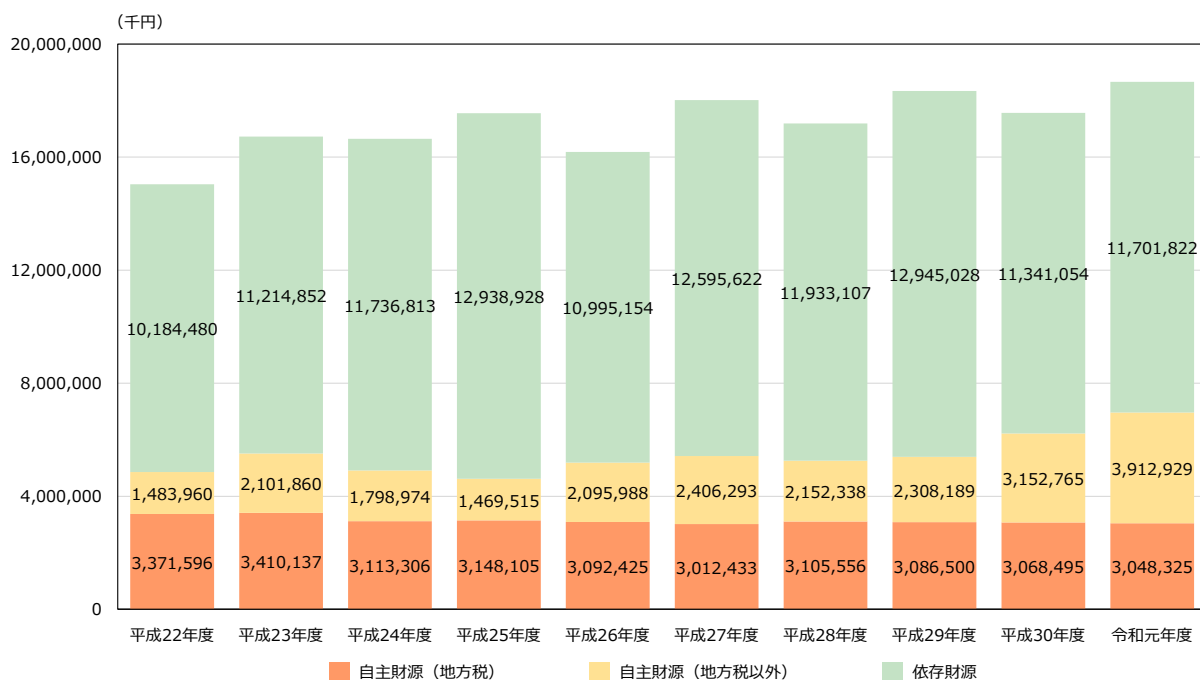
図：令和元年度 歳入（一般会計）の内訳

資料：総務省決算カード

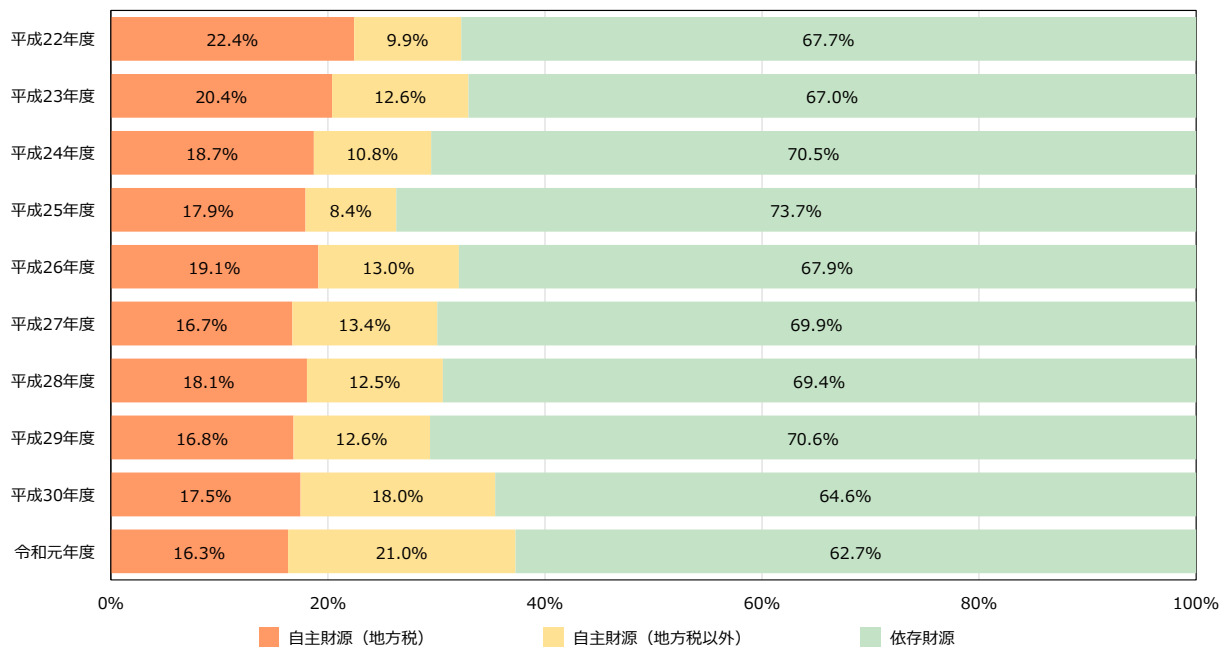
※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならない。

平成 22 年度以降の歳入の推移をみると、「地方税」は 30 億円強を保っています。

今後は人口減少が続き、特に生産年齢人口の割合が減少すると見込まれるため、「地方税」の減少が予想されます。



図：歳入（一般会計）の推移



図：歳入（一般会計）の割合の推移

資料：総務省決算カード

※構成比は小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも 100 とはならない。

② 歳出（一般会計）の内訳

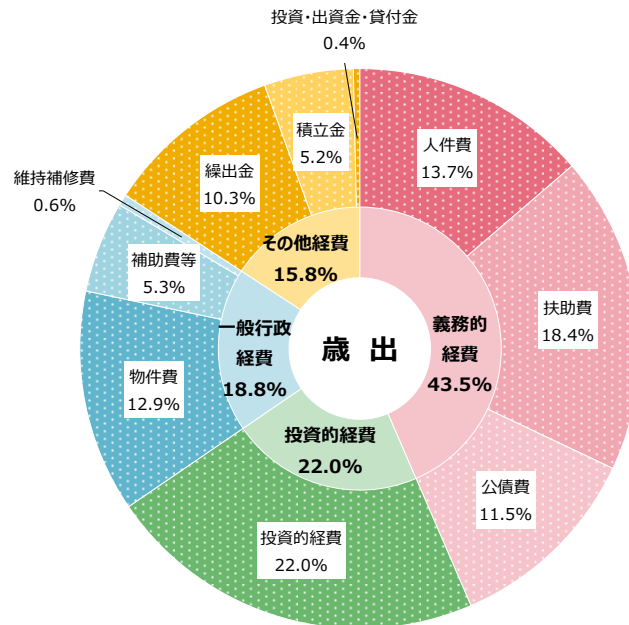
令和元年度決算の歳出額は、181億6988万円であり、前年度と比較すると10億3,024万円増加しています。

義務的経費では「扶助費」が18.4%、一般行政経費では「物件費」が12.9%、その他経費では「繰出金」が10.3%と最も多くなっています。

表：歳出（一般会計）の内訳

単位：千円、%

区分	款	令和元年度		平成30年度		増減額
		決算額	構成比	決算額	構成比	
義務的経費	人件費	2,486,502	43.5%	2,611,283	46.5%	▲ 124,781
	扶助費	3,334,482		3,282,669		51,813
	公債費	2,083,340		2,082,374		966
投資的経費	投資的経費	3,988,713	22.0%	2,283,347	13.3%	1,705,366
一般行政経費	物件費	2,334,965	18.8%	2,565,885	21.3%	▲ 230,920
	補助費等	957,885		973,929		▲ 16,044
	維持補修費	117,868		105,889		11,979
その他経費	繰出金	1,863,460	15.8%	1,810,840	18.9%	52,620
	積立金	936,640		1,386,525		▲ 449,885
	投資・出資金・貸付金	66,024		36,894		29,130
合計		18,169,879	100.0%	17,139,635	100.0%	1,030,244



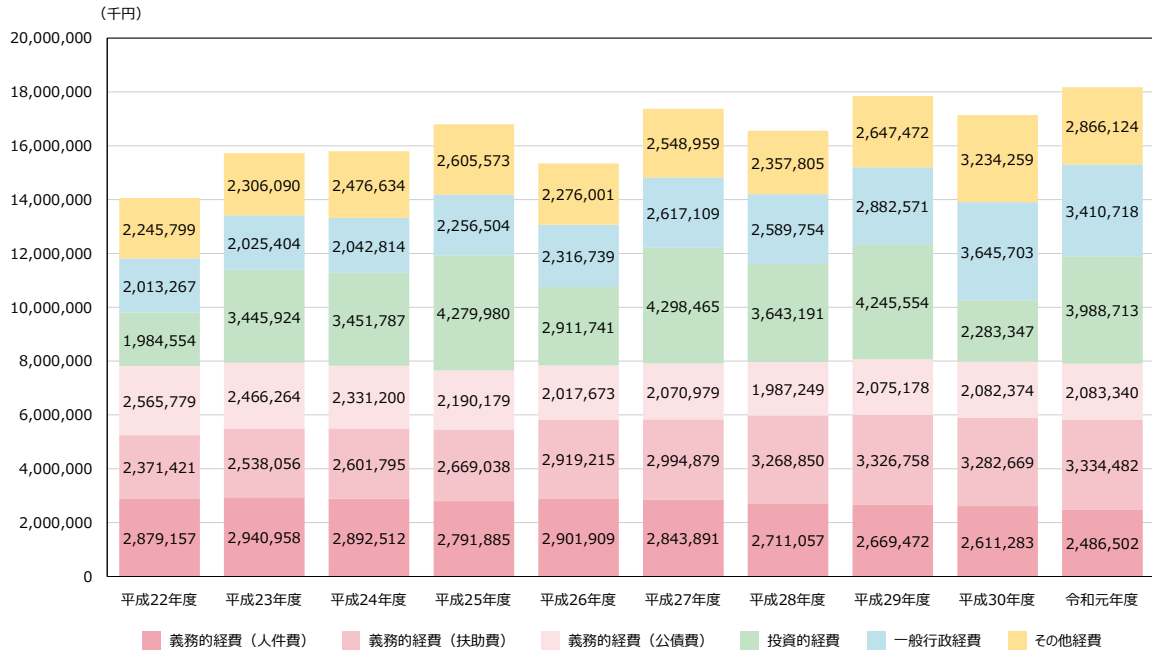
図：令和元年度 歳出（一般会計）の内訳

資料：総務省決算カード

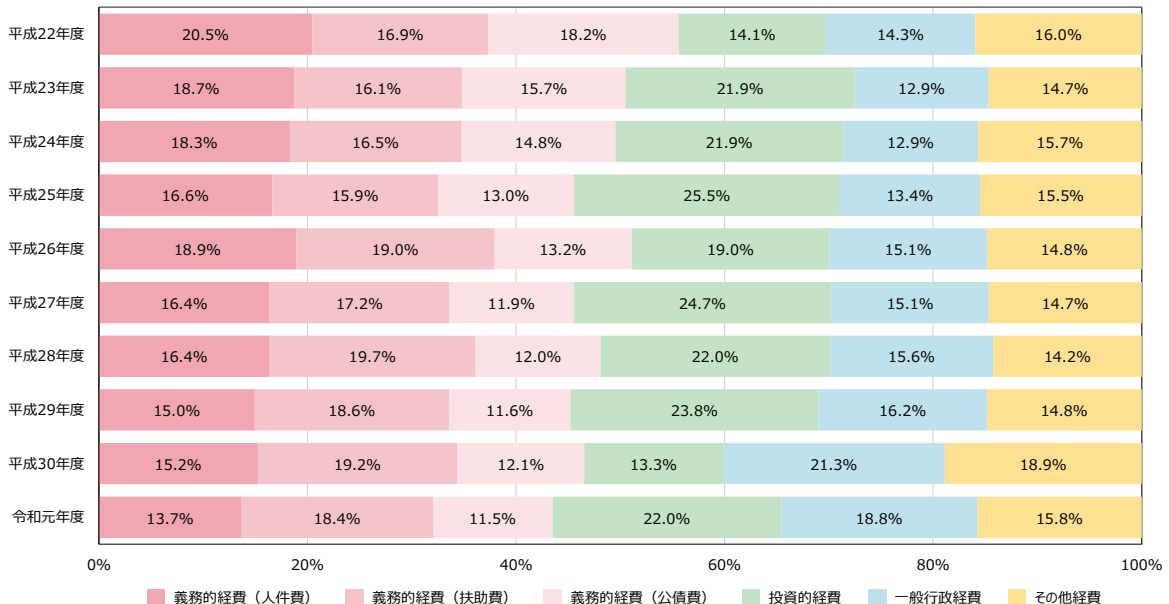
※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならない。

平成 22 年度以降の歳出の推移をみると、高齢化に伴い、「扶助費」が年々増加傾向にあることがわかります。一方、投資的経費は平成 30 年度が少ないものの、2 割程度の割合を保っています。

将来的に高齢化の進展に伴い、後期高齢者医療費や介護保険等の負担が増大していくことで扶助費等の増加が予想されます。



図：歳出（一般会計）の推移



図：歳出（一般会計）の割合の推移

資料：総務省決算カード

※構成比は小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも 100 とはならない。

2. 運営状況・活用状況の把握

(1) 公共施設全体の保有状況

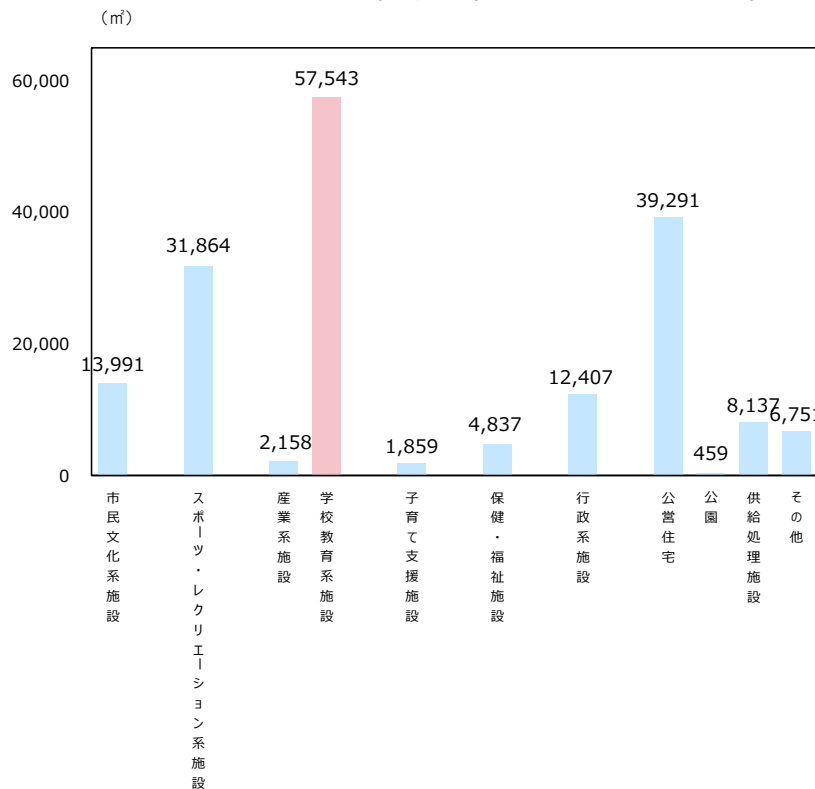
「いちき串木野市公共施設等総合管理計画」では、本市の公共施設は全体で 201 施設、延床面積 179,297 m²となっています。

分類別の延床面積が多い順に、学校教育系施設、公営住宅、スポーツ・レクリエーション施設となっています。学校教育系施設の延床面積は 57,543 m²となり、全体の約 3 割を占めています。

表：分類別延床面積割合

分類	施設数	延床面積	
		面積 (m ²)	構成比
市民文化系施設	17	13,991	7.8%
スポーツ・レクリエーション系施設	29	31,864	17.8%
産業系施設	5	2,158	1.2%
学校教育系施設	17	57,543	32.1%
子育て支援施設	4	1,859	1.0%
保健・福祉施設	7	4,837	2.7%
行政系施設	18	12,407	6.9%
公営住宅	28	39,291	21.9%
公園	30	459	0.3%
供給処理施設	4	8,137	4.5%
その他	42	6,751	3.8%
合計	201	179,297	100.0%

※ 学校教育系施設には旧冠岳小学校を含む



図：大分類別延床面積割合

資料：いちき串木野市公共施設等総合管理計画（平成 29 年 3 月策定）

(2) 学校施設の保有状況

本市の小学校 8 校、中学校 5 校、幼稚園 1 園の建物のうち、延床面積 200 m²以下の部室、倉庫、トイレ等の小規模な建物を除いた一覧を以下に示します。

表：対象施設一覧（小学校）

※新耐震：1981年6月1日以降 単位：年、m²、室

施設名	開校年度	建物名称	棟番号	構造	階数	建築年度		経過年数	耐震基準	延床面積(m ²)	校地面積	教室		
						西暦	和暦					教室数	普通	特別
くしきの串木野小学校	(1869年) 明治2年	管理棟1F	001	RC造	1	1972	S47	49	旧	195	37,049	36	22	14
		管理棟1F	001-1	RC造	1	1973	S48	48	旧	160				
		管理棟2F	001-2	S造	2	1978	S53	43	旧	316				
		階段室	001-3	S造	2	1978	S53	43	旧	6				
		教室棟	011-1	RC造	2	1963	S38	58	旧	440				
		教室棟	011-2	RC造	2	1964	S39	57	旧	360				
		教室棟	011-3	RC造	2	1965	S40	56	旧	281				
		教室棟	011-4	RC造	2	1965	S40	56	旧	292				
		屋内運動場	018	RC造	1	1969	S44	52	旧	1,109				
		教室棟	037	RC造	2	1999	H11	22	新	872				
		教室棟	038	RC造	2	1999	H11	22	新	2,112				
		教室棟	039	RC造	2	2000	H12	21	新	1,487				
小計										7,630				
てるしま照島小学校	(1879年) 明治12年	教室棟	001	RC造	2	1973	S48	48	旧	1,209	16,290	19	9	10
		教室棟	001-1	RC造	2	1976	S51	45	旧	394				
		管理棟	002	RC造	2	1979	S54	42	旧	1,451				
		管理棟	002-1	RC造	2	1980	S55	41	旧	507				
		屋内運動場	004	RC造	1	1986	S61	35	新	919				
小計										4,480				
はしま羽島小学校	(1879年) 明治12年	管理教室棟	001	RC造	2	1982	S57	39	新	1,398	9,916	15	6	9
		教室棟	003-1	RC造	2	1966	S41	55	旧	832				
		教室棟	003-2	RC造	2	1967	S42	54	旧	230				
		屋内運動場	015	RC造	2	1985	S60	36	新	781				
小計										3,241				
あさひ旭小学校	(1879年) 明治12年	管理棟	001	W造	1	1972	S47	49	旧	302	9,278	10	5	5
		図書室	002	W造	2	1990	H02	31	新	168				
		教室棟	003	W造	1	1972	S47	49	旧	427				
		音楽室	006-1	W造	1	1972	S47	49	旧	94				
		給食室	006-2	W造	1	1982	S57	39	新	7				
		給食室	006-3	W造	1	1998	H10	23	新	4				
屋内運動場	008	S造	1	1976	S51	45	旧	532						
小計										1,534				
せいふく生福小学校	(1892年) 明治25年	管理・特別教室棟	001	RC造	2	1989	H01	32	新	577	8,641	14	8	6
		教室棟	007-1	RC造	2	1968	S43	53	旧	687				
		教室棟	007-2	RC造	2	1978	S53	43	旧	276				
		屋内運動場	008	RC造	1	1981	S56	40	新	576				
小計										2,116				
あらかわ荒川小学校	(1879年) 明治12年	音楽室	001	W造	1	1977	S52	44	旧	164	7,546	8	3	5
		多目的教室	003-1	RC造	1	1964	S39	57	旧	311				
		給食室	003-2	W造	1	1982	S57	39	新	6				
		屋内運動場	010	RC造	1	1975	S50	46	旧	532				
		普通教室	015	RC造	2	1986	S61	35	新	389				
小計										1,402				
いちき市来小学校	(1872年) 明治5年	特別教室棟	002	S造	1	1968	S43	53	旧	300	14,487	25	15	10
		屋内運動場	003	RC造	1	2003	H15	18	新	804				
		教室棟	016	RC造	3	1971	S46	50	旧	992				
		教室棟	017	RC造	3	1972	S47	49	旧	1,752				
		特別教室棟	021	RC造	2	1983	S58	38	新	475				
小計										4,323				
かわかみ川上小学校	(1882年) 明治15年	屋内運動場	001	RC造	1	1979	S54	42	旧	573	7,546	10	3	7
		教室棟	003	RC造	3	1966	S41	55	旧	1,106				
		家庭科室	008	W造	1	1990	H02	31	新	250				
小計										1,929				
総合計										26,655				

※経過年数は2021年時点

資料：令和3年度 いちき串木野市公立学校施設台帳

※200 m²以下の建物は除く

表：対象施設一覧（中学校）

※新耐震：1981年6月1日以降 単位：年、㎡、室

施設名	開校年度	建物名称	棟番号	構造	階数	建築年度		経過年数	耐震基準	延床面積(㎡)	校地面積	教室		
						西暦	和暦					教室数	普通	特別
くしきの 串木中学校	(1947年) 昭和22年	校舎	030-1	RC造	3	1993	H05	28	新	3,092	31,951	35	11	24
		校舎	030-2	RC造	3	1993	H05	28	新	443				
		校舎	030-3	RC造	3	1993	H05	28	新	2,980				
		屋内運動場	032-1	RC造	3	1996	H08	25	新	1,910				
		屋体クラブハウス	032-2	RC造	3	1996	H08	25	新	200				
		柔剣道場	032-3	RC造	3	1996	H08	25	新	750				
		部室	032-4	RC造	3	1996	H08	25	新	297				
小計									9,672					
くしきのにし 串木野西中学校	(1970年) 昭和45年	管理教室棟	001	RC造	3	1970	S45	51	旧	1,627	22,670	22	6	16
		教室棟	001-1	RC造	3	1971	S46	50	旧	1,468				
		特別教室棟	002	RC造	2	1971	S46	50	旧	821				
		屋内運動場	003	RC造	1	1971	S46	50	旧	919				
		小計												
はしま 羽島中学校	(1947年) 昭和22年	管理教室棟	001	RC造	3	1976	S51	45	旧	1,576	12,641	14	5	9
		印刷室	001-2	RC造	1	1987	S62	34	新	14				
		特別教室棟	004	RC造	3	1987	S62	34	新	600				
		屋内運動場	018	RC造	1	1978	S53	43	旧	614				
		小計												
せいかん 生冠中学校	(1947年) 昭和22年	特別教室棟	002	RC造	2	1988	S63	33	新	459	15,714	14	4	10
		管理教室棟	004	RC造	2	1977	S52	44	旧	1,105				
		屋内運動場	012	RC造	1	1974	S49	47	旧	621				
		小計												
いちき 市来中学校	(1947年) 昭和22年	音楽室	008-1	RC造	2	1960	S35	61	旧	185	30,504	20	8	12
		多目的室	008-2	RC造	2	1962	S37	59	旧	365				
		普通教室	008-3	RC造	2	1963	S38	58	旧	842				
		多目的室	008-4	RC造	2	1964	S39	57	旧	447				
		特別教室棟	012	RC造	1	1966	S41	55	旧	261				
		特別教室棟	016	RC造	2	1973	S48	48	旧	464				
		管理棟	018	RC造	2	1982	S57	39	新	630				
		屋内運動場	020	RC造	1	1986	S61	35	新	1,131				
		WC	020-1	RC造	1	1986	S61	35	新	174				
		パソコン室	023	RC造	2	1991	H03	30	新	149				
		小計												
総合計									24,144					

※経過年数は2021年時点

資料：令和3年度 いちき串木野市公立学校施設台帳

※200㎡以下の建物は除く

表：対象施設一覧（幼稚園）

※新耐震：1981年6月1日以降 単位：年、㎡、室

学校名	開校年度	建物名称	棟番号	構造	階数	建築年度		経過年数	耐震基準	延床面積(㎡)	校地面積
						西暦	和暦				
いちき 市来幼稚園	(1965年) 昭和40年	園舎	007	RC造	2	1988	S63	33	新	746	8,280
		小計									

※経過年数は2021年時点

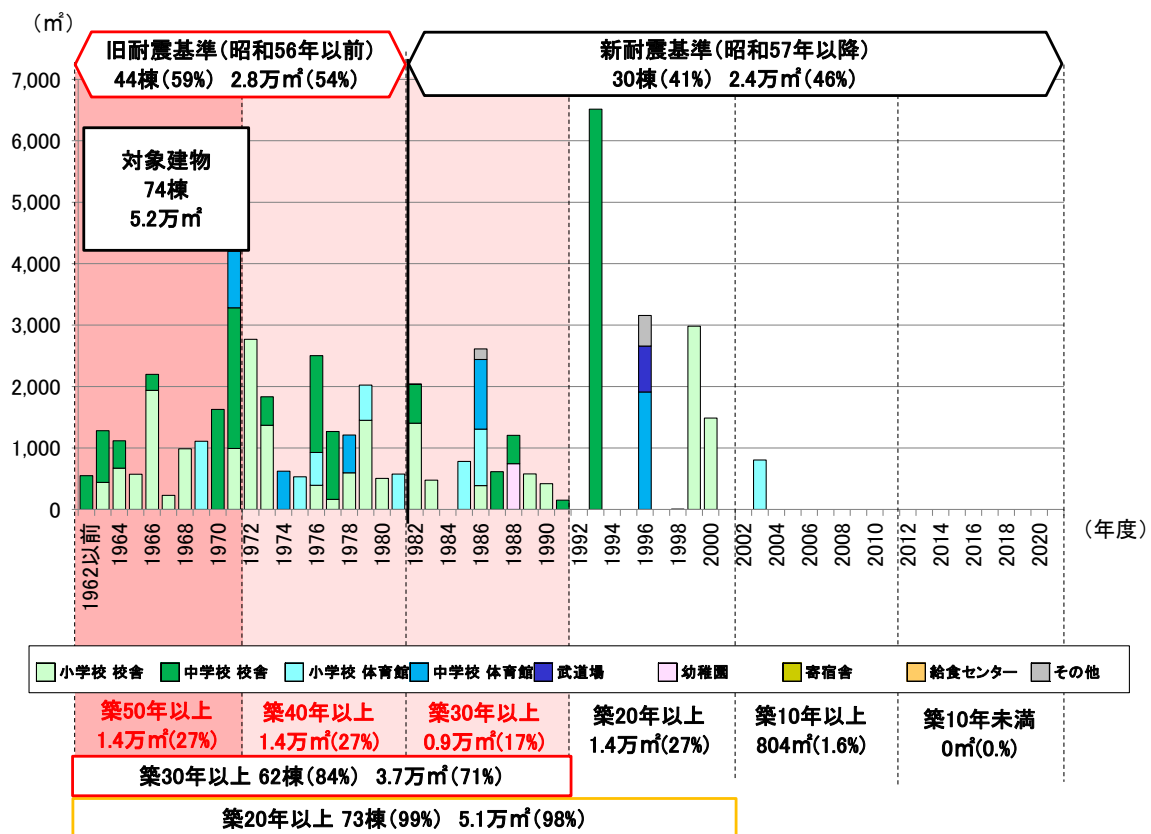
資料：令和3年度 いちき串木野市公立学校施設台帳

※200㎡以下の建物は除く

学校施設の築年別整備状況を見ると、旧耐震基準（昭和 56 年以前）によるものが 44 棟（59%）、延床面積で 2.8 万㎡（54%）、新耐震基準（昭和 57 年以降）によるものが 30 棟（41%）、延床面積で 2.4 万㎡（46%）となっており、旧耐震基準の建物が延床面積あたりにおいて 5 割半ばを占めています。

経過年数では、築 50 年以上が 1.4 万㎡（27%）、築 40 年から築 49 年までが 1.4 万㎡（27%）、築 30 年から築 39 年までが 0.9 万㎡（17%）となっており、築 30 年以上を合わせると 62 棟（84%）、延床面積 3.7 万㎡（71%）となっています。

最も新しい建物でも、市来小学校屋内運動場の 2003 年の建築です。



図：学校施設の築年別建物状況

※ 作図のプログラムにより、面積は万㎡、比率が整数になっています。

(3) 児童・生徒数及び学級数の変化

① 児童数及び学級数の推移

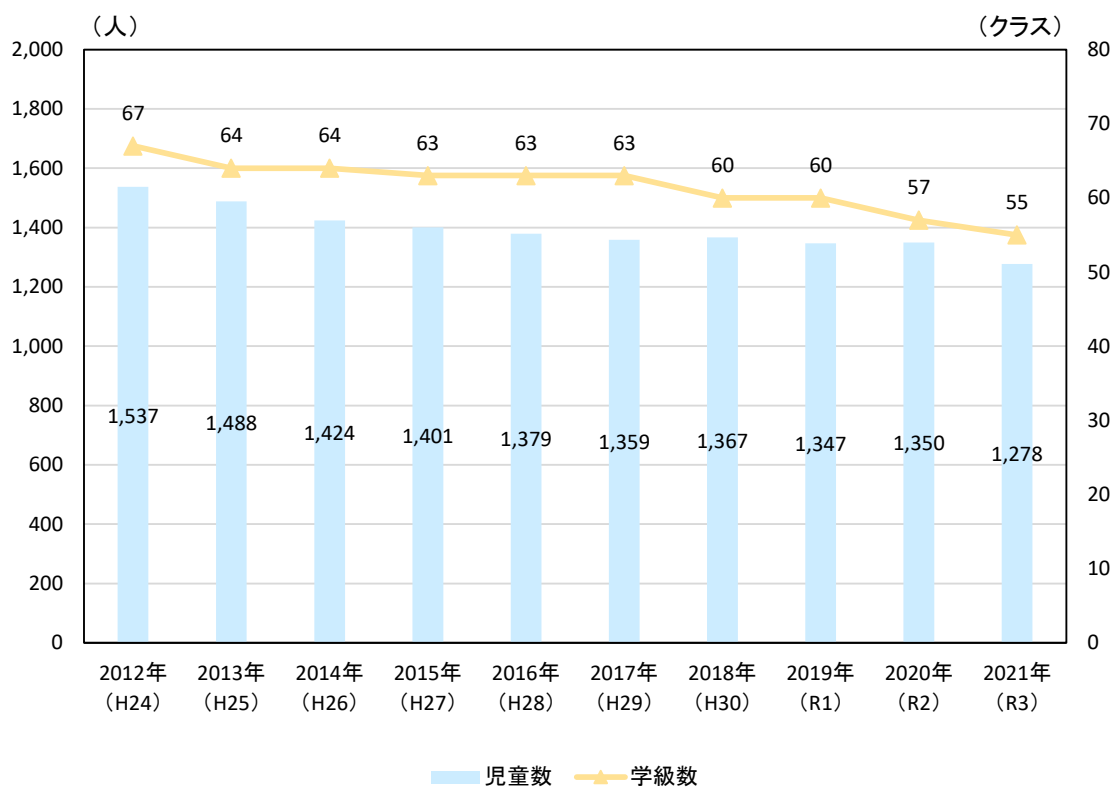
【小学校】

2012 年度以降の小学校 8 校の児童数は減少傾向にあり、2021 年度は 1,278 人となっています。2012 年度と比較すると、児童数は 16.9 ポイント減少しています。

学級数も減少傾向にあり、2021 年度は 55 クラスとなっています。2012 年度と比較すると 11 クラス減少しています。

表：児童数・学級数の推移

小学校		2012年 (H24)	2013年 (H25)	2014年 (H26)	2015年 (H27)	2016年 (H28)	2017年 (H29)	2018年 (H30)	2019年 (R1)	2020年 (R2)	2021年 (R3)	2021年/ 2012年
串木野小学校	児童数	663	648	622	623	610	601	602	601	612	589	88.8%
	学級数	21	20	19	19	20	20	20	20	18	18	-3
照島小学校	児童数	297	281	271	260	249	229	218	214	202	188	63.3%
	学級数	11	11	11	11	11	9	7	6	6	6	-5
羽島小学校	児童数	63	51	49	50	53	49	48	49	50	52	82.5%
	学級数	5	5	5	5	5	6	4	5	5	5	0
旭小学校	児童数	30	28	31	28	26	24	24	28	31	34	113.3%
	学級数	4	4	4	4	3	3	4	4	4	4	0
生福小学校	児童数	126	131	111	111	104	95	91	88	85	69	54.8%
	学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	0
荒川小学校	児童数	45	42	32	33	34	35	39	35	29	24	53.3%
	学級数	5	4	4	4	4	4	4	4	3	3	-2
市来小学校	児童数	300	297	297	284	289	314	331	316	322	298	99.3%
	学級数	12	11	12	11	11	12	12	12	12	11	-1
川上小学校	児童数	13	10	11	12	14	12	14	16	19	24	184.6%
	学級数	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	0
小学校 合計	児童数	1537	1488	1424	1401	1379	1359	1367	1347	1350	1278	83.1%
	学級数	67	64	64	63	63	63	60	60	57	56	-11



図：児童数・学級数の推移

資料：いちき串木野市資料

【中学校】

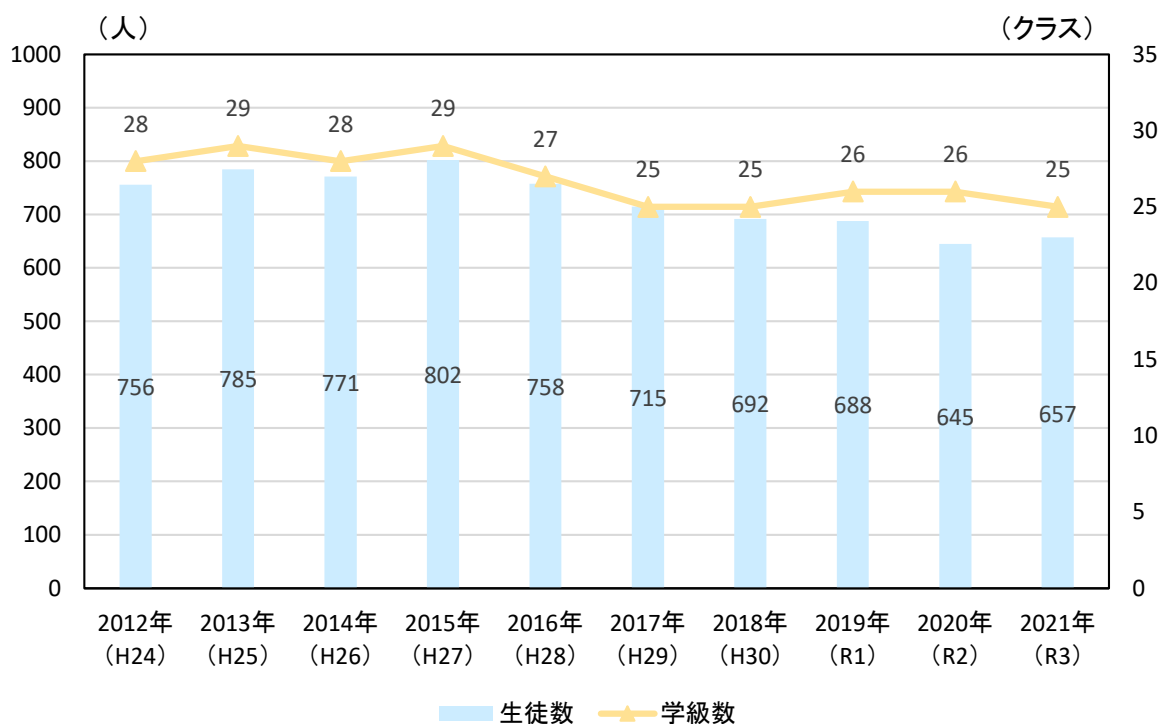
2012年度以降の中学校5校の生徒数は2015年まで増加していましたが、その後は減少傾向にあり、2021年度は657人となっています。2012年度と比較すると、生徒数は13.1ポイント減少しています。

学級数はやや減少傾向にあり、2021年度は25クラスとなっています。

表：生徒数・学級数の推移

単位：人、クラス

中学校		2012年 (H24)	2013年 (H25)	2014年 (H26)	2015年 (H27)	2016年 (H28)	2017年 (H29)	2018年 (H30)	2019年 (R1)	2020年 (R2)	2021年 (R3)	2021年/ 2012年
串木野中学校	生徒数	352	359	345	365	354	357	349	337	302	307	87.2%
	学級数	10	11	10	11	9	9	9	9	9	9	-1
串木野西中学校	生徒数	145	173	171	168	145	130	130	131	121	114	78.6%
	学級数	6	6	6	6	6	5	5	6	5	4	-2
羽島中学校	生徒数	42	35	33	37	31	25	22	24	28	25	59.5%
	学級数	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	0
生冠中学校	生徒数	62	58	71	68	71	65	64	60	44	50	80.6%
	学級数	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	0
市来中学校	生徒数	155	160	151	164	157	138	127	136	150	161	103.9%
	学級数	6	6	6	6	6	5	5	5	6	6	0
中学校 合計	生徒数	756	785	771	802	758	715	692	688	645	657	86.9%
	学級数	28	29	28	29	27	25	25	26	26	25	-3



図：生徒数・学級数の推移

資料：いちき串木野市資料

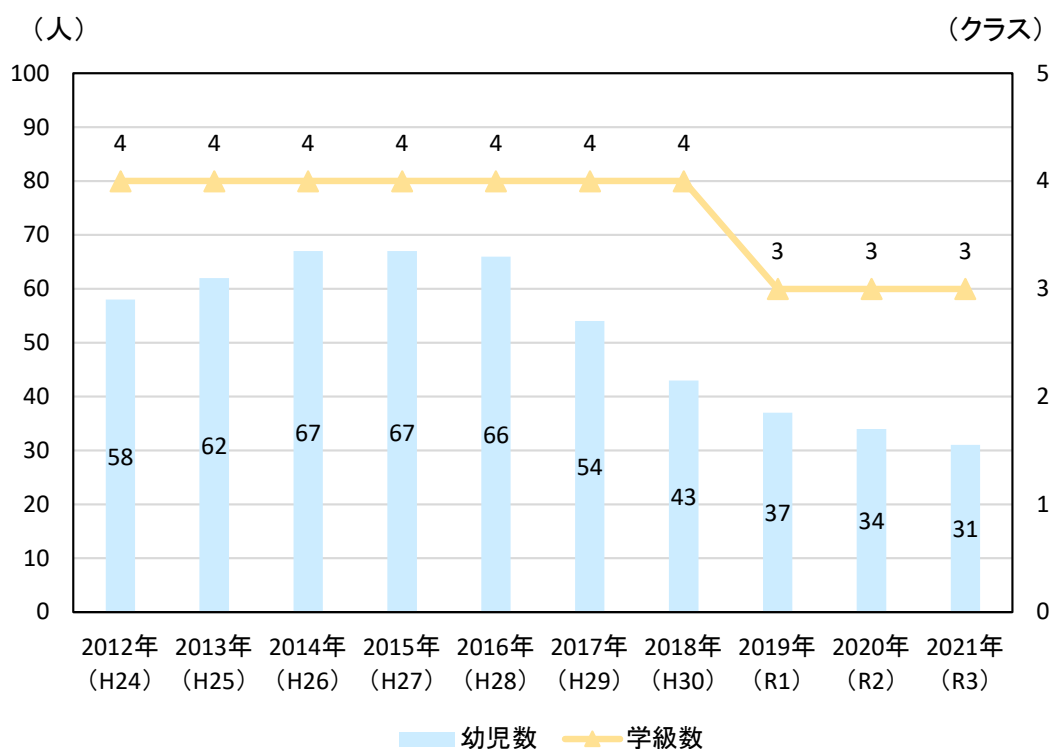
【幼稚園】

2012 年度以降の市来幼稚園の園児数は、2016 年度をピークに減少傾向にあり、2021 年度は 31 人となっています。2012 年度と比較すると、園児数は約半分となっています。

学級数は 2018 年度までは 4 クラスですが、2019 年度以降は 3 クラスとなっています。

表：園児数の推移

幼稚園		2012年 (H24)	2013年 (H25)	2014年 (H26)	2015年 (H27)	2016年 (H28)	2017年 (H29)	2018年 (H30)	2019年 (R1)	2020年 (R2)	2021年 (R3)	2021年/ 2012年
市来幼稚園	幼児数	58	62	67	67	66	54	43	37	34	31	53.4%
	学級数	4	4	4	4	4	4	4	3	3	3	-1



図：園児数・学級数の推移

資料：いちき串木野市資料

② 児童・生徒数の推計

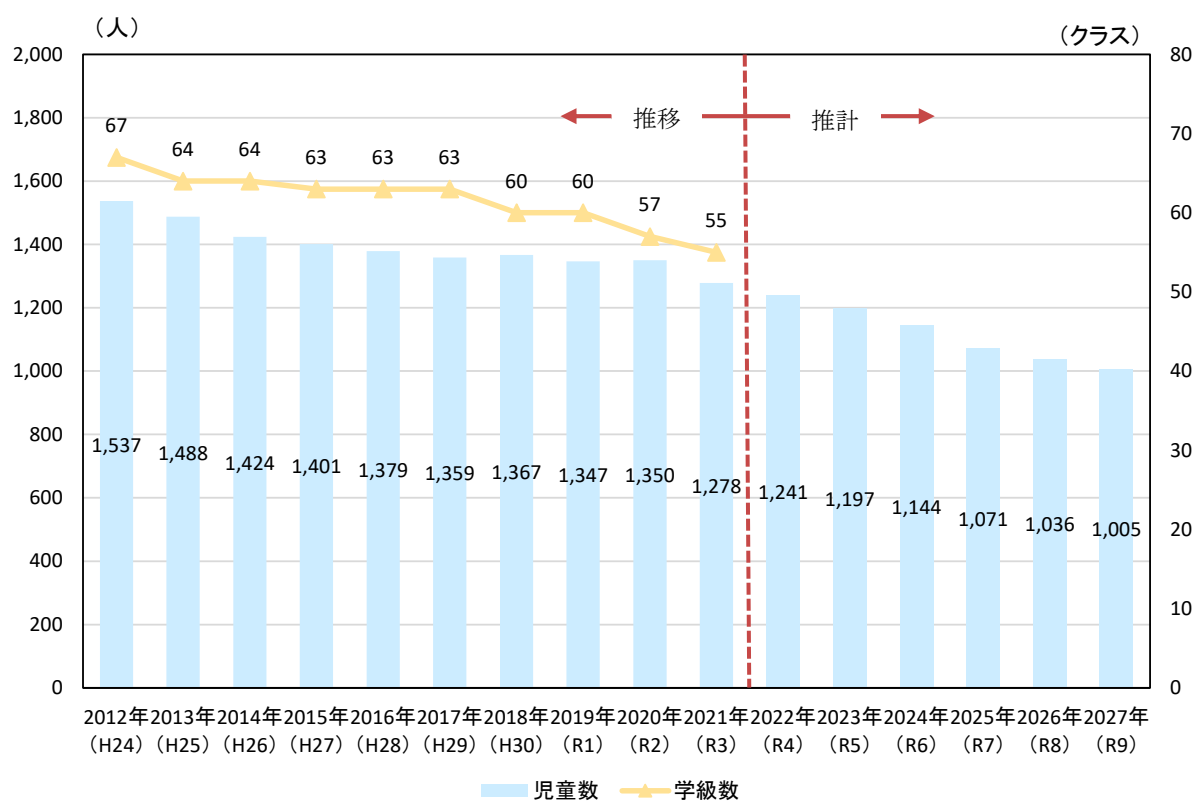
【小学校】

2027年度までの推計では、児童数は減少すると予測されています。

表：児童数の推計

単位：人

小学校	2022年 (R4)	2023年 (R5)	2024年 (R6)	2025年 (R7)	2026年 (R8)	2027年 (R9)
串木野小学校	586	578	562	534	531	519
照島小学校	186	178	175	169	161	161
羽島小学校	48	47	41	40	33	26
旭小学校	30	28	24	20	17	8
生福小学校	69	61	63	57	51	51
荒川小学校	17	18	14	12	12	9
市来小学校	281	269	247	225	218	219
川上小学校	24	18	18	14	13	12
小学校合計	1,241	1,197	1,144	1,071	1,036	1,005



図：児童数の推計

資料：いちき串木野市資料

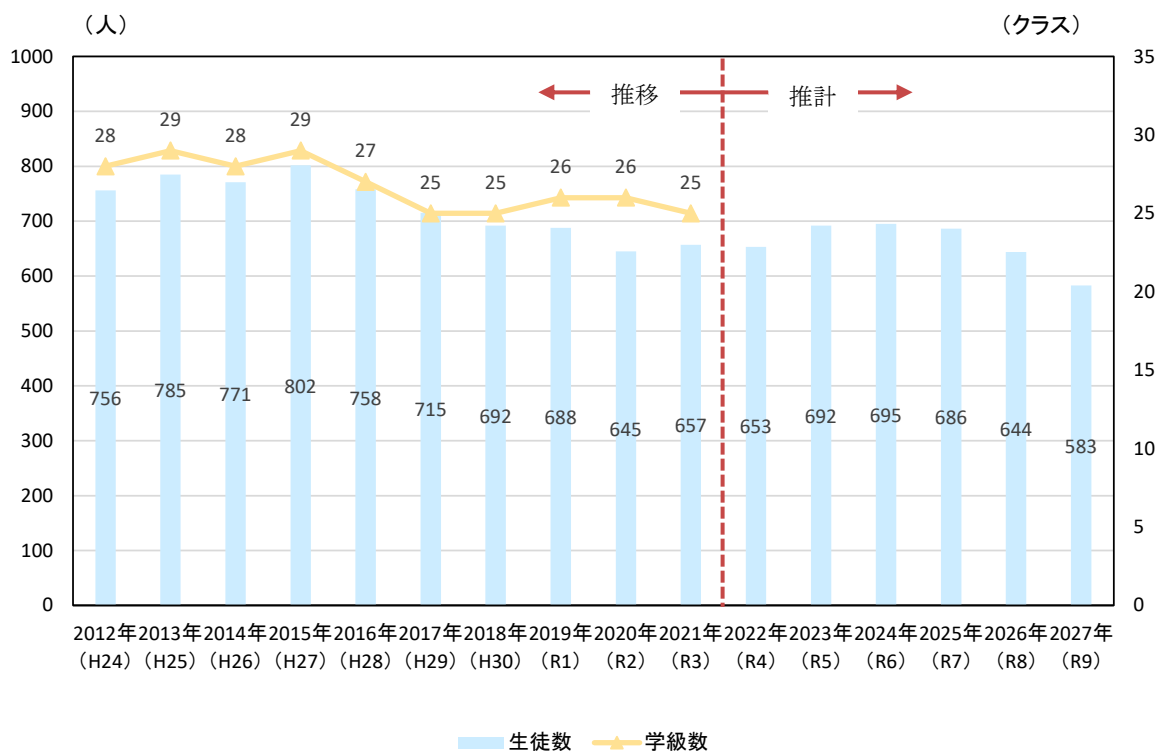
【中学校】

2027年度までの推計では、2024年度にかけて増加し、その後、減少すると予測されています。

表：生徒数の推計

単位：人

中学校	2022年 (R4)	2023年 (R5)	2024年 (R6)	2025年 (R7)	2026年 (R8)	2027年 (R9)
串木野中学校	311	325	313	311	301	281
串木野西中学校	109	121	139	132	118	106
羽島中学校	26	25	27	25	26	24
生冠中学校	46	51	39	41	35	30
市来中学校	161	170	177	177	164	142
中学校合計	653	692	695	686	644	583



図：生徒数の推計

(4) 職員数の推移

本市の小中学校、幼稚園の職員数は、小学校及び幼稚園では増減の繰り返し、中学校では減少傾向にあります。2012年と比較すると、小学校と幼稚園は増減なし、中学校で4.3ポイント減少しています。

表：小学校の職員数の推移

小学校	2012年 (H24)	2013年 (H25)	2014年 (H26)	2015年 (H27)	2016年 (H28)	2017年 (H29)	2018年 (H30)	2019年 (R1)	2020年 (R2)	2021年 (R3)	2021年/ 2012年
串木野小学校	36	35	35	34	33	36	36	35	32	37	102.8%
照島小学校	20	20	21	21	20	18	16	16	17	16	80.0%
羽島小学校	11	10	10	10	10	12	9	10	10	11	100.0%
旭小学校	8	8	8	8	7	7	8	9	9	10	125.0%
生福小学校	12	12	12	15	15	16	14	14	13	15	125.0%
荒川小学校	10	9	9	9	9	9	9	9	8	8	80.0%
市来小学校	22	21	23	22	22	24	24	24	23	23	104.5%
川上小学校	9	8	8	8	8	8	8	8	8	8	88.9%
合計	128	123	126	127	124	130	124	125	120	128	100.0%

単位：人

表：中学校の職員数の推移

中学校	2012年 (H24)	2013年 (H25)	2014年 (H26)	2015年 (H27)	2016年 (H28)	2017年 (H29)	2018年 (H30)	2019年 (R1)	2020年 (R2)	2021年 (R3)	2021年/ 2012年
串木野中学校	29	30	29	30	29	28	29	28	28	28	96.6%
串木野西中学校	20	20	20	18	17	17	18	20	18	16	80.0%
羽島中学校	12	12	12	12	12	12	13	13	12	14	116.7%
生冠中学校	12	12	12	12	12	12	13	13	13	12	100.0%
市来中学校	21	21	21	23	22	21	19	18	19	20	95.2%
合計	94	95	94	95	92	90	92	92	90	90	95.7%

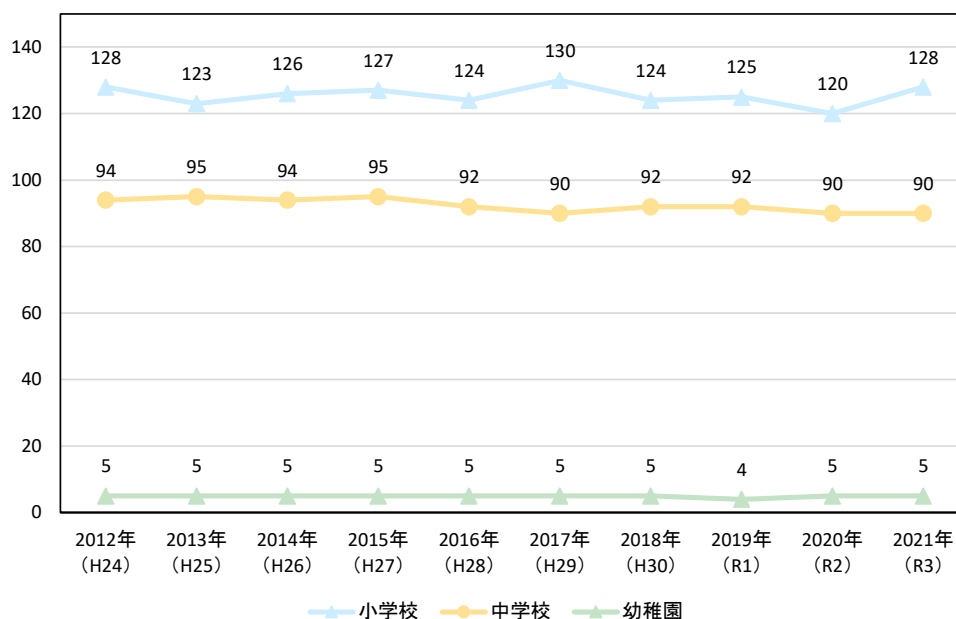
単位：人

表：幼稚園の職員数の推移

幼稚園	2012年 (H24)	2013年 (H25)	2014年 (H26)	2015年 (H27)	2016年 (H28)	2017年 (H29)	2018年 (H30)	2019年 (R1)	2020年 (R2)	2021年 (R3)	2021年/ 2012年
市来幼稚園	5	5	5	5	5	5	5	4	5	5	100.0%

単位：人

(人)



資料：いちき串木野市資料

(5) 学校施設の配置状況

令和 2 年における本市の人口は、串木野地区に 7 割半ばが集中しています。児童・生徒数も人口比率と同様な比率を示しています。人口比率が最も大きい串木野小学校校区で約 5 割を占め、児童・生徒数の比率も全小・中学校の中で約 5 割を占めています。

人口の比率に対し児童数の比率が高いのは、旭小学校、荒川小学校、生福小学校、市来小学校となっており、逆に児童数の比率が低いのは、照島小学校、羽島小学校、川上小学校となっています。

表：地区別の学校施設配置状況

地区	校区	人口	小学校	児童数	中学校	生徒数		
		比率(%)		比率(%)		比率(%)		
串木野	照島小学校区	4,999	照島小学校	202	串木野中学校	302		
		18.5		15.0				
	串木野小学校区	12,182	串木野小学校	612	串木野西中学校	121		
		45.1		45.3				
	旭小学校区	487	旭小学校	31	串木野西中学校	18.8		
		1.8		2.3				
	荒川小学校区	292	荒川小学校	29	串木野西中学校	18.8		
		1.1		2.1				
	羽島小学校区	1,538	羽島小学校	50	羽島中学校	28		
		5.7		3.7				
	生福小学校区	1,354	生福小学校	85	生冠中学校	44		
		5.0		6.3				
冠岳小学校区	196	生福小学校	6.3	生冠中学校	6.8			
	0.7							
市来	市来小学校区	5,481	市来小学校	322	市来中学校	150		
		20.3		23.9				
	川上小学校区	453	川上小学校	19			市来中学校	23.3
		1.7		1.4				
合計		26,982	合計	1,350	合計	645		
		100.0		100.0		100.0		

※ 小学校は特認校児童を含む

※ 合計は小数点以下 2 位を四捨五入しているため、必ずしも 100 とはならない

資料：庁内資料



図：校区区分図（小学校）



図：校区分図（中学校）

(6) 学校の維持管理コスト

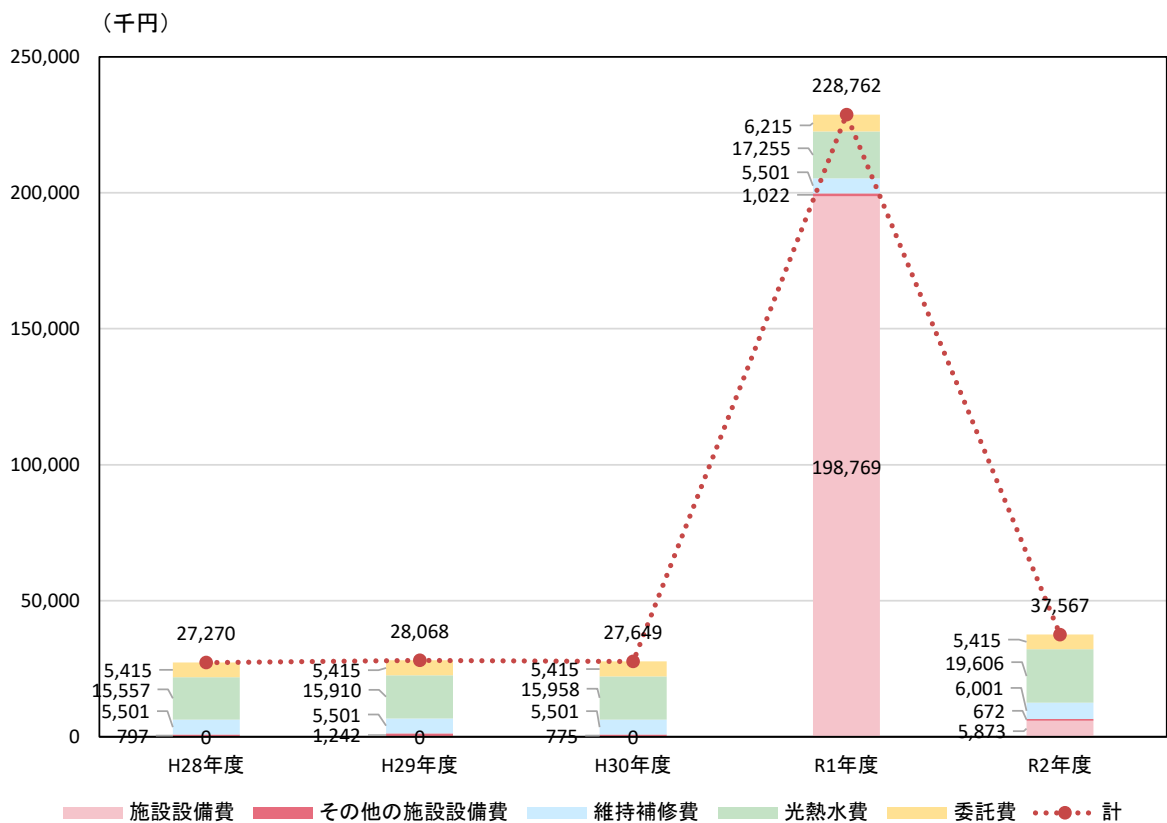
① 小学校の維持管理コストの推移

小学校の維持管理コスト（施設設備費、その他施設整備費、維持修繕費、光熱水費、委託費）に関する、平成 28 年度から令和 2 年度までの 5 年間の全体の年平均は 69,863 千円となります。内訳をみると、施設設備費は 40,928 千円、その他施設整備費は 902 千円、維持補修費は 5,601 千円、光熱水費は 16,857 千円、委託費は 5,575 千円となっています。

表：維持管理コストの推移（小学校）

単位：千円

施設名	内容	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	年平均
串木野小学校	施設設備費	0	0	0	47,960	0	9,592
	その他の施設設備費	187	280	133	234	57	178
	維持補修費	2,570	2,570	2,570	2,570	2,570	2,570
	光熱水費	4,391	4,003	4,300	4,918	6,067	4,736
	委託費	2,456	2,456	2,456	3,256	2,456	2,616
	小計	9,604	9,309	9,459	58,938	11,150	19,692
照島小学校	施設設備費	0	0	0	50,169	0	10,034
	その他の施設設備費	149	202	107	189	110	151
	維持補修費	848	848	848	848	848	848
	光熱水費	2,322	2,358	2,201	2,638	2,824	2,469
	委託費	810	810	810	810	810	810
	小計	4,129	4,218	3,966	54,654	4,592	14,312
羽島小学校	施設設備費	0	0	0	11,201	1,420	2,524
	その他の施設設備費	137	153	155	37	156	128
	維持補修費	210	210	210	210	710	310
	光熱水費	1,269	1,436	1,516	1,739	1,775	1,547
	委託費	200	200	200	200	200	200
	小計	1,816	1,999	2,081	13,387	4,261	4,709
旭小学校	施設設備費	0	0	0	6,758	0	1,352
	その他の施設設備費	121	117	87	100	89	103
	維持補修費	130	130	130	130	130	130
	光熱水費	1,036	1,073	1,063	1,191	1,164	1,105
	委託費	124	124	124	124	124	124
	小計	1,411	1,444	1,404	8,303	1,507	2,814
生福小学校	施設設備費	0	0	0	15,207	0	3,041
	その他の施設設備費	37	156	122	160	108	117
	維持補修費	357	357	357	357	357	357
	光熱水費	1,138	1,168	1,161	1,330	1,701	1,300
	委託費	341	341	341	341	341	341
	小計	1,873	2,022	1,981	17,395	2,507	5,156
荒川小学校	施設設備費	0	0	0	7,408	4,453	2,372
	その他の施設設備費	30	100	47	80	36	59
	維持補修費	121	121	121	121	121	121
	光熱水費	866	913	1,006	1,171	1,143	1,020
	委託費	116	116	116	116	116	116
	小計	1,133	1,250	1,290	8,896	5,869	3,688
市来小学校	施設設備費	0	0	0	54,450	0	10,890
	その他の施設設備費	38	137	77	132	78	92
	維持補修費	1,186	1,186	1,186	1,186	1,186	1,186
	光熱水費	3,351	3,695	3,587	3,045	3,524	3,440
	委託費	1,292	1,292	1,292	1,292	1,292	1,292
	小計	5,867	6,310	6,142	60,105	6,080	16,901
川上小学校	施設設備費	0	0	0	5,616	0	1,123
	その他の施設設備費	98	97	47	90	38	74
	維持補修費	79	79	79	79	79	79
	光熱水費	1,184	1,264	1,124	1,223	1,408	1,241
	委託費	76	76	76	76	76	76
	小計	1,437	1,516	1,326	7,084	1,601	2,593
合計	施設設備費	0	0	0	198,769	5,873	40,928
	その他の施設設備費	797	1,242	775	1,022	672	902
	維持補修費	5,501	5,501	5,501	5,501	6,001	5,601
	光熱水費	15,557	15,910	15,958	17,255	19,606	16,857
	委託費	5,415	5,415	5,415	6,215	5,415	5,575
	計	27,270	28,068	27,649	228,762	37,567	69,863



図：維持管理コストの推移（小学校）

資料：いちき串木野市資料

※各費目の内容

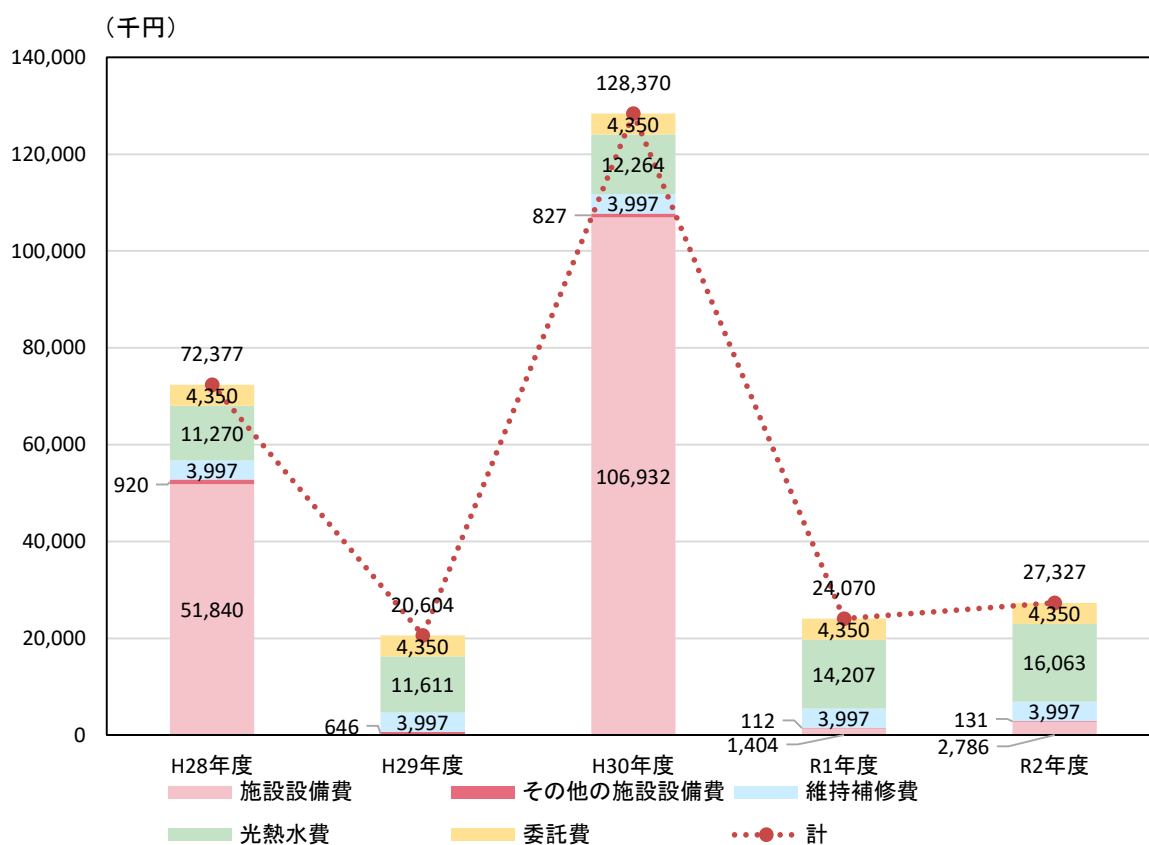
費目	内容
施設設備費	外壁改修・防水工事・エアコン取り替え等予算化された改善
その他の施設設備費	学校管理設備費(電話代・通信費)
維持補修費	営繕修理費(ドア修理、水漏れ修理など)突発的な故障や損壊に対応した修繕費用
光熱水費	水道代・電気代・灯油燃料代
委託費	外部への外注費、管理委託費等

② 中学校の維持管理コストの推移

中学校の維持管理コスト（施設設備費、その他施設整備費、維持修繕費、光熱水費、委託費）に関する、平成 28 年度から令和 2 年度までの 5 年間の全体の年平均は 54,550 千円となります。内訳をみると、施設設備費は 32,592 千円、その他施設整備費は 527 千円、維持補修費は 3,997 千円、光熱水費は 13,083 千円、委託費は 4,350 千円となっています。

表：維持管理コストの推移（中学校）

施設名	内容	単位:千円					年平均
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
串木野中学校	施設設備費	0	0	27,257	0	0	5,451
	その他の施設設備費	225	154	323	0	0	140
	維持補修費	1,872	1,872	1,872	1,872	1,872	1,872
	光熱水費	3,693	3,854	4,342	4,663	5,849	4,480
	委託費	2,038	2,038	2,038	2,038	2,038	2,038
	小計	7,828	7,918	35,832	8,573	9,759	13,982
串木野西中学校	施設設備費	0	0	15,843	1,404	0	3,449
	その他の施設設備費	198	132	84	0	0	83
	維持補修費	750	750	750	750	750	750
	光熱水費	2,095	2,078	2,187	2,822	2,561	2,349
	委託費	816	816	816	816	816	816
	小計	3,859	3,776	19,680	5,792	4,127	7,447
羽島中学校	施設設備費	0	0	11,048	0	650	2,340
	その他の施設設備費	130	121	108	0	0	72
	維持補修費	173	173	173	173	173	173
	光熱水費	1,294	1,346	1,382	1,826	1,948	1,559
	委託費	188	188	188	188	188	188
	小計	1,785	1,828	12,899	2,187	2,959	4,332
生冠中学校	施設設備費	51,840	0	12,252	0	0	12,818
	その他の施設設備費	132	100	160	0	0	78
	維持補修費	272	272	272	272	272	272
	光熱水費	1,755	1,971	2,057	2,238	2,302	2,065
	委託費	296	296	296	296	296	296
	小計	54,295	2,639	15,037	2,806	2,870	15,529
市来中学校	施設設備費	0	0	40,532	0	2,136	8,534
	その他の施設設備費	235	139	152	112	131	154
	維持補修費	930	930	930	930	930	930
	光熱水費	2,433	2,362	2,296	2,658	3,403	2,630
	委託費	1,012	1,012	1,012	1,012	1,012	1,012
	小計	4,610	4,443	44,922	4,712	7,612	13,260
合計	施設設備費	51,840	0	106,932	1,404	2,786	32,592
	その他の施設設備費	920	646	827	112	131	527
	維持補修費	3,997	3,997	3,997	3,997	3,997	3,997
	光熱水費	11,270	11,611	12,264	14,207	16,063	13,083
	委託費	4,350	4,350	4,350	4,350	4,350	4,350
	計	72,377	20,604	128,370	24,070	27,327	54,550



図：維持管理コストの推移（中学校）

資料：いちき串木野市資料

※各費目の内容（再掲）

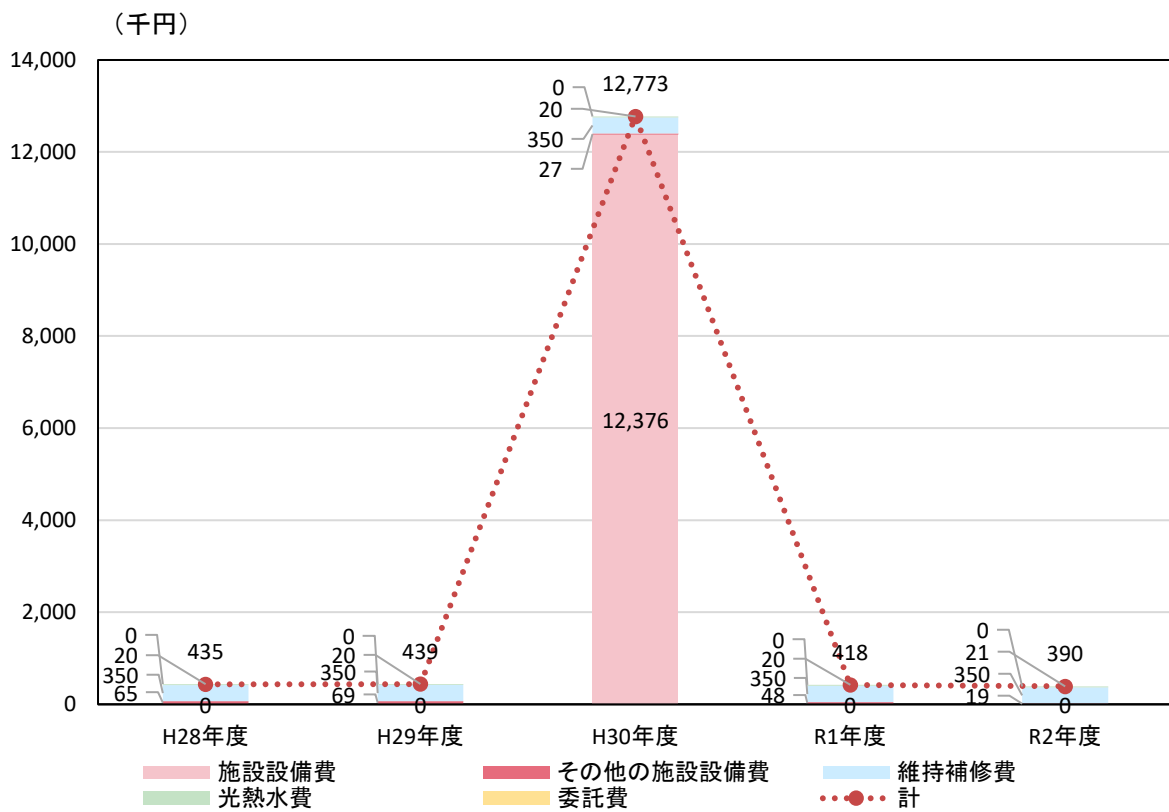
費目	内容
施設設備費	外壁改修・防水工事・エアコン取り替え等予算化された改善
その他の施設設備費	学校管理設備費(電話代・通信費)
維持補修費	営繕修理費(ドア修理、水漏れ修理など)突発的な故障や損壊に対応した修繕費用
光熱水費	水道代・電気代・灯油燃料代
委託費	外部への外注費、管理委託費等

③ 幼稚園の維持管理コスト推移

幼稚園の維持管理コスト（施設設備費、その他施設整備費、維持修繕費、光熱水費、委託費）に関する、平成 28 年度から令和 2 年度までの 5 年間の年平均は 2,891 千円となります。内訳をみると、施設設備費は 2,475 千円、その他施設整備費は 46 千円、維持修繕費は 350 千円、光熱水費は 20 千円となっており、委託費はありません。

表：管理費の推移（幼稚園）

施設名		内容						単位:千円
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	年平均	
市来幼稚園	施設設備費	0	0	12,376	0	0	2,475	
	その他の施設設備費	65	69	27	48	19	46	
	維持補修費	350	350	350	350	350	350	
	光熱水費	20	20	20	20	21	20	
	委託費	0	0	0	0	0	0	
	計	435	439	12,773	418	390	2,891	



図：維持管理コストの推移（幼稚園）

資料：いちき串木野市資料

※各費目の内容（再掲）

費目	内容
施設設備費	外壁改修・防水工事・エアコン取り替え等予算化された改善
その他の施設設備費	学校管理設備費(電話代・通信費)
維持補修費	営繕修理費(ドア修理、水漏れ修理など)突発的な故障や損壊に対応した修繕費用
光熱水費	水道代・電気代・灯油燃料代
委託費	外部への外注費、管理委託費等

(7) 学校施設の実態を踏まえた課題

本市には小学校が 8 校、中学校が 5 校、幼稚園が 1 園ありますが、人口減少や少子高齢化の影響により、15 歳未満の人口が年々減少してきており、児童数・生徒数・園児数も減少しています。

これまでに述べたように、本市の学校施設は、築 30 年以上の建物が延床面積あたりで全体の 7 割強を占めています。建物の構造の多くは、鉄筋コンクリート造（RC 造）で建てられ、耐震診断結果に基づいた耐震補強工事や大規模改修工事等を実施してきました。しかしながら、建築から長い年数が経過して建物の老朽化が進んでいるとともに設備の不具合もあり、近い将来に建替を含めた対策が必要となっています。

また、少子化の進展により児童・生徒数の減少や学校の小規模化が進んできており、今後も更なる人口減少や少子化が予測されていることを踏まえると、学校規模の適正化について検討が必要になってきます。

さらに、教育内容や教育方法等の多様化、防災機能整備、バリアフリー化、環境への配慮等、学校施設に求められる時代のニーズに対応するための対策が課題となっています。

① 厳しい財政状況を勘案した学校施設等の長期保全への取り組み

令和元年度の一般会計の決算における自主財源の割合は、歳入総額の 37.3%となっており、将来的な人口減少に伴い、地方税も減少することが予測されます。一方、歳出においては、扶助費が増加する傾向を踏まえると、財政状況がますます厳しくなっていくことになります。

本市の公共施設は、201 施設、総延床面積 179,297 m²を保有している中で、小中学校を合わせた学校施設の延床面積は全体の約 3 割で最も多くの割合を占めています。（資料：公共施設等総合管理計画）これらの学校施設等は、近い将来に改築や大規模改修を行う必要があり、市の財政の大きな負担となることが考えられます。

このため、学校施設の中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減及び予算の平準化を図りつつ、長期的な予算配分を確立していくことが必要です。

② 学校施設等の維持・改修等総合的な対応

学校施設の 7 割強が築 30 年以上と老朽化が進んでいる中で、建設当時に比べ大きく変化している多様な学習内容に応じた高機能かつ多機能な施設環境の必要性が高まっています。また、防災対策、バリアフリー対策、トイレの洋式化等の学習・生活空間としての安全性や快適性の向上を図るほか、環境負荷の低減対策等の様々な配慮が必要となっています。

施設の改修にあたっては、建築時の状態に戻すのではなく、その機能や性能を現在の学校が求められている水準まで引き上げる必要があります。その際には、安全・安心な施設環境の確保、教育環境の質的向上、地域コミュニティの拠点形成を目指して再生を行うことが重要です。

③ 小中学校の規模・配置の適正化の検討

児童・生徒数が減少し、国が定める適正規模の学校は本市では串木野小学校のみで、その他は過少規模校と小規模校となっています。このため、将来を見据えた小中学校の規模や配置の適正化が課題となっていますが、その検討にあたっては児童・生徒にとって望ましい教育環境はどうあるべきかという観点に立ち、保護者や地域住民等の理解や協力を得ながら進めていく必要があります。

表：学校規模の分類

	過小規模校	小規模校	適正規模校	大規模校	過大規模校
小学校	5学級以下	6～11学級	12～18学級	19～30学級	31学級以上
中学校	2学級以下	3～11学級			

資料：学校教育法施行規則

3. 学校施設の老朽化状況

(1) 学校施設の老朽化状況の把握

① 老朽化状況の評価

施設の健全度・劣化状況を把握し評価するために、学校施設台帳、耐震診断結果を踏まえ、さらに屋上・外壁等の実態を図るため、学校施設等 14 施設の主要建物 74 棟を対象にした目視による現地調査を行いました。

以下に示す劣化状況調査票を基に、各項目について劣化状況の確認と劣化具合の写真を撮影し、「屋根・屋上」、「外壁」に区分して評価を行いました。また、「内部仕上」、「電気設備」、「機械設備」も経過年数により評価を行い、それらを基に総合的に施設の健全度として点数化を行いました。

【劣化状況調査票】

通し番号			調査日		
学校名			学校番号		
建物名			記入者		
棟番号			建築年度	年度(年度)	
構造種別	延床面積	m	階数	地上	階 地下 階

部位	仕様 (該当する項目にチェック)	工事履歴(部位の更新)		劣化状況 (複数回答可)		特記事項	評価
		年度	工事内容	箇所数			
1 屋根 屋上	<input type="checkbox"/> アスファルト保護防水 <input type="checkbox"/> アスファルト露出防水 <input type="checkbox"/> シート防水、塗膜防水 <input type="checkbox"/> 勾配屋根(長尺金属板、折板) <input type="checkbox"/> 勾配屋根(スレート、瓦類) <input type="checkbox"/> その他の屋根 ()				<input type="checkbox"/> 降雨時に雨漏りがある <input type="checkbox"/> 天井等に雨漏り痕がある <input type="checkbox"/> 防水層に膨れ・破れ等がある <input type="checkbox"/> 屋根葺材に錆・損傷がある <input type="checkbox"/> 笠木・立上り等に損傷がある <input type="checkbox"/> 樋やルーフトンを目視点検できない <input type="checkbox"/> 既存点検等で指摘がある		
2 外壁	<input type="checkbox"/> 塗仕上げ <input type="checkbox"/> タイル張り、石張り <input type="checkbox"/> 金属系パネル <input type="checkbox"/> コンクリート系パネル(ALC等) <input type="checkbox"/> その他の外壁 () <input type="checkbox"/> アルミ製サッシ <input type="checkbox"/> 鋼製サッシ <input type="checkbox"/> 断熱サッシ、省エネガラス				<input type="checkbox"/> 鉄筋が見えているところがある <input type="checkbox"/> 外壁から漏水がある <input type="checkbox"/> 塗装の剥がれ <input type="checkbox"/> タイルや石が剥がれている <input type="checkbox"/> 大きな亀裂がある <input type="checkbox"/> 窓・ドアの廻りで漏水がある <input type="checkbox"/> 窓・ドアに錆・腐食・変形がある <input type="checkbox"/> 外部手すり等の錆・腐朽 <input type="checkbox"/> 既存点検等で指摘がある		
3. 内部	内部劣化箇所②			内部劣化箇所③			
4 内部仕上 (床・壁・天井 (内部建具) (間仕切等) (照明器具) (エアコン)等	<input type="checkbox"/> 老朽改修 <input type="checkbox"/> エコ改修 <input type="checkbox"/> トイレ改修 <input type="checkbox"/> 法令適合 <input type="checkbox"/> 校内LAN <input type="checkbox"/> 空調設置 <input type="checkbox"/> 障害児等対策 <input type="checkbox"/> 防犯対策 <input type="checkbox"/> 構造体の耐震対策 <input type="checkbox"/> 非構造部材の耐震対策 <input type="checkbox"/> その他、内部改修工事	修繕・点検項目	改修・点検年度	特記事項(改修内容及び点検等による指摘事項)			評価
5 電気設備	<input type="checkbox"/> 分電盤改修 <input type="checkbox"/> 配線等の敷設工事 <input type="checkbox"/> 昇降設備保守点検 <input type="checkbox"/> その他、電気設備改修工事						
6 機械設備	<input type="checkbox"/> 給水配管改修 <input type="checkbox"/> 排水配管改修 <input type="checkbox"/> 消防設備の点検 <input type="checkbox"/> その他、機械設備改修工事						
7 設備情報	<input type="checkbox"/> トイレのドライ化 <input type="checkbox"/> 木質化	<input type="checkbox"/> 太陽光発電 <input type="checkbox"/> 屋上緑化	<input type="checkbox"/> エレベーター <input type="checkbox"/> 多目的トイレ	<input type="checkbox"/> 点字ブロック <input type="checkbox"/> 手すり	<input type="checkbox"/> スロープ		

特記事項(改修工事内容や12条点検、消防点検など、各種点検等による指摘事項が有れば、該当部位と指摘内容を記載)

	健全度
	0 / 100点

【評価指標】

目視による評価 (屋根・屋上・外壁)		経過年数による評価 (内部仕上、電気設備、機械設備)	
評価	基準	評価	基準
A	おおむね良好	A	20年未満
B	部分的に劣化 (安全上・機能上：問題なし)	B	20～40年
C	広範囲に劣化 (安全上・機能上：不具合発生の兆し)	C	40年以上
D	早急に対応する必要がある	D	経過年数に関わらず 著しい劣化事象がある

図：評価指標

【健全度の算定】

健全度とは、各建物の5つの部位について劣化状況を4段階で評価し、100点満点で数値化した評価指標です。部位のコスト配分を下表のように定め、健全度を100点満点で算定します。

表：部位の評価点

評価	評価点
A	100
B	75
C	40
D	10

表：部位のコスト配分

部位	コスト配分
屋根・屋上	5.1
外壁	17.2
内部仕上	22.4
電気設備	8.0
機械設備	7.3
合計	60.0

- 計算例：総和（部位の評価点×部位のコスト配分）÷ 60（コスト配分合計）











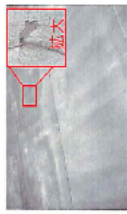




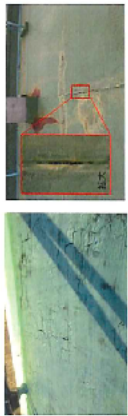


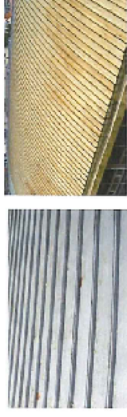

表：計算例

部位	評価	→	評価点例	×	コスト配分	=	配分評価点
屋根・屋上	C	→	40	×	5.1	=	204
外壁	D	→	10	×	17.2	=	172
内部仕上	B	→	75	×	22.4	=	1,680
電気設備	A	→	100	×	8.0	=	800
機械設備	C	→	40	×	7.3	=	292
計							3,148
							÷60
健全度							52

※健全度は、数値が小さいほど劣化が進んでいることを示します。

出典：学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書（文部科学省）

【評価基準：屋根・屋上】

目視状況写真事例に照らしてA、B、C、Dの4段階で評価する。	良好		劣化	
	評価仕様	A	B	C
アスファルト保護防水	 <p>良好 (汚れている程度) (改修後10年以内)</p>	 <p>部分的に、ひび割れ、変質、排水不良、目地シーリングの損傷がある。</p>	 <p>広範囲に、ひび割れ、変質、排水不良、土砂の堆積、雑草、目地シーリングの損傷が見られ、最上階天井に漏水痕がある。</p>	 <p>広範囲に、根張、幅広のひび割れ、排水不良があり、最上階天井に漏水が複数箇所ある。</p>
アスファルト露出防水	 <p>良好 (汚れている程度) (改修後10年以内)</p>	 <p>部分的に、ふくれ、しわ、変質(摩耗)、排水不良がある。</p>	 <p>広範囲に、ひび割れ、変質(摩耗)、排水不良、土砂の堆積、雑草が見られ、最上階天井に漏水痕がある。</p>	 <p>広範囲に、破断、根張、下地露出、幅広のひび割れがあり、最上階天井に漏水が複数箇所ある。</p>
シート防水	 <p>良好 (汚れている程度) (改修後10年以内)</p>	 <p>部分的に、ふくれ、しわ、変質(摩耗)、排水不良がある。</p>	 <p>広範囲に、ふくれ、しわ、穴あき、変質(摩耗)、排水不良、土砂の堆積、雑草が見られ、最上階天井に漏水痕がある。</p>	 <p>広範囲に、破断、めくれ、下地露出があり、最上階天井に漏水が複数箇所ある。</p>
塗膜防水	 <p>良好 (汚れている程度) (改修後10年以内)</p>	 <p>部分的にふくれ、しわ、変質(摩耗)、排水不良がある。</p>	 <p>広範囲にふくれ、しわ、穴あき、変質(摩耗)、排水不良、ひび、取付金物のさび、部分的な腐食・根張があり、最上階天井に漏水痕がある。</p>	 <p>広範囲に、破断、めくれ、下地露出があり、最上階天井に漏水が複数箇所ある。</p>
金属板(長尺、折板、平葺き)	 <p>良好 (汚れている程度) (改修後10年以内)</p>	 <p>部分的に、根張のほがれ、さび、変質、シーリング材のひび、取付金物のさび、部分的な腐食・根張がある。</p>	 <p>広範囲に、根張のほがれ、さび、変質、シーリング材のひび、取付金物のさび、部分的な腐食・根張があり、最上階天井に漏水痕がある。</p>	 <p>広範囲に、さび、ほがれ、腐食、取付金物の根張があり、最上階天井に漏水が複数箇所ある。</p>

《解説》

《点検項目》

- ✓ 最上階の天井において、降雨時やその翌日の雨漏りがないか。または、雨漏りが原因と思われるシミやカビがないか。
- ✓ 防水面において、膨れ、剥がれ、破れ、穴開きなどがないか。
- ✓ 金属屋根においては、錆・損傷・腐食などがないか。
- ✓ 上記のような劣化現象の箇所数を記入。

《点検の留意点》

- ✓ ルーフドレイン(屋上排水口)や排水溝は、緩い勾配がつけられている屋上で、最も低い部分で、土砂などが溜まりやすくなっており、ここが詰まると屋上に水溜りができてしまい、劣化が進み、漏水が発生する恐れがある。
- ✓ 目視だけでなく歩行により、浮きや水ぶくれ等がないか確認する。
- ✓ パラペット立上り部分の防水部で、剥がれ等がないか確認する。
- ✓ 屋内運動場の屋根は、容易に登れない場合は隣接する校舎の屋上等から観察する。
- ✓ 1箇所の劣化現象だけでなく、全体の経年状況等を踏まえる。
- ✓ 現状のまま放置すると、他の場所でも同じように劣化が進行する可能性がある場合は評価を1段階引き下げる。
- ✓ 現状として、降雨時に複数箇所を雨漏りしている場合はD評価とする。半断半雨漏り痕で行う場合は概ね10箇所以上をD評価とする。ただし、屋上防水は改修済みでも、天井ボードは既存のままとなっている学校が多く、見逃める必要がある。

【評価基準：外壁】

仕様	目視状況を写真事例に照らしてA、B、C、Dの4段階で評価する。			
	良好 A	良好 B	C	劣化 D
塗り仕上げ	 <p>良好 (汚れている程度) (改修後10年以内)</p>	 <p>部分的に、ひび割れ、変質・浮き・さび汁がある。</p>	 <p>広範囲に、ひび割れ・変質・浮き・さび汁があり、小規模な漏水がある。</p>	 <p>広範囲に、剥落・燻裂・幅広のひび割れがあり、内部の床に水たまり、漏水が複数箇所ある。</p>
タイル張り 石張り	 <p>良好 (汚れている程度) (改修後10年以内)</p>	 <p>部分的に、ひび割れ・変質・浮き・はらみ・さび汁・シーリング材のひび割れがある。</p>	 <p>広範囲に、ひび割れ・変質・浮き・はらみ・さび汁・シーリング材のひび割れがある。</p>	 <p>広範囲に、剥落・燻裂・幅広のひび割れがあり、内部の床に水たまり、漏水が複数箇所ある。</p>
金属系 パネル	 <p>良好 (汚れている程度) (改修後10年以内)</p>	 <p>部分的に、さび・変質・シーリング材のひび割れがある。</p>	 <p>広範囲に、さび・変質・シーリング材のひび割れ・取付金物のさびがあり、小規模な漏水がある。</p>	 <p>広範囲に、さび・腐食・ぐらつき・取付金物の腐食があり、内部の床に水たまり、漏水が複数箇所ある。</p>
セメント系 パネル	 <p>良好 (汚れている程度) (改修後10年以内)</p>	 <p>部分的に、ひび割れ・変質・欠損・シーリング材のひび割れがある。</p>	 <p>広範囲に、ひび割れ・変質・シーリング材のひび割れ・取付金物のさびがあり、小規模な漏水がある。</p>	 <p>欠損・ぐらつき・取付金物の腐食・シーリング材の欠損があり、内部の床に水たまり、漏水が複数箇所ある。</p>
窓 (サッシ)	 <p>良好 (汚れている程度) (改修後10年以内)</p>	 <p>部分的に、変形・変質・シーリング材の硬化。</p>	 <p>全体的に、変形・変質・さび・シーリングの硬化・ひび割れが見られる。</p>	 <p>全体的に腐食・損壊・開閉不良があり、漏水がある。</p>

目視状況を写真事例に照らしてA、B、C、Dの4段階で評価する。

《解説》

《点検項目》

- 外壁において、コンクリートが剥落し、鉄筋が露出している箇所はないか。
- 外壁の室内側において、雨漏りと思われるシミ・垂れや塗膜の剥がれがないか。
- また、降雨時や翌日に床面に水溜りができていないか。
- 外装材（モルタル・タイル・吹き付け材などの仕上げ材）の燻裂、浮き、剥離、ひび割れ及び破損などがないか。
- 柱・梁、窓番などの腐食、変形、ぐらつきなどがないか。
- 窓枠と外壁との隙間に隙間が確認されているシーリング材に硬化、切れ、剥れなどがないか。
- 上記のような劣化事象の箇所数を記入。




《点検の留意点》

- 目視によって外壁の状態を確認する。大きな損傷、変形、腐食などがないかを確認する。
- 外壁のタイル、モルタルなどに剥落やふくれ、浮きを発見した場合、直ちに、周囲に立ち入りできないよう措置を行う。また、部分的に打診による浮きの確認をすることが望ましい。
- スチールサッシは、錆の影響による開閉不良・錠の破損等について確認する必要がある。
- 雨漏り痕で行う場合は概ね10箇所以上をD評価とする。判断を築物の露出は、概ね5箇所以上をD評価とする。

出典：学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書（文部科学省）

【評価基準：内部仕上、電気設備、機械設備】

部位の全面的な改修年からの経過年数を基本にA、B、C、Dの4段階で評価する。

CまたはDの事象(例)	
<p>● 床、壁、天井</p> <p>● 内部開口部(扉、窓、防火戸)</p> <p>● 室内表示、手すり、固定家具など</p> <p>● 照明器具、衛生器具、冷暖房器具</p>	<p>● 内部仕上げと設備機器について、該当建物の概ね半分以上の部屋(床面積)にわたって行った改修工事の実施年数を基準とし、経過年数で評価する。 (対象外の工事の例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定の教室のみの改修 ・天井張替え、壁の塗り替え、照明器具交換など、部位、機器のみの改修工事 ● 広範囲(25%以上の面積)または箇所(5か所以上)に劣化事象がみられる場合は、評価を1段階下げることを目安とする。  <p>天井材の落下、剥がれ</p>  <p>床のひび割れ</p>  <p>灰仕上の剥がれ</p>
<p>● 建物内の分電盤・配線・配管について、該当建物の概ね半分以上の部屋(床面積)にわたって行った改修工事の実施年数を基準とし、経過年数で評価する。 (対象外の工事の例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受変電設備の更新 ・防災設備、放送設備など、単独設備の更新 <p>(評価例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制御盤室やコンピュータ室などの改修(整備)はしているが、他の部分は40年以上経過している場合は、C評価 	<p>● 建物内の分電盤・配線・配管 (電灯・コンセント設備) (弱電設備)</p> <p>受変電設備、自家発電設備、幹線設備は、学校施設の共用設備のため対象外とする。</p>
<p>● 建物内の給水配管・給湯配管・排水配管・ガス配管</p>	<p>● 建物内の給水配管・給湯配管・排水配管・ガス配管</p> <p>受水槽、高圧水槽、浄化槽、各種ポンプ、屋外配管は、共用設備のため対象外とする。</p>

《解説》

内部仕上と設備は修繕・改修や点検の履歴を基に、経過年数により4段階で評価することを基本とする。ただし、現地目視により、左頁にあるような事象が認められ、それらも加味して総合的に評価すること。

対象となる部位、及びC/D評価に該当する事象例を右表に示す。

《点検項目》

- ▽ 内部においては、床・壁・天井のコンクリートの亀裂やポード類の浮きや異変などがないか。
- ▽ 天井ポードの落下や床シートの剥がれなどにより安全性が損なわれているところがないか。
- ▽ 設備機器においては、機器や装置に錆・損傷・変色などがないか。
- ▽ 設備機器に漏水・漏油などがないか。
- ▽ 給水設備においては、使用水に赤水や異臭がないか。
- ▽ 機器から異音はしていないか。
- ▽ 保守点検や消防の点検などでは正措置等の指摘がないか。

《点検の留意点》

- ▽ 目視によって状態を確認する。大きな損傷、変形、腐食などがないかを確認する。
- ▽ 受変電設備等の高圧機器は、メンテナンスの外から目視により確認する。
- ▽ 施設管理者からのヒアリングも有効。
- ▽ 日視で評価する場合、複数台あるうち、1台の機器の劣化事象だけで判断するのではなく、設備全体として評価する。

② 老朽化状況の実態

現地の目視評価を踏まえた劣化状況による建物の健全度について、評価結果を以下に示します。

表：劣化状況（1/3）

A : 概ね良好 C : 広範囲に劣化
B : 部分的に劣化 D : 早急に対応する必要がある

 : 築50年以上 : 築30年以上 基準 2021

建物基本情報													構造躯体の健全性					劣化状況評価					備考			
通し番号	学校調査番号	施設名	建物名	棟番号	固定資産台帳番号	用途区分		構造	階数	延床面積(m ²)	建築年度		耐震安全性			長寿命化判定			屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備		機械設備	健全度(100点満点)	
						学校種別	建物用途				西暦	和暦	築年数	基準	診断	補強	調査年度	圧縮強度(N/mm ²)								試算上の区分
1	1063	串木野小学校	管理棟1F	001		小学校	校舎	RC	1	195	1972	S47	49	旧	済	-	H21	17.9	長寿命	-	B	B	A	A	82	耐震性あり/H24大規模
2	1063	串木野小学校	管理棟1F	001-1		小学校	校舎	RC	1	160	1973	S48	48	旧	済	-	H21	17.9	長寿命	-	A	A	A	A	100	耐震性あり/H24大規模
3	1063	串木野小学校	管理棟2F	001-2		小学校	校舎	S	2	316	1978	S53	43	旧	済	済	H21	-	長寿命	A	A	A	A	A	100	H24耐震、大規模
4	1063	串木野小学校	階段室	001-3		小学校	校舎	S	2	6	1978	S53	43	旧	済	済	H21	-	長寿命	A	C	A	A	-	80	H24耐震、大規模
5	1063	串木野小学校	教室棟	011-1		小学校	校舎	RC	2	440	1963	S38	58	旧	済	-	H20	14.4	長寿命	C	C	C	C	D	36	H7大規模
6	1063	串木野小学校	教室棟	011-2		小学校	校舎	RC	2	360	1964	S39	57	旧	済	-	H20	14.4	長寿命	C	C	C	C	D	36	H7大規模
7	1063	串木野小学校	教室棟	011-3		小学校	校舎	RC	2	281	1965	S40	56	旧	済	-	H20	14.4	長寿命	C	C	C	C	D	36	H7大規模
8	1063	串木野小学校	教室棟	011-4		小学校	校舎	RC	2	292	1965	S40	56	旧	済	-	H20	14.4	長寿命	C	C	C	C	D	36	H7大規模
9	1063	串木野小学校	屋内運動場	018		小学校	体育館	RC	1	1,109	1969	S44	52	旧	済	済	H20	15.2	長寿命	A	A	A	A	A	100	H24耐震、大規模
10	1063	串木野小学校	教室棟	037		小学校	校舎	RC	2	872	1999	H11	22	新	-	-	-	-	長寿命	B	B	B	B	B	75	
11	1063	串木野小学校	教室棟	038		小学校	校舎	RC	2	2,112	1999	H11	22	新	-	-	-	-	長寿命	B	C	B	B	B	65	
12	1063	串木野小学校	教室棟	039		小学校	校舎	RC	2	1,487	2000	H12	21	新	-	-	-	-	長寿命	B	B	B	B	B	75	
13	1064	照島小学校	教室棟	001		小学校	校舎	RC	2	1,209	1973	S48	48	旧	済	-	H19	21.3	長寿命	A	B	A	A	A	93	H26北校舎大規模改修/H30空調
14	1064	照島小学校	教室棟	001-1		小学校	校舎	RC	2	394	1976	S51	45	旧	済	済	H19	18.2	長寿命	A	B	A	A	A	93	H26耐震大規模/H30空調
15	1064	照島小学校	管理棟	002		小学校	校舎	RC	2	1,451	1979	S54	42	旧	済	-	H21	18	長寿命	C	D	C	C	D	28	H30空調
16	1064	照島小学校	管理棟	002-1		小学校	校舎	RC	2	507	1980	S55	41	旧	済	-	H21	18	長寿命	C	D	C	C	D	28	
17	1064	照島小学校	屋内運動場	004		小学校	体育館	RC	1	919	1986	S61	35	新	-	-	-	-	長寿命	B	C	B	B	B	65	R1最上部防水全面改修/H27防災機能強化(シルバーケル補強)
18	1065	羽島小学校	管理教室棟	001		小学校	校舎	RC	2	1,398	1982	S57	39	新	-	-	-	-	長寿命	C	D	B	B	B	53	H30空調
19	1065	羽島小学校	教室棟	003-1		小学校	校舎	RC	2	832	1966	S41	55	旧	済	-	H20	17.1	長寿命	C	C	C	C	D	36	H30空調
20	1065	羽島小学校	教室棟	003-2		小学校	校舎	RC	2	230	1967	S42	54	旧	済	-	H20	17.1	長寿命	C	C	C	C	D	36	H30空調
21	1065	羽島小学校	屋内運動場	015		小学校	体育館	RC	2	781	1985	S60	36	新	-	-	-	-	長寿命	D	D	B	B	B	51	
22	1066	旭小学校	管理棟	001		小学校	校舎	W	1	302	1972	S47	49	旧	済	-	H24	-	長寿命	B	B	C	C	D	49	壁量確認済/H25屋根外装塗装
23	1066	旭小学校	図書室	002		小学校	校舎	W	2	168	1990	H2	31	新	-	-	-	-	長寿命	B	B	B	B	B	75	H25屋根外装塗装
24	1066	旭小学校	教室棟	003		小学校	校舎	W	1	427	1972	S47	49	旧	済	-	H24	-	長寿命	C	C	C	C	D	36	壁量確認済/H25外壁改修、屋根塗装/H30空調
25	1066	旭小学校	音楽室	006-1		小学校	校舎	W	1	94	1972	S47	49	旧	済	-	H24	-	長寿命	C	A	C	C	D	54	壁量確認済/H25外壁改修、屋根塗装
26	1066	旭小学校	給食室	006-2		小学校	その他	W	1	7	1982	S57	39	新	-	-	-	-	長寿命	A	A	B	B	-	86	H25屋根外壁塗装
27	1066	旭小学校	給食室	006-3		小学校	その他	W	1	4	1998	H10	23	新	-	-	-	-	長寿命	A	B	B	B	-	77	
28	1066	旭小学校	屋内運動場	008		小学校	体育館	S	1	532	1976	S51	45	旧	済	済	H19	-	長寿命	C	B	A	A	A	88	H20大規模/H20(特)地震補強

表：劣化状況 (2/3)

健全度判定表(文科省エクセルソフト)

■: 築50年以上 □: 築30年以上 基準 2021

A: 概ね良好 C: 広範囲に劣化
B: 部分的に劣化 D: 早急に対応する必要がある

建物基本情報													構造躯体の健全性					劣化状況評価					備考			
通し番号	学校調査番号	施設名	建物名	棟番号	固定資産台帳番号	用途区分		構造	階数	延床面積(m ²)	建築年度		耐震安全性			長寿命化判定			屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備		機械設備	健全度(100点満点)	
						学校種別	建物用途				西暦	和暦	築年数	基準	診断	補強	調査年度	圧縮強度(N/mm ²)								試算上の区分
29	1067	生福小学校	管理・特別教室棟	001		小学校	校舎	RC	2	577	1989	H元	32	新	-	-	-	-	長寿命	C	B	B	B	B	72	
30	1067	生福小学校	教室棟	007-1		小学校	校舎	RC	2	687	1968	S43	53	旧	済	済	H21	17.7	長寿命	D	B	A	A	A	85	H26耐震大規模/H30空調
31	1067	生福小学校	教室棟	007-2		小学校	校舎	RC	2	276	1978	S53	43	旧	済	済	H21	17.7	長寿命	A	B	A	A	A	93	H26耐震大規模
32	1067	生福小学校	屋内運動場	008		小学校	体育館	RC	1	576	1981	S56	40	新	-	-	-	-	長寿命	D	C	C	C	D	34	
33	1068	荒川小学校	音楽室	001		小学校	校舎	W	1	164	1977	S52	44	旧	-	-	-	-	改築	C	C	C	C	D	36	
34	1068	荒川小学校	多目的教室	003-1		小学校	校舎	RC	1	311	1964	S39	57	旧	済	-	H20	18.5	長寿命	D	C	C	C	D	34	耐震性あり/H30空調
35	1068	荒川小学校	給食室	003-2		小学校	校舎	W	1	6	1982	S57	39	新	-	-	-	-	長寿命	C	C	B	B	B	62	
36	1068	荒川小学校	屋内運動場	010		小学校	体育館	RC	1	532	1975	S50	46	旧	済	済	H19	27	長寿命	B	B	C	A	A	68	H20大規模/H20(特)地震補強
37	1068	荒川小学校	普通教室	015		小学校	校舎	RC	2	389	1986	S61	35	新	-	-	-	-	長寿命	D	B	B	B	B	70	H30空調
38	1253	市来小学校	特別教室棟	002		小学校	校舎	S	1	300	1968	S43	53	旧	済	-	H21	S	長寿命	B	C	C	C	D	39	耐震性あり
39	1253	市来小学校	屋内運動場	003		小学校	体育館	RC	1	804	2003	H15	18	新	-	-	-	-	長寿命	B	B	A	A	A	91	
40	1253	市来小学校	教室棟	016		小学校	校舎	RC	3	992	1971	S46	50	旧	済	済	H17	14.1	長寿命	B	C	B	A	A	71	H18大規模改造(老朽)、地震補強
41	1253	市来小学校	教室棟	017		小学校	校舎	RC	3	1,752	1972	S47	49	旧	済	済	H17	14.1	長寿命	B	B	A	A	A	91	H18大規模改造(老朽)、地震補強
42	1253	市来小学校	特別教室棟	021		小学校	校舎	RC	2	475	1983	S58	38	新	-	-	-	-	長寿命	B	C	B	B	B	65	
43	1254	川上小学校	屋内運動場	001		小学校	体育館	RC	1	573	1979	S54	42	旧	済	済	H19	24.9	長寿命	B	C	B	A	A	71	H22大規模改造(老朽)、(特)地震補強
44	1254	川上小学校	教室棟	003		小学校	校舎	RC	3	1,106	1966	S41	55	旧	済	済	H19	15.1	長寿命	A	B	A	A	A	93	H19耐震診断より便所棟(14号棟)と分離/H25地震補強及び大規模改造/H30空調
45	1254	川上小学校	家庭科室	008		小学校	校舎	W	1	250	1990	H2	31	新	-	-	-	-	長寿命	B	B	B	B	B	75	
46	4032	串木野中学校	校舎	030-1		中学校	校舎	RC	3	3,092	1993	H5	28	新	-	-	-	-	長寿命	D	B	B	B	B	70	H27屋根一部葺替え
47	4032	串木野中学校	校舎	030-2		中学校	校舎	RC	3	443	1993	H5	28	新	-	-	-	-	長寿命	B	B	B	B	B	75	H27屋根一部葺替え
48	4032	串木野中学校	校舎	030-3		中学校	校舎	RC	3	2,980	1993	H5	28	新	-	-	-	-	長寿命	B	B	B	B	B	75	H27屋根一部葺替え
49	4032	串木野中学校	屋内運動場	032-1		中学校	体育館	RC	3	1,910	1996	H8	25	新	-	-	-	-	長寿命	B	C	B	B	B	65	H27防災機能強化(吊天井撤去他)
50	4032	串木野中学校	屋体クラブハウス	032-2		中学校	その他	RC	3	200	1996	H8	25	新	-	-	-	-	長寿命	C	B	B	B	B	72	
51	4032	串木野中学校	柔剣道場	032-3		中学校	武道場	RC	3	750	1996	H8	25	新	-	-	-	-	長寿命	-	C	B	B	B	64	H27防災機能強化(吊天井撤去他)
52	4032	串木野中学校	部室	032-4		中学校	その他	RC	3	297	1996	H8	25	新	-	-	-	-	長寿命	-	A	B	B	B	83	
53	4033	串木野西中学校	管理教室棟	001		中学校	校舎	RC	3	1,627	1970	S45	51	旧	済	済	H9	20.9	長寿命	A	A	A	A	A	100	H27地震補強、大規模改造、空調改修、防災機能強化(外壁)
54	4033	串木野西中学校	教室棟	001-1		中学校	校舎	RC	3	1,468	1971	S46	50	旧	済	済	H9	20.9	長寿命	A	A	A	A	A	100	H27地震補強、大規模改造、空調改修、防災機能強化(外壁)
55	4033	串木野西中学校	特別教室棟	002		中学校	校舎	RC	2	821	1971	S46	50	旧	済	-	H21	16.5	長寿命	C	D	C	C	D	28	
56	4033	串木野西中学校	屋内運動場	003		中学校	体育館	RC	1	919	1971	S46	50	旧	済	済	H19	18	長寿命	D	D	D	A	A	33	H20大規模/H20(特)地震補強

表：劣化状況（3/3）

健全度判定表(文科省エクセルソフト)

■:築50年以上 □:築30年以上 基準 2021

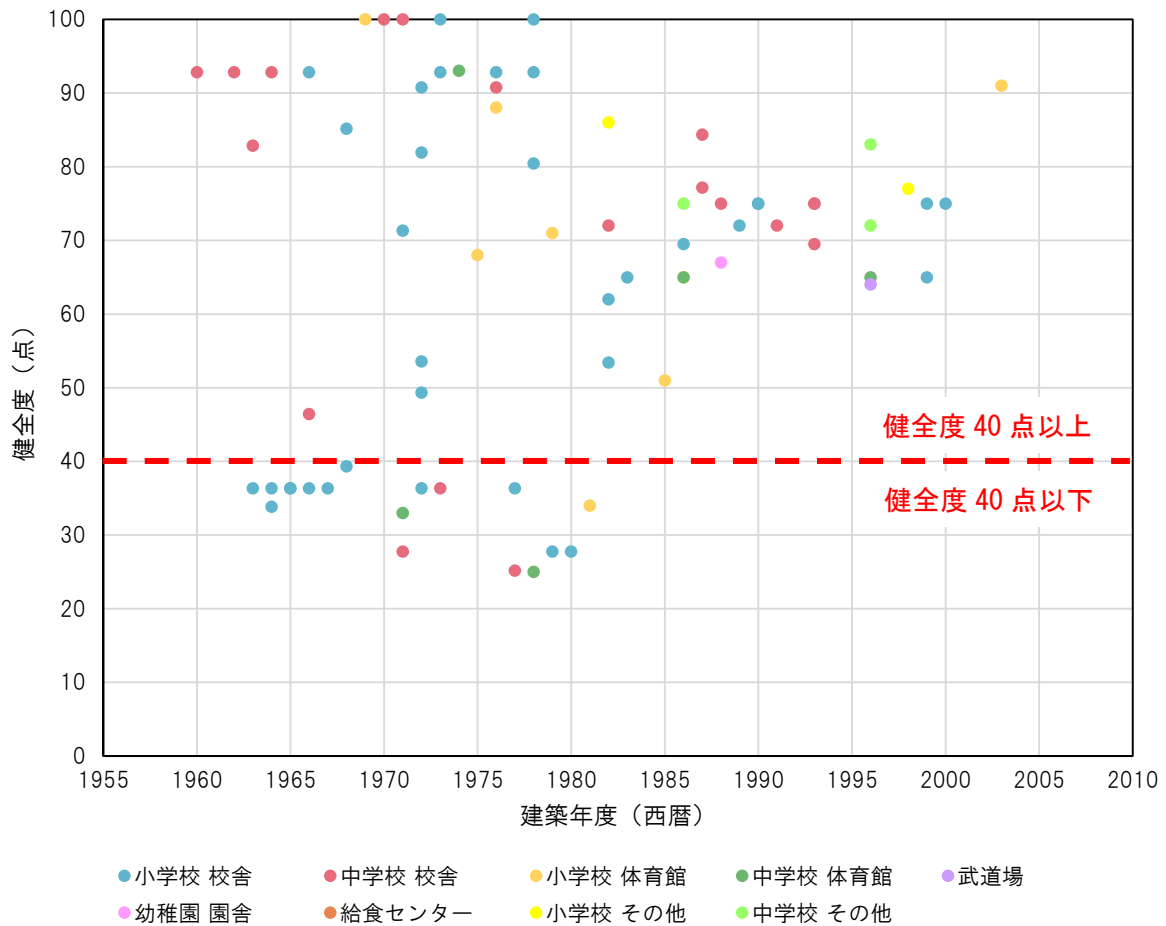
A:概ね良好 C:広範囲に劣化
B:部分的に劣化 D:早急に対応する必要がある

建物基本情報													構造躯体の健全性					劣化状況評価					備考			
通し 番号	学校 調査 番号	施設名	建物名	棟番号	固定資産 台帳番号	用途区分		構造	階数	延床 面積 (㎡)	建築年度		耐震安全性			長寿命化判定			屋根・ 屋上	外 壁	内 部 仕 上	電 気 設 備		機 械 設 備	健全度 (100点 満点)	
						学校種別	建物用途				西暦	和暦	築年数	基準	診断	補強	調査 年度	圧縮 強度 (N/mm ²)								試算上 の区分
57	4034	羽島中学校	管理教室棟	001		中学校	校舎	RC	3	1,576	1976	S51	45	旧	済	済	H9	23	長寿命	B	B	A	A	A	91	H23地震補強+大規模改造(老朽)
58	4034	羽島中学校	印刷室	001-2		中学校	校舎	RC	1	14	1987	S62	34	新	-	-	-	-	長寿命	A	A	B	B	B	84	
59	4034	羽島中学校	特別教室棟	004		中学校	校舎	RC	3	600	1987	S62	34	新	済	-	-	-	長寿命	A	B	B	B	B	77	H27屋上防水更新
60	4034	羽島中学校	屋内運動場	018		中学校	体育館	RC	1	614	1978	S53	43	旧	済	-	H20	19.9	長寿命	D	D	C	C	D	25	
61	4035	生冠中学校	特別教室棟	002		中学校	校舎	RC	2	459	1988	S63	33	新	-	-	-	-	長寿命	B	B	B	B	B	75	
62	4035	生冠中学校	管理教室棟	004		中学校	校舎	RC	2	1,105	1977	S52	44	旧	済	-	H21	17	長寿命	D	D	C	C	D	25	H15教育相談室増築8.0㎡
63	4035	生冠中学校	屋内運動場	012		中学校	体育館	RC	1	621	1974	S49	47	旧	済	済	H19	19.6	長寿命	A	B	A	A	A	93	H20大規模/H20(特)地震補強
64	4127	市来中学校	音楽室	008-1		中学校	校舎	RC	2	185	1960	S35	61	旧	済	済	H20	12.9	要調査	A	B	A	A	A	93	H27地震補強、大規模改造
65	4127	市来中学校	多目的室	008-2		中学校	校舎	RC	2	365	1962	S37	59	旧	済	済	H20	12.9	要調査	A	B	A	A	A	93	H27地震補強、大規模改造
66	4127	市来中学校	普通教室	008-3		中学校	校舎	RC	2	842	1963	S38	58	旧	済	済	H20	12.9	要調査	A	C	A	A	A	83	H27地震補強、大規模改造
67	4127	市来中学校	多目的室	008-4		中学校	校舎	RC	2	447	1964	S39	57	旧	済	-	H20	12.9	要調査	A	B	A	A	A	93	H27大規模改造
68	4127	市来中学校	特別教室棟	012		中学校	校舎	RC	1	261	1966	S41	55	旧	済	-	H20	17.3	長寿命	C	B	C	C	D	46	
69	4127	市来中学校	特別教室棟	016		中学校	校舎	RC	2	464	1973	S48	48	旧	済	済	H21	15.8	長寿命	C	C	C	C	D	36	
70	4127	市来中学校	管理棟	018		中学校	校舎	RC	2	630	1982	S57	39	新	-	-	-	-	長寿命	C	B	B	B	B	72	
71	4127	市来中学校	屋内運動場	020		中学校	体育館	RC	1	1,131	1986	S61	35	新	-	-	-	-	長寿命	B	C	B	B	B	65	
72	4127	市来中学校	WC	020-1		中学校	その他	RC	1	174	1986	S61	35	新	-	-	-	-	長寿命	B	B	B	B	B	75	
73	4127	市来中学校	パソコン室	023		中学校	校舎	RC	2	149	1991	H3	30	新	-	-	-	-	長寿命	C	B	B	B	B	72	
74	7004	市来幼稚園	園舎	007		幼稚園	園舎	RC	2	746	1988	S63	33	新	-	-	-	-	長寿命	A	C	B	B	B	67	H30教室・遊戯室空調整備

小学校の対象建物全 45 棟の健全度の平均値は 64.9 点、健全度 40 点未満の建物は 13 棟あり、中学校においては全 28 棟の平均値は 70.1 点、健全度 40 点未満の建物は 5 棟となっています。幼稚園の対象施設 1 棟の健全度は 67 点となっています。

建築年度と健全度の関係を見ると、建築年度が古いほど健全度が低く、新しくなるにつれて健全度が高くなりますが、段階的に大規模改造工事を行っており、古い建物でも健全度が高いものもあります。

なお、健全度 40 点未満なら優先的に長寿命化等の対策を講じることが望ましいとされています。



図：建築年と健全度の相関

(2) 学校施設の老朽化所見

現地調査の結果、学校施設等の建物は以下のような老朽化状態がみられます。

① 小学校 校舎

- ・ 築 40 年を経過した建物の老朽化が見られますが、大規模改造等の実施によって健全度の高い建物も多数あります。
- ・ 築 40 年未満の建物は、部分的な劣化は見られますが、広範囲の劣化はあまり見られません。
- ・ 機械設備を建築時から一度も更新していない建物が多数あります。

② 中学校 校舎

- ・ 築 40 年を経過した建物の老朽化が見られますが、大規模改造等の実施によって健全度の高い建物も多数あります。
- ・ 築 30 年未満の建物は、部分的な劣化は見られますが、広範囲の劣化はあまり見られません。
- ・ 機械設備を建築時から一度も更新していない建物があります。

③ 小学校 体育館

- ・ 体育館は地域の避難所としての機能があり、旧耐震基準の建物は全て耐震補強を行っています（生福小学校は令和 4 年度に避難所として再指定）。市来小学校以外の体育館が建築後 30 年を経過しており、屋根・屋上、外壁ともに徐々に劣化が進行しています。
- ・ 羽島小学校体育館の屋根・外壁及び生福小学校体育館の屋根及び機械設備は特に劣化が進んでおり、早急に対応する必要があります。

④ 中学校 体育館

- ・ 羽島中学校以外の体育館は地域の避難所としての機能があり、旧耐震基準の建物は全て耐震補強を行っています。
- ・ 築 40 年未満の建物は、部分的な劣化は見られますが、広範囲の劣化はあまり見られません。
- ・ 串木野西中学校体育館の屋根・外壁・内部、羽島中学校体育館の屋根・外壁及び機械設備は特に劣化が進んでおり、早急に対応する必要があります。

⑤ 武道場

- ・ 柔剣道場（串木野中学校）は平成 8 年度に建築された建物で、広範囲の劣化が徐々に進んでいます。

⑥ 幼稚園

- ・ 市来幼稚園は築 33 年を経過しており、外壁の老朽化が進行しています。

⑦ 小学校 その他（給食室）

- ・ 給食室 2 棟（旭小学校）は、経年による部分的な劣化は見られますが、比較的良好な状態です。

⑧ 中学校 その他（屋体クラブハウス、部室）

- ・ 屋体クラブハウス（串木野中学校）は、築 25 年の建物で、屋根に部分的な劣化が見られますが、それ以外は比較的良好な状態です。
- ・ 部室（串木野中学校）は築 25 年の建物です。比較的良好な状態が保たれています。

第3章 学校施設整備の基本方針

1. 学校施設の規模・配置計画等の方針

(1) 適正配置の方策

本市の学校施設は、小学校 8 校のうち過小規模校 4 校、小規模校 3 校、適正規模校 1 校と分類されます。中学校 5 校は全て小規模校と分類され、適正規模校はありません。

今後児童数・生徒数ともに減少していくと予測されます。このため本市においては、学校規模の適正化の検討が課題となります。

表：学校別の児童数・生徒数、学級数（2021 年現在）

【小学校】		単位：人、クラス		
小学校	串木野小学校	照島小学校	羽島小学校	旭小学校
児童数	589	188	52	34
学級数	18	6	4	4
小学校	生福小学校	荒川小学校	市来小学校	川上小学校
児童数	69	24	298	24
学級数	6	3	11	3

【中学校】		単位：人、クラス	
中学校	串木野中学校	串木野西中学校	羽島中学校
児童数	307	114	25
学級数	9	4	3
中学校	生冠中学校	市来中学校	
児童数	50	161	
学級数	3	6	

表：学校別の学級数による分類

	過小規模校 5学級以下	小規模校 6～11学級	適正規模校 12～18学級	大規模校 19～30学級	過大規模校 31学級以上
小学校	羽島小学校 旭小学校 荒川小学校 川上小学校	照島小学校 生福小学校 市来小学校	串木野小学校	—	—
	過小規模校 2学級以下	小規模校 3～11学級	適正規模校 12～18学級	大規模校 19～30学級	過大規模校 31学級以上
中学校	—	串木野中学校 串木野西中学校 羽島中学校 生冠中学校 市来中学校	—	—	—

資料：いちき串木野市資料

表：学校の規模によるメリット・デメリット

	メリット	デメリット
小規模校 過小規模校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童・生徒と教師の距離が近く、一人一人への理解がより深まる。 ○ 意見や感想を公表できる機会が多くなる。 ○ 児童・生徒の特性に応じたきめ細やかな指導が可能である。 ○ 複式学級においては、教師が複数の学年間を行き来する間、児童・生徒が相互に学ぶ合う活動を充実させることができる。 ○ 児童・生徒の家庭の状況、地域の教育環境等が把握しやすいため、保護者や地域と連携した効果的な生徒指導ができる。 ○ 運動場や体育館、特別教室等が余裕をもって利用できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ クラス替えが全部又は一部の学年でできない。 ○ クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない。 ○ 協働的な学習で取り上げる課題に制約が生じる。 ○ 集団性が必要な活動に支障がでる。 ○ 専門の免許を有する教諭等による教科指導が困難である。 ○ 運動会・文化祭・遠足・修学旅行等の集団活動・行事の教育効果が下がる。 ○ 人間関係が固定化されている。 ○ 教員と児童・生徒との心理的な距離が近くなりすぎる。

資料：公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き（平成 27 年 1 月）

(2) 配置計画の展望

本市の学校は、旧串木野市内に小学校 6 校、中学校 4 校があり、旧市来町内に小学校 2 校、中学校 1 校及び幼稚園 1 園が配置されています。

学校規模については、羽島小・旭小・荒川小・川上小の小学校 4 校は、全校生徒が少ないことから過少規模校であり、照島小・生福小・市来小と全ての中学校 5 校が小規模校となっています。また、人口構成をみても、少子高齢化の進行は避けられず、より一層学校の小規模化が進むことが予測されます。

市では、教育計画の上位に位置する「【第 3 期】いちき串木野市教育振興基本計画」や「いちき串木野市教育施策大綱」において、幼・小・中・高の連携による学校教育の充実を図るため、小中一貫教育についての学校づくりを推進する考えを持っています。

これらのことから、今後は慎重に再編等の検討を進めていく必要があります。

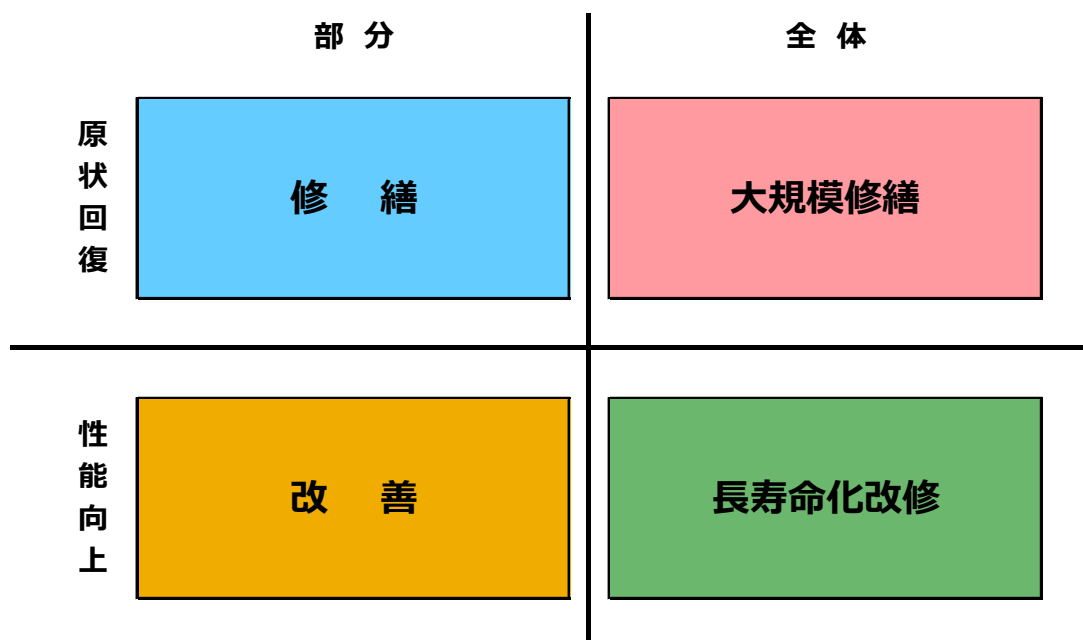
2. 改修等の基本的な方針

本市の学校施設等や設備の老朽化、不具合等の実態を踏まえ、「学校施設等の目指すべき姿」を持続的に実現していくための基本方針を次のように設定します。

(1) 長寿命化の方針

本市の学校施設等を整備していくにあたり、建物の老朽化に伴う維持管理コストが課題となります。本計画を策定するには、財政面を考慮した上での中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減、予算の平準化を実現するための対策が重要になっています。それには、建物を将来にわたって長く使い続けるために耐用年数を延ばすことを目的とした長寿命化改修があります。

一般に改修と言っても内容は様々であり、対象は部分なのか全体なのか、また改修内容は元に戻すだけなのか、機能や性能を上げるものなのかで 4 つの概念に整理されますが、「長寿命化改修」は建物全体を改修し、併せて性能向上を伴うものとなります。



資料：「学校施設の長寿命化改修の手引き」

ただし、中には次のように長寿命化に適さない施設もあります。

- ・ 劣化が激しく、改修に多額の費用がかかるため、改築の方が経済的に望ましい施設
- ・ 改築までの期間が短く長寿命化改修を行うと、維持に係る費用が高くなる施設
- ・ コンクリート強度が著しく低い施設（おおむね 13.5N/mm² 以下）
- ・ 校地環境または周辺環境の安全性が欠如している施設
- ・ 学校の適正配置等地域の実情により改築せざるを得ない施設

長寿命化改修では、基本的に建物の耐久性向上、建物の性能や機能を向上させるために工事を行います。内容として以下のようなものが挙げられます。

耐久性向上

- 構造躯体の経年劣化を回復するもの
 - ・ コンクリートの中性化対策や鉄筋の腐食対策 等
- 耐久性に優れた仕上材へ取り替えるもの
 - ・ 劣化に強い塗装・防水材等の使用
- 維持管理や設備更新の容易性を確保するもの
- 水道、電気、ガス管等のライフラインの更新

性能向上

- 安全・安心な施設環境を確保するもの
 - ・ 耐震対策（非構造部材を含む）
 - ・ 防災機能の強化
 - ・ 事故防止・防犯対策 等
- 地域コミュニティの拠点形成を図るもの
 - ・ 防災機能の強化
 - ・ バリアフリー化
 - ・ 地域住民の利用を考慮した教室等の配置の変更 等
- 教育環境の質的向上を図るもの
 - ・ 近年の多様な学習内容・学習形態への対応
 - ・ 今後の学校教育や情報化の進展に対応可能な柔軟な計画
 - ・ 省エネルギー化・再生可能エネルギーの活用
 - ・ バリアフリー化
 - ・ 木材の活用 等

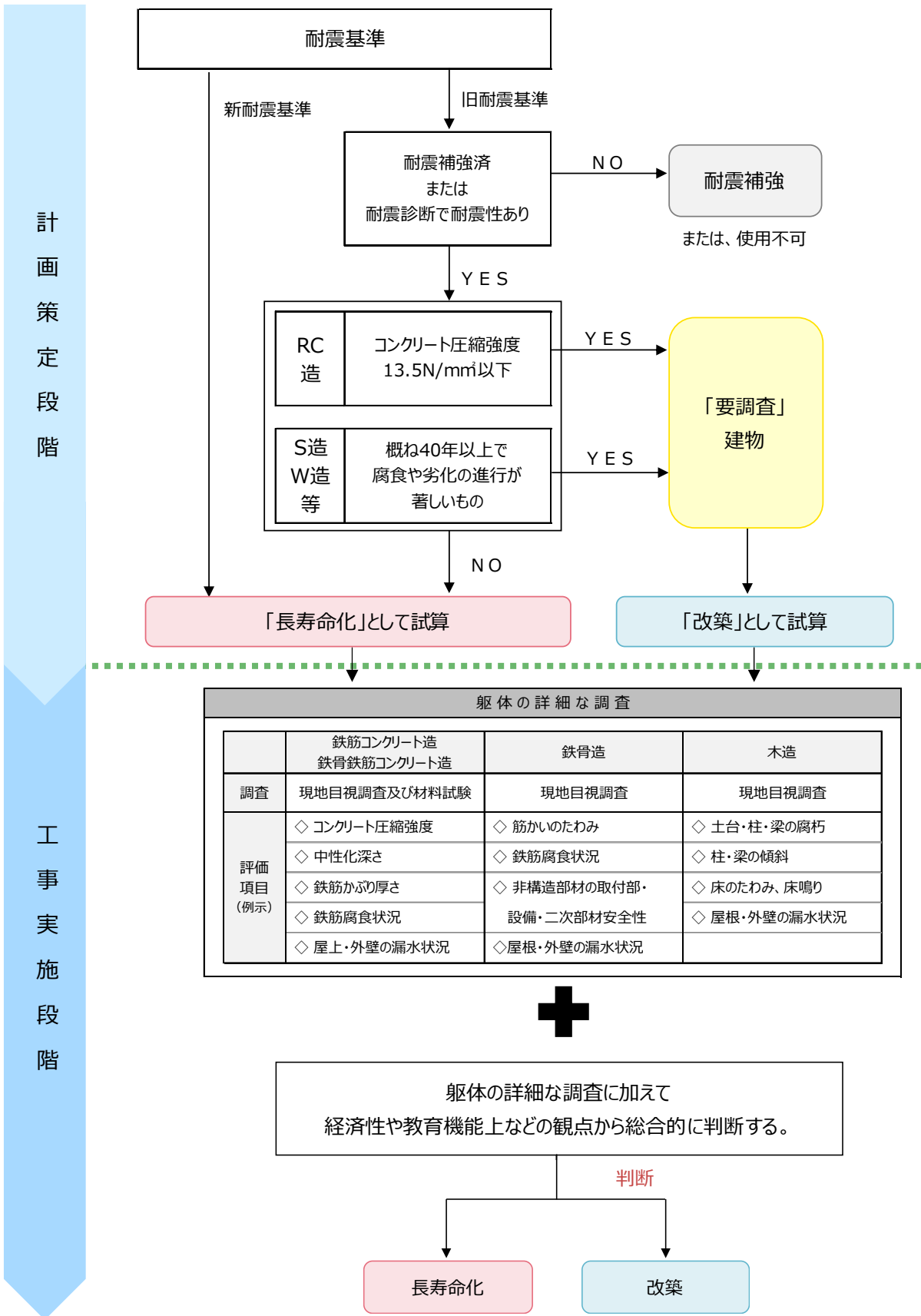
さらに、改築と長寿命化改修には、それぞれ次のようなメリットとデメリットがありますが、長寿命化改修を行う方が、費用を大幅に縮減しつつ、改築と同等の効果が期待でき、費用対効果は非常に大きくなります。

表：改築と長寿命化改修のメリット・デメリット

	メリット	デメリット
改築	<ul style="list-style-type: none"> ○ 設計や施工上の制約が少ない。 ○ 高層化や地下階の拡大が容易に可能、設計や施工は比較的容易、耐震基準、法規等については最新のものに対応は容易。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 廃棄物が大量に発生する。 ○ 既存建物の解体と廃棄に費用と時間がかかる。 ○ 工事に時間と費用がかかる。
長寿命化改修	<ul style="list-style-type: none"> ○ 工期の短縮、工事費の縮減ができる。 ○ 廃棄物が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 設計及び施工上の制約が多い。 ○ 柱・耐力壁等の既存躯体を利用するための間取りの変更に制約が生じる場合がある。計画には十分な検討が必要。

資料：「学校施設の長寿命化改修の手引き」より

○ 長寿命化の判定フロー



資料：学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書（平成 29 年 3 月 文部科学省）

(2) 予防保全の方針

施設をできる限り長く使用するため、適切な維持管理を行っていくことが重要であり、そのための整備方法として、「事後保全」と「予防保全」の2つがあります。

「事後保全」は老朽化による劣化・破損等の大規模な不具合が生じた後に修繕等を行うもので、従来の施設管理の多くで行われていました。一方、「予防保全」は損傷が軽微である早期段階から予防的な修繕等を実施することで機能・性能の保持・回復を図り、これにより突発的な事故が減少し、多額の費用の発生を抑えることができます。また、「予防保全」では、計画的な修繕を行うことで、施設に不具合が生じる前にメンテナンスを施し、従来の「事後保全」での整備と比較して施設を長く使用することができます。したがって、学校施設等の整備は今後「事後保全」から「予防保全」への転換を図る必要があります。

表：学校施設等の保全

保 全	建物や設備が完成してから取り壊すまでの間、その性質や機能を良好な状態に保つほか、社会・経済的に必要とされる性能・機能を確保し、保持し続けること。保全のための手段として、点検・診断・改修等がある。
事 後 保 全	老朽化による不具合が生じた後に修繕等を行う、事後的な保全のこと。
予 防 保 全	損傷が軽微である早期段階から、機能・性能の保持・回復を図るために修繕等を行う、予防的な保全のこと。なお、あらかじめ周期を決めて計画的に修繕等を行う保全のことを「計画保全」という。

(3) 目標使用年数の設定

学校施設等の鉄筋コンクリート造建物の法定耐用年数は 47 年となっていますが、これは税務上、減価償却を算定するために設定されたものです。構造物としての物理的な耐用年数はこれよりも長くなっています。社団法人日本建築学会の「建築物の耐久計画に関する考え方」では、建築物全体の望ましい目標使用年数として、鉄筋コンクリート造の学校の場合、普通品質で 50～80 年、高品質では 80～100 年とされています。

これを踏まえ、本市の既存施設は普通品質であると考え、学校施設等の目標使用年数を、適切な時期に長寿命化を実施することで最大値の **80 年** に設定します。なお、各施設の建築時期は、財政負担の関係上、学校施設全体の事業量について平準化を図る必要があるため、目標使用年数 **80 年** から若干前後させる設定も必要となる場合があります。

また、鉄骨造建物については、技術的な耐用年数の目安は特にありませんが、鉄骨構造における防錆やボルトの締め付け力が維持される限り使用可能であると想定し、鉄筋コンクリート造建物と同等の年数とします。

表：建物用途・構造に応じた望ましい目標耐用年数の級

用途	鉄筋コンクリート造		鉄骨造			ブロック造 れんが造	木造
	鉄骨鉄筋コンクリート造		重量鉄骨		軽量鉄骨		
	高品質 の場合	普通の 品質の場合	高品質 の場合	普通の 品質の場合			
学校・官庁	Y 100以上	Y 60以上	Y 100以上	Y 60以上	Y 40以上	Y 60以上	Y 60以上
住宅・事務所・病院	Y 100以上	Y 60以上	Y 100以上	Y 60以上	Y 40以上	Y 60以上	Y 40以上
店舗・旅館・ホテル	Y 100以上	Y 60以上	Y 100以上	Y 60以上	Y 40以上	Y 60以上	Y 40以上
工場	Y 40以上	Y 25以上	Y 40以上	Y 25以上	Y 25以上	Y 25以上	Y 25以上

表：級に応じた目標耐用年数の区分

	目標耐用年		
	代表値	範囲	下限
Y 150	150年	120～200年	120年
Y 100	100年	80～100年	80年
Y 60	60年	50～80年	50年
Y 40	40年	30～50年	30年
Y 25	25年	20～30年	20年

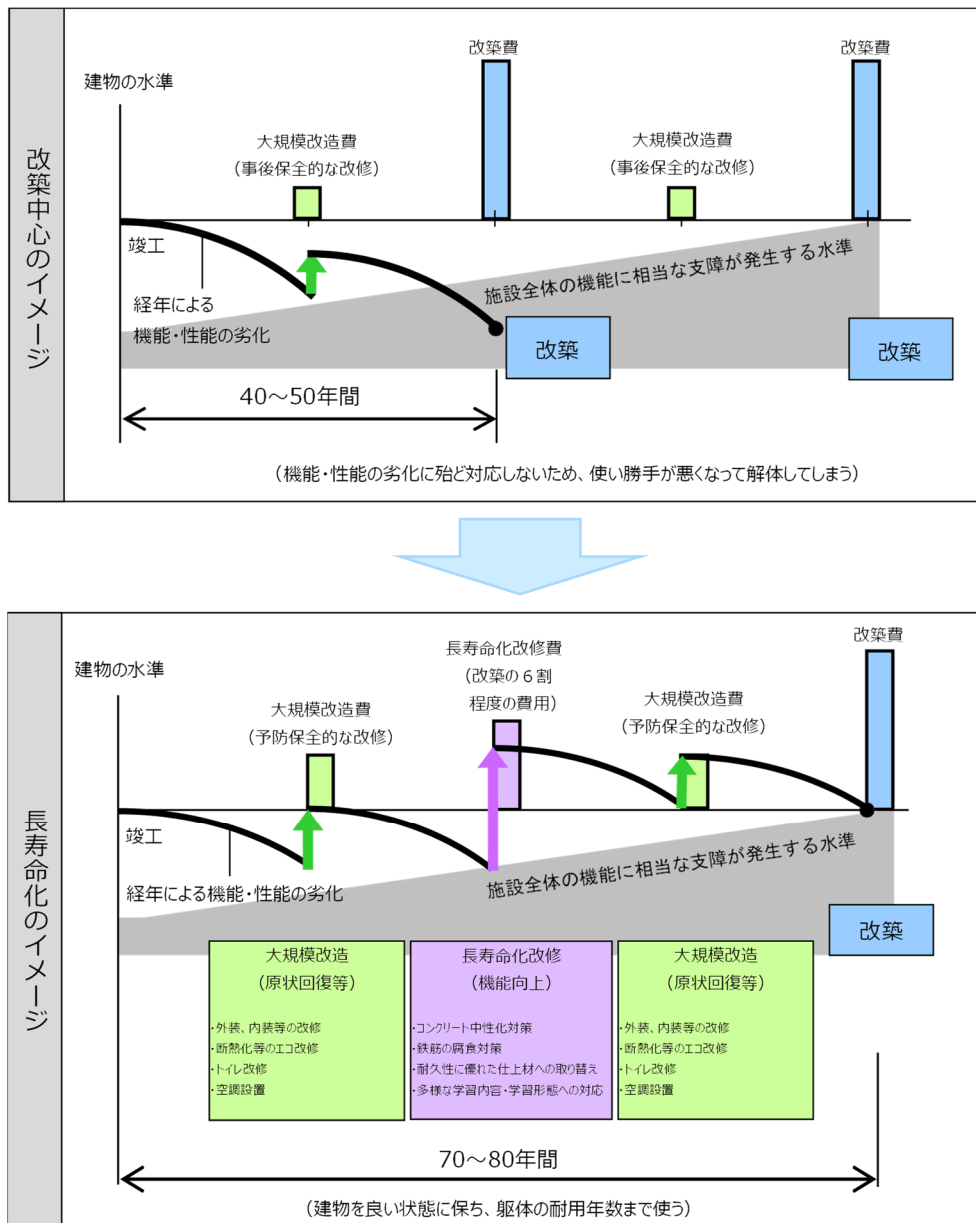
資料：建築物の耐久計画に関する考え方（日本建築学会）

(4) 改修周期の設定

学校施設等整備の方針を、改築が中心の整備から長寿命化を図る方向へと転換し、あらかじめ設定した目標使用年数まで使用することを目標に、適切な時期に改修を行います。

今までの改築中心では、劣化や破損等の大規模な不具合が生じた際の改修（事後保全的な改修）を行い目標とする使用年数で改築します。一方、長寿命化では、築20年経過後に原状回復のための改修（予防保全的な改修）を行い、目標使用年数の中間期（概ね40年後）に長寿命化改修を実施し、その後改築までの期間に再度原状回復のための改修を行うこととなります。

このように定期的に必要な改修を行うことで経年による劣化状況の回復だけでなく、学校施設等の機能・性能の低下を長期間放置することなく、社会的に必要とされる多様な学習形態の水準まで引き上げることができるように取り組みます。



図：改築中心から長寿命化への転換イメージ

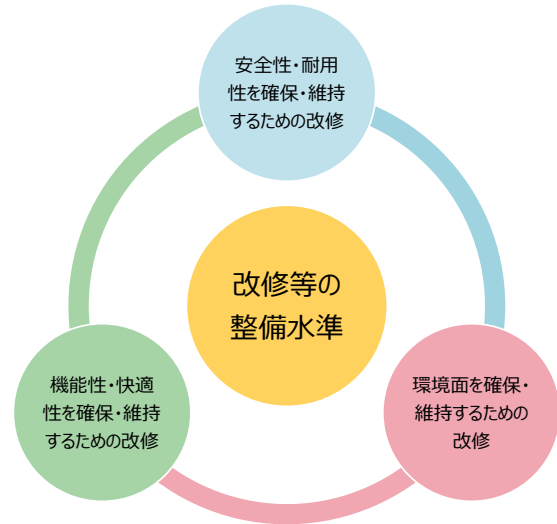
資料：学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書（平成29年3月 文部科学省）

第4章 基本的な方針を踏まえた施設整備の水準

1. 改修等の整備水準

長寿命化改修にあたっては、単に建築時の状態に戻すのではなく、「安全性・耐用性」「機能性・快適性」「環境面」を確保するための改修を行います。

「安全性・耐用性」「機能性・快適性」の改修では、構造体の長寿命化やライフラインの更新等により建物の耐久性を高め、維持管理コストの縮減、計画的な支出による財政の平準化を図ります。また、「環境面」の改修では多様な学習形態による活動が可能となる環境の提供等、現代の社会的な要請に応じるための改修を行います。



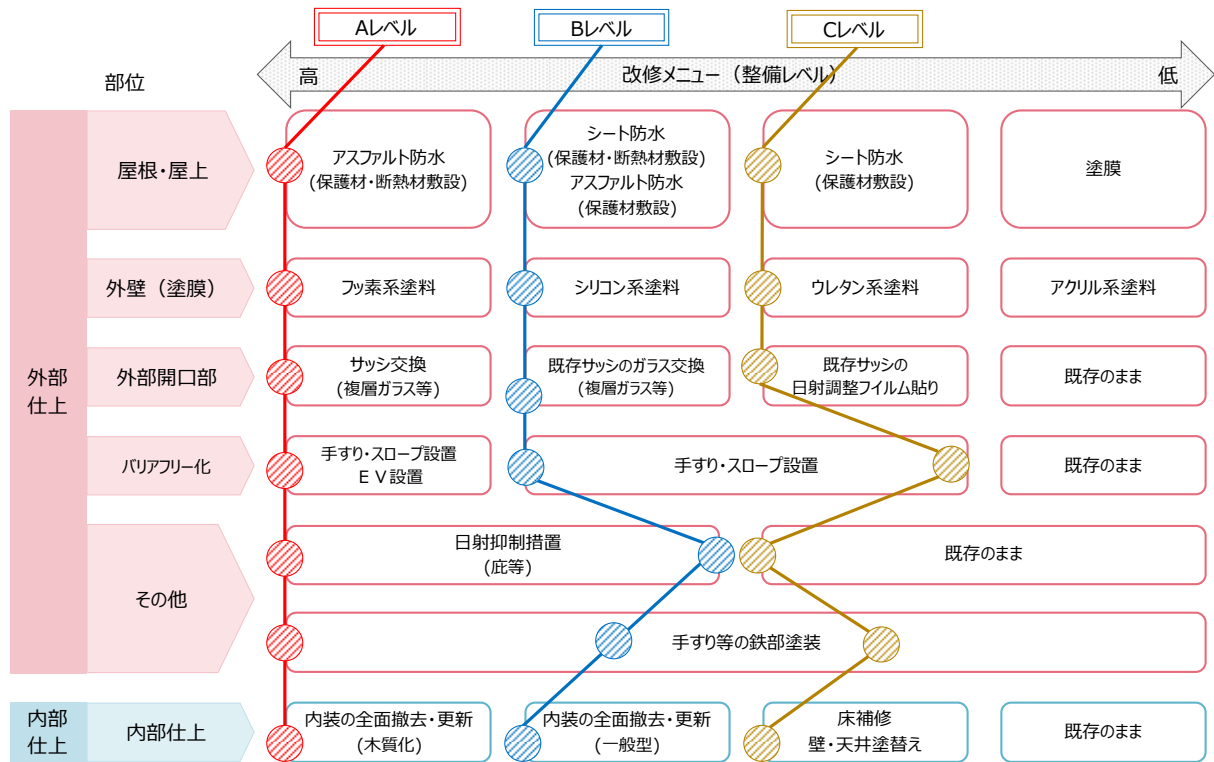
図：整備水準の考え方

表：改修工事等における整備内容例

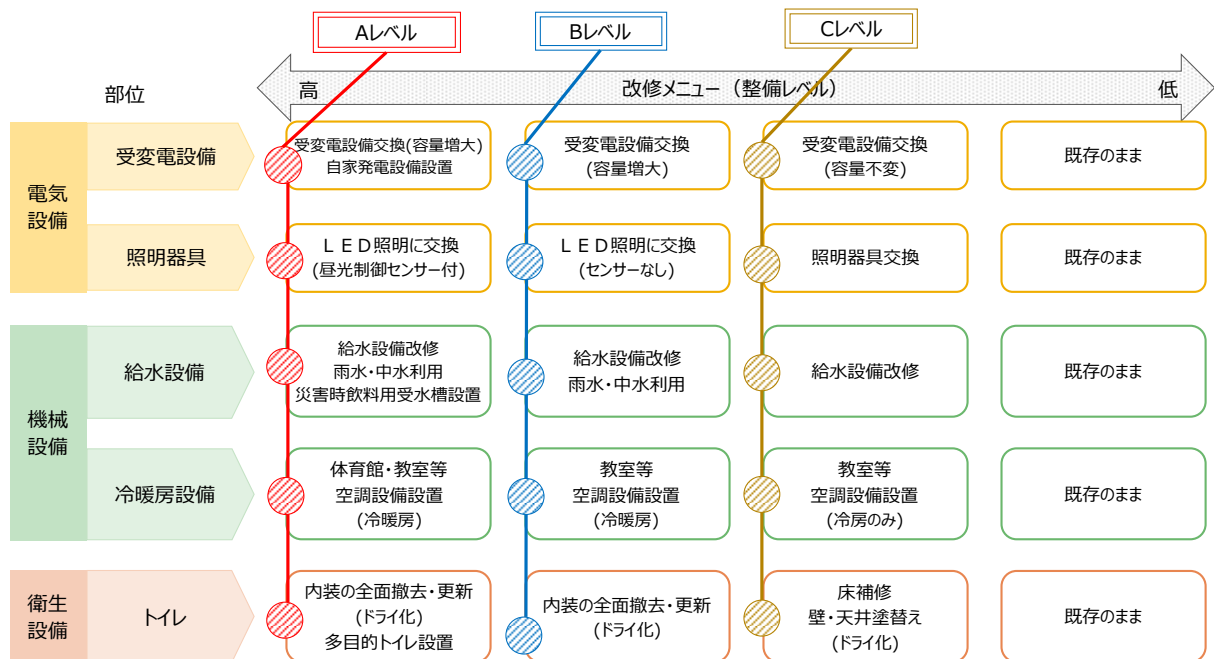
項目	整備内容
<p>安全性・耐用性を確保・維持するための改修 構造体の長寿命化や内・外装仕上等の改修、設備更新や必要な防災・防犯機能の付加等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 外装（屋上防水、外壁仕上材、躯体のクラック、鉄筋、浮き補修等） ○ 屋上・屋根（防水改修等） ○ 内装（床、壁、天井、間仕切り等） ○ 非構造部材の耐震対策 ○ 防災機能 ○ 防犯対策・事故防止対策
<p>機能性・快適性を確保・維持するための改修 機能性や快適性等、学校生活の場として必要な環境の確保・維持や、必要な社会ニーズに応じた機能付加等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 受変電、照明設備等更新 ○ 設備（空調、給排水等） ○ ICT 設備 ○ バリアフリー対応（段差の解消等） ○ トイレ改修（洋式化、乾式化）
<p>環境面を確保・維持するための改修 断熱や遮音等による環境面の向上や省エネ化によるコスト削減等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 断熱性能の向上（壁、開口部等） ○ 遮音性能の向上（壁、開口部等） ○ 設備の高効率化（LED化、エアコン設置等）

長寿命化改修では、整備水準を高めるほどコストは高くなりますが、建物性能の向上により建物寿命が延びたり、設備機能の向上により光熱水費の縮減につながります。

以下に示す整備水準において、Aレベルは省エネ型で整備水準が最も高く、Cレベルは従来の整備水準にほぼ相当します。整備水準のBレベルを基本レベルとして設定しますが、現在の仕様、建物の劣化状況、改修内容等により整備水準を柔軟に変更します。また、ライフサイクルにおけるコストの試算を行い、予算の見通しを踏まえた整備水準の設定を行います。



図：校舎・体育館等の整備水準



図：主要な設備の整備水準

2. 維持管理の項目・手法等

(1) 維持管理の必要性

学校施設は、児童・生徒の学習・生活の場であるとともに、非常災害時には避難所として地域住民の避難生活の拠点としての役割も担うものであるため、平常時だけでなく災害時においても十分な安全性・機能性を有することが求められます。

しかし、建築当初には確保されているこれらの性能も、経年劣化等により必要な性能を満たさなくなっているおそれがあることから、学校施設等の管理者においては、当該施設が常に健全な状態を維持できるよう、法令等（建築基準法、消防法等）に基づいて定期的に点検を行い、必要な修理・修繕等を速やかに実施し、適切に維持管理を行っていくことが必要です。

また、学校施設を適切に維持管理するためには、施設の管理者と学校の教職員がそれぞれの立場に応じて点検等を行うことが重要です。

(2) 維持管理の項目

施設の維持管理については、関係者が日常的に点検を行い、建物の劣化状況等を早い段階で把握できるようにするとともに、建築基準法等に基づいて、「定期的な点検の実施」と「点検結果に基づく必要な修繕等」を行うことが義務付けられています。

「定期的な点検の実施」は、建築基準法や消防法に基づき定められた点検項目等について、専門的な知識を持った有資格者に、一定の期間ごとに点検を実施させることとなります。

表：建築基準法に基づく法定点検

点検する項目		点検内容	点検する項目		点検内容
A. 敷地及び地盤			D. 建築物の内部		
地盤		不陸、傾斜等	天井		劣化・損傷
敷地		排水	防火設備		劣化・損傷
敷地内通路		通路の確保、支障物	照明器具、懸垂物等		劣化・損傷
塀		劣化・損傷	居室の採光及び換気		劣化・損傷、作動
擁壁		劣化・損傷	E. 避難施設等		
B. 建築物の外部			居室から地上への通路		基準適合性
基礎・土台		劣化・損傷、沈下	廊下、出入口		物品放置
外壁	躯体等	劣化・損傷	避難上有効なバルコニー		劣化・損傷
	外装仕上材	劣化・損傷	階段		劣化・損傷
	窓サッシ等	劣化・損傷	排煙設備等	防煙壁	劣化・損傷
C. 屋上及び屋根				非煙設備	作動、排煙口
屋上面、屋上周り		劣化・損傷	非常時の設備等	進入口等	維持保全
機器及び工作物		劣化・損傷		照明装置	劣化・損傷
D. 建築物の内部			F. その他		
防火区画		劣化・損傷	特殊構造等（免震構造等）		劣化・損傷
内壁		劣化・損傷	避雷設備		劣化・損傷
床		劣化・損傷	煙突		劣化・損傷

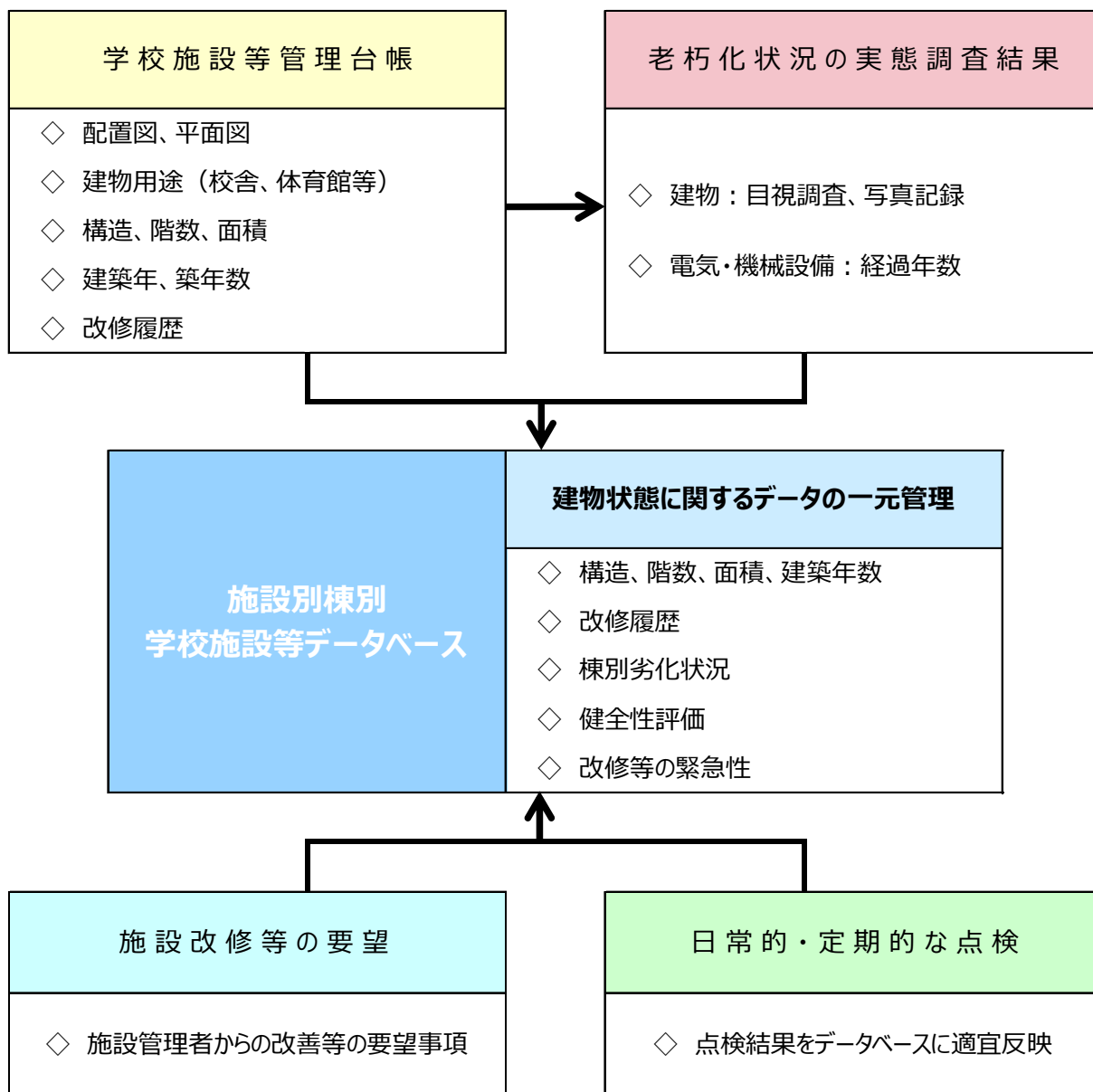
また、日常的に維持管理を行うことで、建物の劣化状況を詳細に把握できるとともに、より早く異常に気付くことができるため、施設の状況に応じた維持、予防保全による改修の内容や時期の検討が早期に可能となります。

表：維持管理のための点検

点検分野	項目	内容	期間	点検者
日常的な維持管理のための点検	清掃	○ 汚れを除去すること及び汚れを予防することにより仕上材を保護し、快適な環境に保つための作業	毎日	各学校
	保守	○ 点検の結果に基づき、建築物等の機能の回復又は危険の防止のために行う消耗部品の交換、注油、塗装、その他これらに類する軽微な作業	毎日	各学校
	日常点検	○ 目視、聴音、触接等の簡易な方法により、巡回しながら日常的に行う点検 ○ 機器及び設備について、異常の有無、兆候を発見	毎月	各学校
定期的な維持管理のための点検	自主点検	○ 機器及び設備の破損、腐食状況を把握し、修理・修繕等の保全計画の作成	1年	教育委員会
	法定点検	○ 自主点検では確認できない箇所や、法的に定められた箇所に関して、専門業者により点検 ○ 当該点検を実施するために必要な資格又は特別な専門知識を有する者が定期的に行う点検	建築物 3年 設備等 1年	教育委員会
臨時的な維持管理のための点検	臨時点検	○ 日常、定期点検以外に行う臨時的な点検 ○ 建築物等の部分について、損傷、変形、腐食、異臭、その他の異常の有無を調査し、保守又はその他の措置が必要か否か判断	随時	各学校

(3) 点検・評価結果の蓄積

施設の予防保全管理に日常的に取り組む上で、建物の定期的な点検により老朽化の状況を把握し、改修履歴を含めた施設の情報データベース化し、随時更新していくことにより、長寿命化を図るための大規模改修を計画的かつ円滑に行うように努めます。



図：点検・評価結果のデータベース化（イメージ）

第5章 長寿命化の実施計画

1. 施設評価及び優先順位

(1) 施設評価

小学校 45 棟、中学校 28 棟、幼稚園 1 棟の合計 74 棟の建物に対して行った劣化状況評価の健全度で、劣化等が進み、優先的に長寿命化等の対策を講じることが望ましい健全度 40 点以下の建物 18 棟について、健全度が低い方から並べると次のようになっています。

表：健全度 40 点以下の建物

順位	施設名	建物名	棟番号	構造	階数	延床面積 (㎡)	築年数	健全度 (点)
1	羽島中学校	屋内運動場	018	RC	1	614	43	25
	生冠中学校	管理教室棟	004	RC	2	1,105	44	25
3	照島小学校	管理棟	002	RC	2	1,451	42	28
	照島小学校	管理棟	002-1	RC	2	507	41	28
	串木野西中学校	特別教室棟	002	RC	2	821	50	28
6	串木野西中学校	屋内運動場	003	RC	1	919	50	33
7	生福小学校	屋内運動場	008	RC	1	576	40	34
	荒川小学校	多目的教室	003-1	RC	1	311	57	34
9	串木野小学校	教室棟	011-1	RC	2	440	58	36
	串木野小学校	教室棟	011-2	RC	2	360	57	36
	串木野小学校	教室棟	011-3	RC	2	281	56	36
	串木野小学校	教室棟	011-4	RC	2	292	56	36
	羽島小学校	教室棟	003-1	RC	2	832	55	36
	羽島小学校	教室棟	003-2	RC	2	230	54	36
	旭小学校	教室棟	003	W	1	427	49	36
	荒川小学校	音楽室	001	W	1	164	44	36
	市来中学校	特別教室棟	016	RC	2	464	48	36
18	市来小学校	特別教室棟	002	S	1	300	53	39

(2) 改修等の優先順位

経過年数が健全度に影響することから、改修等を行う建物は、現段階で健全度の低い建物かつ建築年の古い建物から順次行うことを基本とします。これら、健全度 40 点以下の建物を優先して整備を推進します。

また、健全度が 41 点を超える建物については、今後の市の方針や他の整備状況及び劣化状況調査結果を見据えながら整備を実施します。

健全度が低い建物では、劣化状況調査で老朽化が進行していたり、設備等は建築後に一度も更新されていないため D 評価となっています。これらに対しては緊急性を要する建物として扱うため、5 年以内を目標に部位修繕を計画します。

2. ライフサイクルコストの算定

現在の学校施設等を今後も保有し続け、改修を行いながら耐用年数経過後に現在と同じ規模で改築を行うとした場合（事後保全型の維持・管理）と、適切な時期に長寿命化改修を行い、計画的に施設の長寿命化を図った場合（予防保全型の維持・管理）について、国のライフサイクルコスト（以下、LCC※）算出の考え方にに基づき算出します。

LCCの算出は、長寿命化改修を実施せず建築後50年で改築する場合と、長寿命化改修を実施し建築後70年で改築する場合のそれぞれについて、当初の建築時点から次回の改築までに要するコストについて比較・検討しています。

学校施設等のコスト試算にあたっては、市の過去の建設工事単価が不明だったため、鹿児島県の「学校の校舎」における、過去5年間の工事費予算額から平均額を求め、延床面積当たりの単価と設定しました。

なお、試算はエクセルソフトのプログラムの特性により各分類の改築単価が統一されているため、全施設の改築単価を校舎と同じ290,000円/㎡と設定します。

表：改築単価の設定根拠

【校舎】

参考資料：国土交通省「建築着工統計調査：第3表着工建築物：用途別、構造別（建築物の数、床面積の合計、工事費予定額）」平成28年度～令和2年度

校舎	a：工事費予算額 (円)	b：延床面積 (㎡)	改築単価 [a/b] (円/㎡)
平成28年度（2016年）	3,742,300,000	14,850	252,007
平成29年度（2017年）	6,438,720,000	24,866	258,937
平成30年度（2018年）	4,634,930,000	15,555	297,970
令和元年度（2019年）	3,987,330,000	13,774	289,482
令和2年度（2020年）	6,247,330,000	18,659	334,816
		平均	286,642

≒ 290,000

※ 工事予算額、延床面積ともに鹿児島の鉄筋コンクリート造（RC造）の「学校の校舎」の数値を使用

校舎の改築単価	直近5年間平均	¥290,000（円/㎡）
---------	---------	---------------

※ LCCとは、建築物の企画設計段階、建設段階、運用管理段階及び解体再利用段階の各段階のコスト（費用）の総計のこと。

- 長寿命化型改善を実施しない場合 → コストは少ないが、使用年数も短い
- 長寿命化型改善を実施した場合 → コストは高いが、使用年数も長い

前頁で設定した改築単価を基に、文部科学省の「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書付属エクセルソフト」（以下、「付属エクセルソフト」という）の割合を使用して、以下のように各施設の単価を設定しています。また、改築、長寿命化改修、大規模改造等コスト試算の条件設定を行っています。

表：試算のための単価設定（割合）

		校舎	
		割合	設定単価
改築		100.0%	290,000 円/㎡
長寿命化改修		60.0%	174,000 円/㎡
大規模改造		25.0%	72,500 円/㎡
部 位 修 繕	屋根・屋上	3.5%	10,150 円/㎡
	外壁	5.1%	14,790 円/㎡
	内部仕上	5.6%	16,240 円/㎡
	電気設備	4.0%	11,600 円/㎡
	機械設備	3.7%	10,730 円/㎡

表：コスト試算条件

	事後保全型（従来型）	予防保全型（長寿命化型）
基準年度	令和3（2021）年度 試算期間：基準年度の翌年度から40年間	
改築	50年	長寿命化80年（50年 + 30年）
長寿命化改修	—	築40年目
大規模改造	20年	築20年目
部位修繕	—	C評価：10年以内 D評価：5年以内

※ コスト試算条件は付属エクセルソフトのプログラムで設定されている

前述の条件に基づき、付属エクセルソフトを使用して、40年間の事後保全型（従来型）と予防保全型（長寿命化型）の維持・更新コストを算出しました。

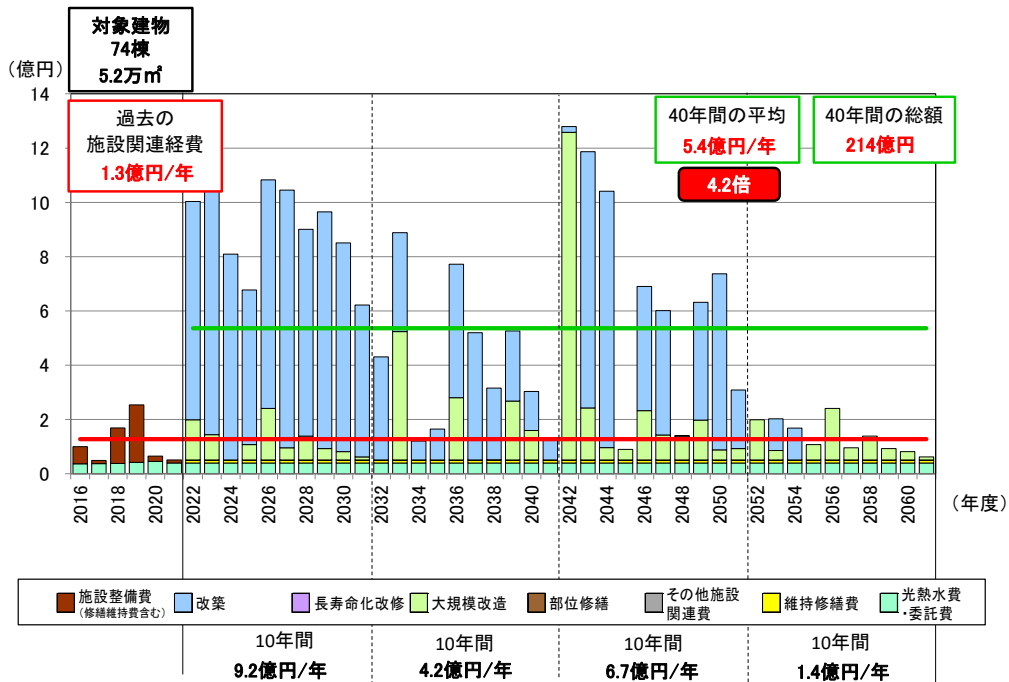
事後保全型（従来型）の維持・更新を行った場合、40年間の累計で214億円の費用が発生し、平均で年間約5.4億円が必要となります。

一方、予防保全型（長寿命化型）で維持・更新を行った場合、40年間の累計で206億円の費用が発生し、平均で年間約5.1億円が必要となり、事後保全型よりも8億円（年間0.2億円）の費用を縮減することができます。

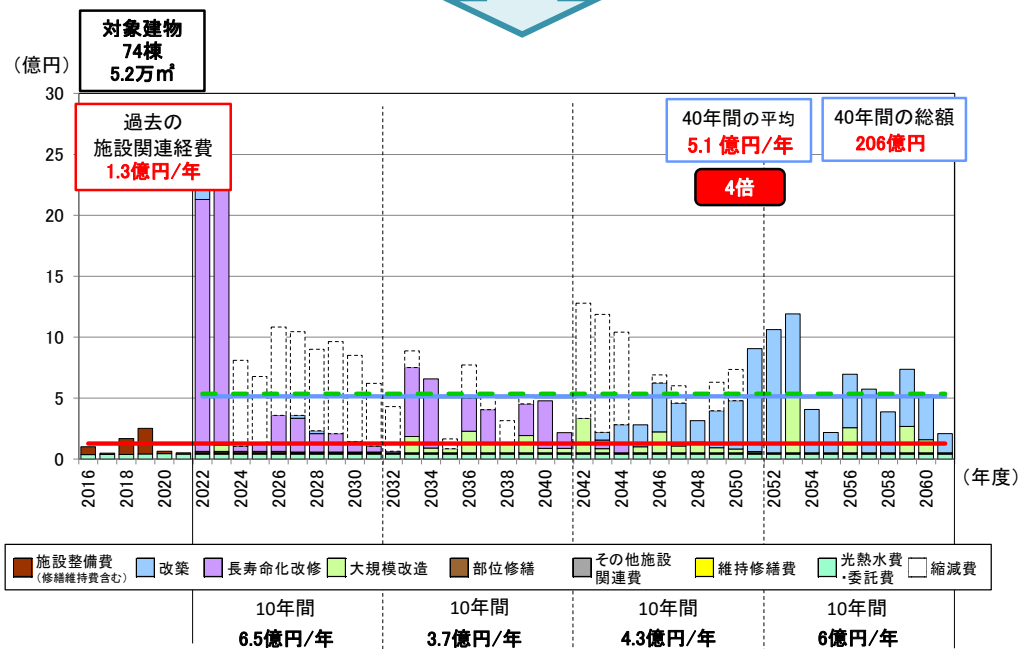
以上のことから、事後保全型の維持・管理から、予防保全型の維持・管理に移行することで、コストの削減を図ることができます。

表：維持・更新コストの結果比較

	2022～2031	2032～2041	2042～2051
事後保全型 （従来型）	92億円	42億円	67億円
予防保全型 （長寿命化型）	65億円	37億円	43億円
差 額	▲27億円	▲5億円	▲24億円
	2052～2061	40年間合計	40年間平均
事後保全型 （従来型）	14億円	214億円	5.4億円/年
予防保全型 （長寿命化型）	60億円	206億円	5.1億円/年
差 額	46億円	▲8億円	▲0.3億円/年



図：今後の維持・更新コスト(従来型)



図：今後の維持・更新コスト(長寿命化型)

※ 計算上の理由により、10年間の平均コストの合計と40年間の総額は必ずしも一致しない

※ 2021年以降の「その他施設関連費」「維持修繕費」「光熱水費・委託費」は、2015年～2019年の平均額としている

工種	内容
改築	2022年の時点で改築及び長寿命化改修の実施年数より古い建物は、
長寿命化	今後10年以内に改築又は長寿命化を実施するものとし、該当コストの10分の1の金額を10年間計上
部位修繕	2022年の時点でC評価の部位：今後10年以内に修繕するものとし、該当コストの10分の1の金額を10年間計上
	2022年の時点でD評価の部位：今後5年以内に修繕するものとし、該当コストの5分の1の金額を5年間計上

※以上の内容は付属エクセルソフトのプログラムで設定されている

3. 事業計画策定

(1) 実施単価

事業計画の費用はライフサイクルコストの算定で改築単価を算出しており、㎡当たり単価 290,000 円/㎡とします。それに伴い、屋内運動場・武道場・給食室等も同様の単価と設定します。

付属エクセルソフトの割合を使用して、校舎・その他では、長寿命化改修の単価を改築の 60%とし 174,000 円/㎡、大規模改修の単価は改築の 25%で 72,500 円/㎡となり、屋内運動場・武道場では、長寿命化改修の単価を改築の 60%とし 174,000 円/㎡、大規模改修の単価は改築の 22%で 63,800 円/㎡となります。

部位修繕の単価設定は、それぞれ下表の通りとなります。

表：整備費算出単価設定（割合）

	校舎		屋内運動場・武道場		その他		
	割合	設定単価	割合	設定単価	割合	設定単価	
改築	100.0%	290,000 円/㎡	100.0%	290,000 円/㎡	100.0%	290,000 円/㎡	
長寿命化改修	60.0%	174,000 円/㎡	60.0%	174,000 円/㎡	60.0%	174,000 円/㎡	
大規模改造	25.0%	72,500 円/㎡	22.0%	63,800 円/㎡	25.0%	72,500 円/㎡	
部位修繕	屋根・屋上	3.5%	10,150 円/㎡	3.0%	8,700 円/㎡	3.5%	10,150 円/㎡
	外壁	5.1%	14,790 円/㎡	3.5%	10,150 円/㎡	5.1%	14,790 円/㎡
	内部仕上	5.6%	16,240 円/㎡	5.6%	16,240 円/㎡	5.6%	16,240 円/㎡
	電気設備	4.0%	11,600 円/㎡	4.8%	13,290 円/㎡	4.0%	11,600 円/㎡
	機械設備	3.7%	10,730 円/㎡	1.7%	4,930 円/㎡	3.7%	10,730 円/㎡

(2) 今後 10 年間の事業計画

本計画では、「いちき串木野市第 2 次総合計画（平成 29 年 3 月）」や「【第 3 次】いちき串木野市教育振興計画（令和 2 年 2 月）」並びに、「いちき串木野市公共施設等総合管理計画（平成 28 年 3 月）」等を基本的な方針として整備の事業計画を推進します。前項で行った従来型と長寿命化型とのコスト比較の結果、長寿命化型の方がコストの効果があることから、長寿命化を施し延命措置を行うことを計画の基本とします。

ただし、コスト比較した長寿命化型での工事を実際に行くと、建築後 40 年以上経過した建物が全て長寿命化の工事となり、今後 10 年間で 65 億円（年当りの平均は 6.5 億円）が必要となります。これは市の財政状況や工事の管理体制を考えると、難しい課題となります。

そのため、市の整備計画の方針や方向性を踏まえ、なるべく事業費の平準化を図ったうえで、学校施設等ごとに順次整備を行っていきます。

その結果、10 年間の整備に係る事業費は 25 億円（年当たりの平均は 2.5 億円）となります。ただし、今後の学校計画の方針や市の財政方針及び施策等に変化が生じた場合には、事業計画の見直しを行います。

① 維持管理を行う建物

比較的建築年度が新しく、建物の状態が良好な学校や今後の学校づくりの推進対象となる学校施設については、適切な管理を施し、現状の規模や機能の維持管理を行います。

② 長寿命化改修による延命措置の実施

建築後 40～50 年程度の建物については、健全度や建築年度を勘案し整備時期を定め、長寿命化改修を実施します。

長寿命化改修工事中は校舎及び屋内運動場を使用できなくなることもあります。近隣に代替となる施設があるか若しくは建設場所を含めた仮設校舎等の建設が可能であるか等、事前に検討を行う必要があります。

③ 予防保全による大規模改造の検討

建築後 20 年以上が経過した学校施設は、大規模改造の対象時期となります。市の財政状況や他の整備状況と調整を行い、予防保全を目的とした大規模改造整備を検討します。

④ その他の部位修繕対応

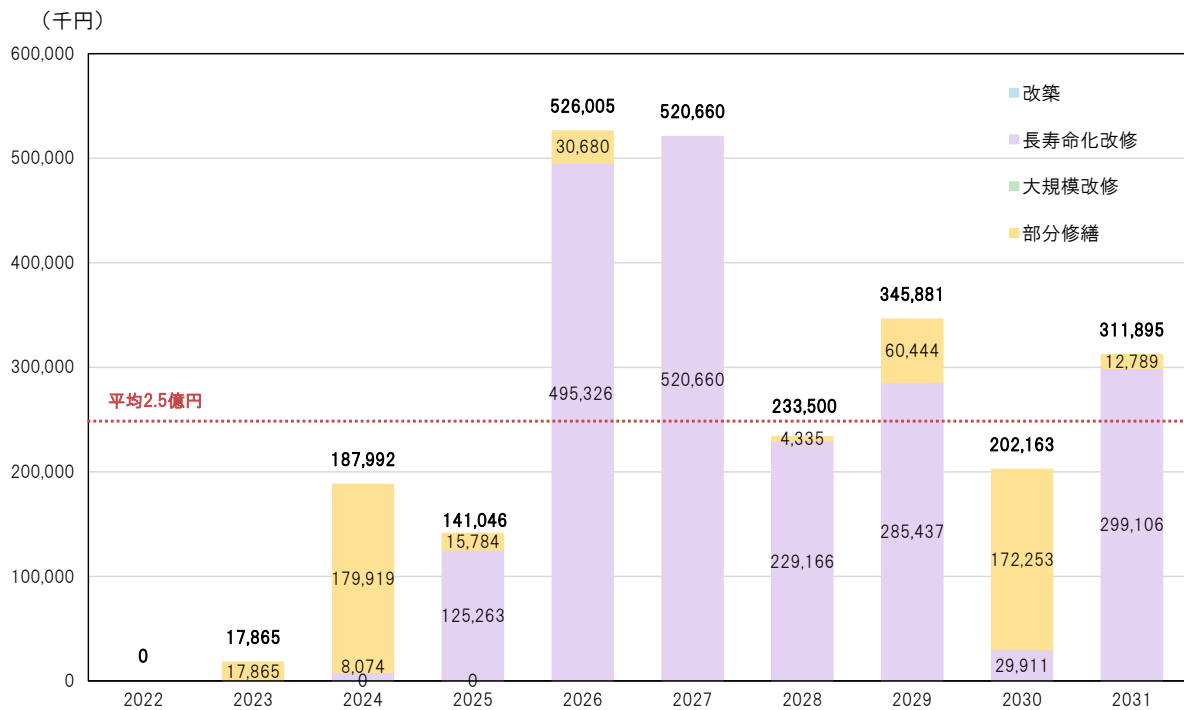
建築年度は新しいが、緊急性の高い修繕が必要な学校施設や長寿命化を施しても目標とする耐用年数までの期間が短い学校施設は、劣化状況評価の C 及び D 判定箇所の部位修繕を行います。なお、C 判定は 10 年以内、D 判定は 5 年以内の工事を目指します。

⑤ 市で計画する他の整備事業との整合

市では長寿命化改修工事とともに、国が令和 7 年度までに整備を進めるバリアフリー対応についても計画を推進します。

表：今後 10 年間の事業計画

工事種別	単位：千円										計
	1年目 2022	2年目 2023	3年目 2024	4年目 2025	5年目 2026	6年目 2027	7年目 2028	8年目 2029	9年目 2030	10年目 2031	
改築	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
長寿命化改修	0	0	8,074	125,263	495,326	520,660	229,166	285,437	29,911	299,106	1,992,941
大規模改修	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
部分修繕	0	17,865	179,919	15,784	30,680	0	4,335	60,444	172,253	12,789	494,068
計	0	17,865	187,992	141,046	526,005	520,660	233,500	345,881	202,163	311,895	2,487,009



図：今後 10 年間の事業計画

(3) 事業推進のための財源

学校施設の改造、改修、改築を支援するため、国では「義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律」等に基づき、公立学校施設の整備に関する補助事業を定め、支援を行っています。学校施設等の整備にあたっては、これらの補助事業を活用しながら必要な対応に取り組んでいきます。

表：国庫補助関係

項目	大規模改造事業	長寿命化改良事業	改築事業
趣旨	文部科学省の学校施設環境改善交付金における対象事業の一つ		
	大規模な改修を行う事業	長寿命化を目的とした改修を行う事業	改築を行う事業
	・経年により、通常発生する学校建物の損耗、機能低下に対する復旧措置等	・建物の耐久性を高めるとともに、現代の社会要請に応じた施設への改修	・構造上危険な状態にある建物や、教育を行うのに著しく不適当な建物で特別な事情があるものの改築
交付金算定割合	33.3%	33.3%	33.3%
地方財政措置	なし	40.0%	40.0%
実質的な地方負担	66.7%	26.7%	26.7%
上限額	2億円	なし	なし
下限額	7,000万円	7,000万円	なし
補助要件	・建築後20年以上経過したもの	・耐力度調査の結果、基準点以下となったもの	・危険建物の改築 耐力度調査の結果、基準点以下となったもの
	・外部及び内部の両方同時に全面的に改造するもの		・不適格建物の改築 Is値がおおむね0.3に満たないもの、又は保有水平耐力に係る指標（q）の値がおおむね0.5に満たないもの

資料：学校施設の長寿命化計画策定に係る手引き（平成27年4月）文部科学省

第6章 長寿命化計画の継続的な運営方針

1. 情報基盤の整備と活用

(1) 施設カルテ及び建物目視調査票の作成

本計画を策定するにあたって収集した学校施設等の基礎資料や、屋根・屋上、外壁、内部等の建物目視調査結果を、以下のような構成で施設カルテとして作成しています。

表：施設カルテの構成

【学校施設別】

図面等	施設全景写真、位置図、施設配置図
施設状況	学校種別、所管課、所在地、延床面積、校地面積、避難場所指定、避難場 所収容可能人員、施設保有状況、土地保有状況、複合施設区分
運営情報	運営方法、学校規模（規模分類、児童・生徒数、学級数）
コスト状況	年度別経常経費 (施設整備費、光熱水費、修繕費、委託費、年間コスト)

【棟別】

基本情報	施設名、棟名、調査番号・棟番号、学校種別、建物用途、建築年度・築年 数、構造、階数、延床面積、耐震基準、耐震診断、耐震補強	
設備情報	生活環境（トイレのドライ化、木質化）、省エネ化（太陽光発電、屋上緑 化）、バリアフリー（エレベーター、多目的トイレ、点字ブロック、手すり、スロープ）	
改善履歴	年度、種別、工事名称、費用	
評価表	外部	劣化状況（屋根・屋上、外壁）、劣化状況部位写真
	内部	劣化状況（床・壁・天井、内部建具、間仕切等、照明器具、エアコン）、劣化 状況部位写真
	電気・機械	—

(2) データベース及び簡易マニュアルの作成

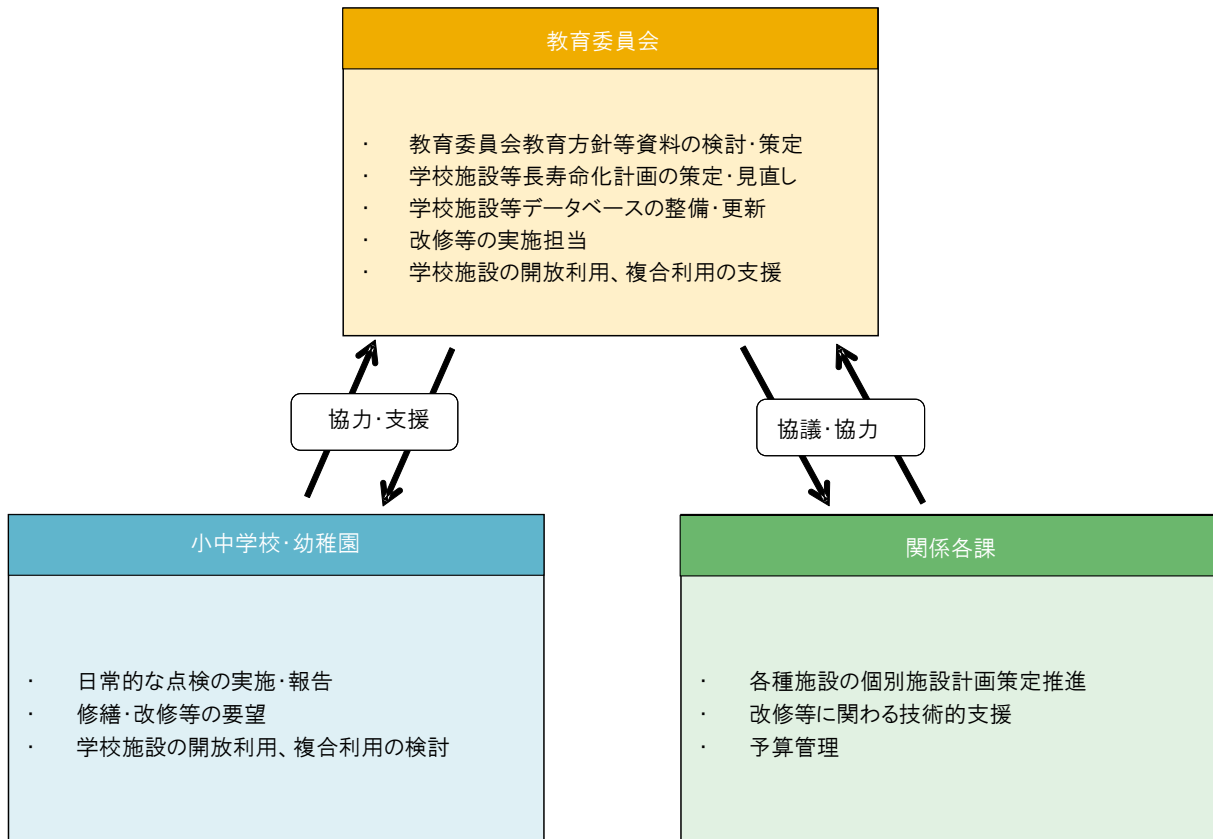
施設カルテの情報は、データベース化し、パソコン上で閲覧でき、情報の一元化、共有化、継続化を図れるようにし、職員の誰もが簡単に操作できる簡易マニュアルを作成します。

(3) データベースの活用

管理データベースは、今後の維持管理の効率化や最適化を図るとともに、改築や改修計画等の基礎的データとして、長期にわたり活用していきます。

2. 推進体制等の整備

本計画に基づいて、担当部署と各小中学校・幼稚園の関係者などが協力・連携を図りながら、必要な改修等を計画的・効率的・継続的に取り組んでいくことが必要です。さらに、他の公共施設の長寿命化計画との関係や財政状況、改修の検討に必要な技術的支援等、関係各課と協議・協力しながら推進するための体制を構築し、庁内横断的な取り組みを行っていきます。



図：学校施設等長寿命化計画の推進体制

3. フォローアップ

効率的・効果的な施設整備を進めていくためには、本計画に基づき適切な改修や維持管理を行うだけでなく、常に施設の現状を把握し、問題点を検証・改善するとともに、計画の進捗状況や目標達成状況を正確に把握するというPDCAサイクルを確立し、的確にフォローアップをしていきます。

また、本計画は計画の進捗状況のフォローアップの結果や社会環境の変化等の状況を踏まえ、必要に応じ見直しを行うこととします。

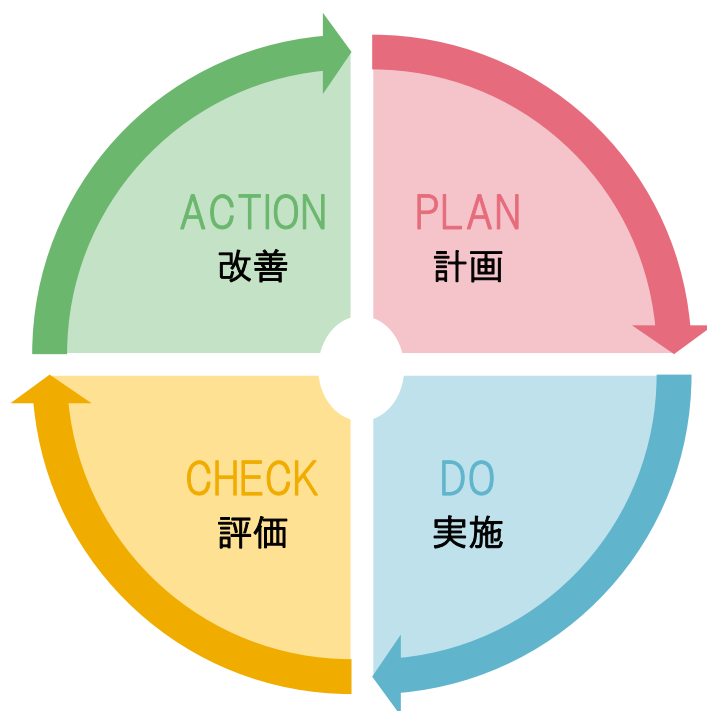


図:PDCA サイクルイメージ